

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第256集

東村遺跡群

# 山伏木遺跡

長野県佐久市上平尾山伏木遺跡発掘調査報告書

2019.3

佐久市教育委員会







佐久市埋蔵文化財調査報告書 第256集

東村遺跡群

# 山伏木遺跡

長野県佐久市下平尾山伏木遺跡発掘調査報告書

2019.3

佐久市教育委員会





山伏木道跡空中写真



山伏木道跡 D18 号土坑出土土器



山伏木道跡 D19 号土坑出土土器



山伏木道跡埋篋 1



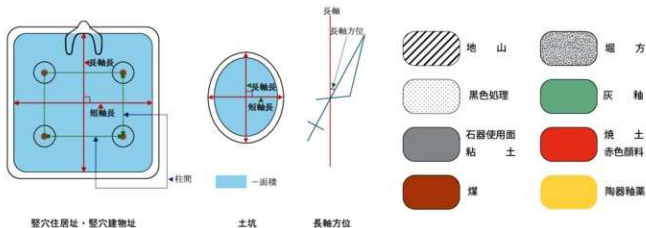
## 例 言

- 1 本書は長野県佐久市に所在する山伏木遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は森泉建設工業が行う宅地造成工事に伴う記録保存を目的に佐久市教育委員会が実施した。
- 3 遺跡名及び所在地 山伏木（S H Y） 佐久市下平尾 1274-6 他
- 4 調査期間及び面積  
発掘作業 平成元年 6 月 28 日～7 月 20 日  
整理作業 平成元年 7 月 21 日～平成 2 年 3 月 31 日  
平成 29 年 4 月 3 日～平成 31 年 3 月 31 日  
調査面積 1,900㎡
- 5 発掘作業及び平成 2 年 3 月 31 日までの整理事業については、原因者負担により実施し、平成 29 年 4 月 3 日～平成 31 年 3 月 31 日までの整理事業及び報告書刊行は全額を国庫補助金及び市費の公費により作成した。（平成 29・30 年度市内遺跡発掘調査事業）
- 6 本書に掲載した地図は佐久市発行の都市計画図（1：2,500）、佐久市教育委員会作成の遺跡詳細分布図（1：5,000）である。
- 7 本書に掲載した遺構図は簡易描り方で作成されたものを、(株)CUBIC「遺構君」に取り込みデジタル化し、Adobe イラストレーターで調整した。
- 8 遺物実測図は、当時の調査担当者が作成したものはそのまま使用し、未実測のものは手取り実測し、Adobe イラストレーターでデジタルトレースした。
- 9 遺構写真は当時の調査担当者が撮影したモノクロネガをスキャニングし、遺物写真はデジタル一眼レフカメラで撮影し、Adobe フォトショップで補正を行った。
- 10 本書の作成は Adobe インデザインを用い小林が行った。
- 11 本書及び発掘調査の図面・写真などの記録及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

## 凡 例

- 1 遺構の略記号は竪穴住居址－H、土坑－D、集石土坑－S D、竪穴建物址－T a、ピット－P である。
- 2 挿図の縮尺は遺構 1 / 80、遺物 1 / 4 を基本とする。これ以外のものは挿図中に縮尺を記した。
- 3 遺構の海拔標高は、水系標高をスケール上に「標高」と記してある。
- 4 土層の色調は 1999 年版「新版標準土色帖」に基づいた。
- 5 調査区グリッドは公共座標の区割りにしたが、4 × 4 m 間隔で設定されている。座標は旧測地系である。
- 6 遺物挿図番号、遺物写真番号、遺物観察表番号は一致する。
- 7 遺構の計測値は下図に示した部分の測定値である。面積は床面積、壁残高は最大値である。
- 8 挿図中の網掛けは以下の表現である。

\* D19 号土坑 1 の土器について綿田弘実、寺内隆夫の両氏に貴重な教示を得た。記して感謝の意を表します。



## 目 次

例言・凡例

目次

第Ⅰ章 発掘調査の経緯	11
第1節 調査の経緯	11
第2節 調査体制	11
第3節 遺跡周辺の環境	12
第4節 検出遺構・遺物の概要	14
第Ⅱ章 遺構と遺物	15
第1節 住居址	15
第2節 土坑	24
第3節 集石土坑	43
第4節 竪穴建物址	54
第5節 埋篋	54
第5節 ビット	55
第6節 遺構外出土遺物	55
第Ⅲ章 まとめ	57
写真図版 1～28	
報告書抄録	
奥付	

## 挿図目次

第1図 山伏木遺跡の位置 (1:5,000)	11	第21図 土坑5	33
第2図 周辺遺跡分布図	13	第22図 土坑6	34
第3図 遺跡周辺字切図	14	第23図 土坑7	35
第4図 基本順序模式図	15	第24図 土坑8	36
第5図 H1号住居址	16	第25図 土坑9	37
第6図 H2号住居址	17	第26図 土坑10	38
第7図 H3号住居址 (1)	17	第27図 土坑11	39
第8図 H3号住居址 (2)	18	第28図 土坑12	40
第9図 H4号住居址 (1)	20	第29図 土坑13	41
第10図 H4号住居址 (2)	21	第30図 土坑14	42
第11図 H5号住居址 (1)	22	第31図 土坑15	43
第12図 H5号住居址 (2)	23	第33図 集石土坑	45
第13図 H5号住居址 (3)	24	第34図 集石土坑	46
第14図 H6号住居址 (1)	25	第35図 集石土坑	47
第15図 H6号住居址 (2)	26	第36図 集石土坑	48
第16図 H7号住居址	27	第37図 集石土坑	49
第17図 土坑1	27	第38図 集石土坑	50
第18図 土坑2	28	第39図 竪穴建物址 (1)	51
第19図 土坑3	29	第40図 竪穴建物址 (2)	52
第20図 土坑4	30	第41図 埋篋	53

第42図	ビット出土遺物	55
第43図	ビット(1)	56
第44図	ビット(2)	57
第45図	遺構外出土遺物(1)	58

第46図	遺構外出土遺物(2)	59
第47図	遺構外出土遺物(3)	60
第48図	遺構外出土遺物(4)	61
第49図	山伏木遺跡全体図	75

## 表目次

遺構計測表(1)	52
遺構計測表(2)	53
H1号住居址出土遺物観察表	54
H2号住居址出土遺物観察表	54
H3号住居址出土遺物観察表(1)	54
H3号住居址出土遺物観察表(2)	55
H4号住居址出土遺物観察表(1)	55
H4号住居址出土遺物観察表(2)	56
H5号住居址出土遺物観察表(1)	56
H5号住居址出土遺物観察表(2)	57
H6号住居址出土遺物観察表(1)	57
H6号住居址出土遺物観察表(2)	58
H7号住居址出土遺物観察表	58
D2号土坑出土遺物観察表	58
D3号土坑出土遺物観察表	59
D4号土坑出土遺物観察表	59
D5号土坑出土遺物観察表	59
D6号土坑出土遺物観察表(1)	59
D6号土坑出土遺物観察表(2)	60
D7号土坑出土遺物観察表	60
D9号土坑出土遺物観察表	60
D10号土坑出土遺物観察表	60
D15号土坑出土遺物観察表	60
D18号土坑出土遺物観察表(1)	60
D18号土坑出土遺物観察表(2)	61
D18号土坑出土遺物観察表(3)	62

D18号土坑出土遺物観察表(4)	63
D18号土坑出土遺物観察表(5)	64
D19号土坑出土遺物観察表	64
SD1号土坑出土遺物観察表(1)	64
SD1号土坑出土遺物観察表(2)	65
SD2号土坑出土遺物観察表	65
SD3号土坑出土遺物観察表	65
SD4号土坑出土遺物観察表	65
SD5号土坑出土遺物観察表	66
SD6号土坑出土遺物観察表(1)	66
SD6号土坑出土遺物観察表(2)	67
SD7号土坑出土遺物観察表	67
SD8号土坑出土遺物観察表	68
Ta1号竪穴建物址出土遺物観察表	68
Ta2号竪穴建物址出土遺物観察表(1)	68
Ta2号竪穴建物址出土遺物観察表(2)	69
Ta3号竪穴建物址出土遺物観察表	69
埋壘1出土遺物観察表	69
埋壘2出土遺物観察表	69
ビット出土遺物観察表	69
遺構外出土遺物観察表(1)	70
遺構外出土遺物観察表(2)	71
遺構外出土遺物観察表(3)	72
遺構外出土遺物観察表(4)	73



# 第1章 発掘調査の経緯

## 第1節 調査の経緯

平成元年4月10日、株式会社森泉建設工業より東村遺跡郡山伏木遺跡内における宅地造成事業計画に伴う埋蔵文化財発掘の届出が提出された。同年6月26日佐久市教育委員会と株式会社森泉建設工業は保護協議を行ない、記録保存調査を行う事となった。6月28日埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結し、7月20日に調査を終了後、平成2年3月31日までに、遺物洗浄・注記・調査記録の整理等の作業を完了した。

平成30年度市内遺跡発掘調査事業の一環として本書を刊行した。

## 第2節 調査体制

### 平成元年

調査主体者	佐久市教育委員会	教育	長	大井 昭二 (6月退任) 大井 季夫 (7月就任)
事務局	佐久市教育委員会 社会教育課	次	長	茂木多喜男
		課	長	北沢 馨
		主	幹	相沢 幸男
		係	長	小平 實
			係	東城 公人 小林 正衛 林 幸彦 荻原 一馬 山浦 俊彦 須藤 隆司 羽毛田卓也 竹原 学 田村 和弘



第1図 山伏木遺跡の位置 (1:5,000)

調査担当者	須藤 隆司	竹原 学		
調査主任	佐々木宗昭			
調査員	浅沼ノブ江	飯沢つや子	磯貝 はな	市川 香里
	大井 文雄	柏原 松枝	金井八重子	香山 優子
	小金沢たけみ	堺 益子	白井おくに	内藤 治伸
	藤巻 辰江	丸山 勝子	丸山 澄	渡辺久美子

### 平成 29・30 年度

調査主体者	佐久市教育委員会	教 育 長	糊澤 晴樹				
事務局	社会教育部	部 長	萩原 幸一 (29年度)	青木 源 (30年度)			
	文化振興課	課 長	小林 義夫				
	企画	企 画 幹	小林登志朗 (29年度)	武者新一 (30年度)			
	文化財調査係	係 長	大塚 広樹 (29年9月まで)				
			塩川 宏幸 (29年10月から)				
		係	小林 眞寿	富沢 一明	上原 学	久保浩一郎	
			岩下 琴				
	臨時職員	臨時職員	森泉かよ子				
	調査担当者	調査担当者	小林 眞寿				
	調査員	調査員	甘利 隆雄	大矢 志穂	小林喜久子	小林 敏雄	
			堺 益子	清水 律子	田中ひさ子	花岡美津子	
			堀籠 滋子	宮川真紀子	山口ひとみ	柳沢 孝子	
			柳沢千賀子	山田 叔正	油井 満芳		

## 第3節 遺跡周辺の環境

### 1 遺跡の地理的環境

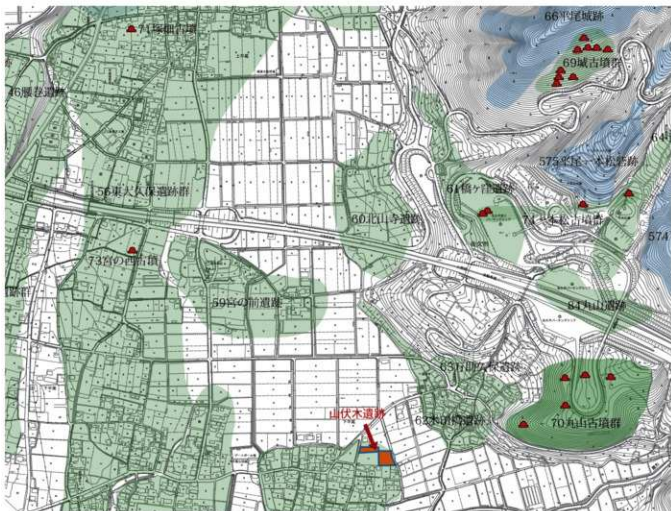
遺跡は、佐久山塊の北半部にあたる東部山地の主峰の一つである八風山から西に延びる尾根端部に位置する平尾富士の裾野に湯川により形成された沖積段丘面に立地する。標高は720m台であり、東側の平尾富士の裾野には万助川が南に向かい流下し、途中で間伽流山より南流した霞川と合流する。下平尾から安原、新子田にかけての香坂川に至る平尾用水東側の水田開発はこの二河川により成し遂げられたものと思われる。東部山地の基盤層は初谷中生層で、その上部に第三紀層類が厚く堆積し、更にその上部に溶結凝灰岩類や荒船火山岩類が分布している。荒船山の台地状地形を形成しているのは、石器石材として使用されるガラス質の安産岩である。また、平尾富士は第三紀火山の死火山であり、これに由来する火山岩類は平尾富士山頂付近から北は湯川左岸、西部は平尾集落、南は霞川まで分布する。遺跡が存在する平地は地質的には、浅間火山の軽石流二次堆積物に覆われている。土壌は黒ボク土で、植生は水田の雑草群落である。

### 2 遺跡の歴史的環境

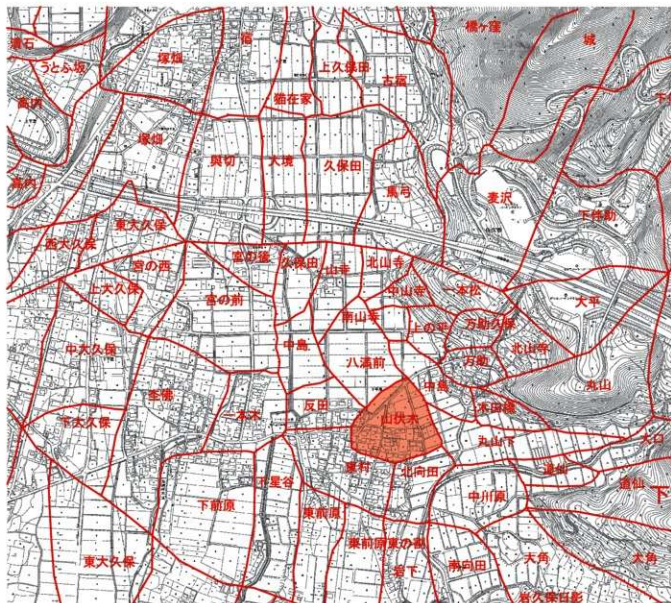
遺跡の東方の山地には数多くの古墳群が存在する。その内の大星尻古墳は昭和63年に上信越自動車道の工事に伴い長野県埋蔵文化財センターが、また一本松古墳群の1号～4号墳は平成4・5年平尾山のスキー場開発に伴い佐久市教育委員会が調査を行っている。これら5基の古墳は全て8世紀の築造であった。上信越自動車道に伴う長野県埋蔵文化財センターの調査は、大星尻遺跡・丸山遺跡・北山寺遺跡・東大久保遺跡・西大久保遺跡で行われており、大星尻遺跡では縄文時代中期前葉～中葉の遺構・遺物や近世墳墓などが検出されている。丸山遺跡からは縄文時代中期初頭や古墳時代前期初頭、平安時代の住居址等が発見されている。北山寺遺跡では平安時代後葉の集落、および中世の遺構群と、近世の墓域が検出されている。東大久保・西大久保の両遺跡では縄文～中世の遺物と、土坑や溝址などの少数の遺構が検出されている。平尾山のスキー場開発に伴っては、下伴助A・B遺跡から縄文から中世にかけての遺構・遺物が検出されており、下伴助A遺跡では平安時代の集落が発見され

ている。距離的には遺跡からは少し離れるが、西方の一段低い湯川の河岸段丘上に立地する腰巻遺跡では昭和62年佐久市埋蔵文化財調査センターが、また昭和62・63年には長野県埋蔵文化財センターによる調査が実施されており、弥生・古墳・平安時代の集落址が検出されている。発掘調査で出土したものではないが、昭和53年刊行の「平根村誌」に菖蒲平出土の両面加工の石槍が掲載されている。この地域で出土した最も古い時代の遺物であろう。発掘調査されたものは少ないが、周辺部には中世城郭が多く存在する。遺跡の北東に位置する平尾城とその関連施設や、遺跡南方に位置する燕城址、遺跡北方の白岩城跡などである。白岩城跡が平尾氏の居館跡、平尾城が山城とされる。平尾城の縄張想定図は数例が公表されているが、終戦直後の昭和23年米軍により撮影された航空写真を見ると、平尾城に限らず東信濃の山城縄張図は、大きな地形変化面以外はあくまでも参考に留めるべきだと考える。現在は山林であるが、当時は農地や木材の搬出路として山の斜面が使用されている状況が顕著である。平尾氏は、芦田・平原・相木氏などと同じ依田氏である。依田氏は、滋野氏が海野・祐津・望月の三氏に分かれるより以前に滋野氏より出た一族とも言われる。平尾氏関係の居館（白岩城跡）や山城（平尾城等）は15世紀中葉～16世紀末の年代のものであり、そのような背景から、この時期の遺構・遺物がこの地域に散見されるものと思われる。

字切図からみると宮の前・宮の後・宮の西など柴宮神社に係る字名が目につく、諏訪社であるが毎年の例祭には新柴の仮殿をつくり神体を奉安して祭りをするところから柴宮と呼ばれる。圃場整備により周辺の地形は壊変されているが、かなり大規模な方形の区画が読み取れる。創建年代は不明であるが、神社ではなく、館の可能性もあるのではないだろうか。高速道南の寺地名一北山寺・中山寺・南山寺・山寺はかつて存在した寺に由来するものであろう。北山寺という字名は漢徳寺西の山中にも存在する。伝承では猫在家にはかつて五間四方の塚があり「猫塚」と呼んだそうである。古墳であろうか？また、在家が集落を表すのか館や屋敷を表すのか、注意が必要である。山伏木と言う地名は山間に連なる集落のような意味らしい、東の丸山から続く傾斜面の裾野を言い表したものであろうか。この地域は、現行政区的には下平尾であるが、どちらかといえば安原方面の安養寺や英田神社の関係で捉えたほうが良い場所と思われる。また、新海神社の「神幸」神事に上平尾神幸があることも、この



第2図 周辺遺跡分布図



第3図 遺跡周辺字切図

地域の開発が古いことを物語っている。

### 3 基本層序

基本層序は3層からなる。Ⅰ層は耕作土で黒褐色（10YR3/2）を呈する。Ⅱ層は黒色土（10YR2/1）で、ローム粒・パミスを含む。Ⅲ層は暗褐色（10YR3/3）で径2センチ以下のパミス・ローム粒子を多含する。Ⅳ層が所謂「地山」であり、浅間火山の第一軽石流の堆積層である。遺構の検出は基本的に、Ⅳ層上面でを行った。

### 第4節 検出遺構・遺物の概要

検出された遺構・遺物の概要は以下のとおりである。

- 遺構 竪穴住居址－7軒（縄文・平安）、土坑－20基、集石土坑－8、埋裏－2、竪穴建物址－5  
ピット－42基
- 遺物 縄文土器、土師器、石器、陶磁器



## 第Ⅱ章 遺構と遺物

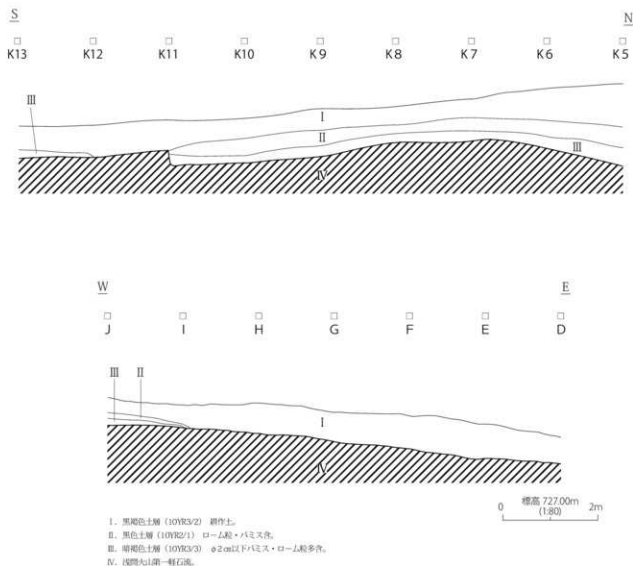
### 第1節 住居址

#### OH1号住居址（第5図）

Q3グリットで検出された。P9・31・38号ピットに切れ、主軸をN-22°-Wにとる。平面形態は隅丸長方形を呈する。長軸長3.81m、短軸長3.38m、壁残高0.11m、面積12.19㎡の規模を有する。カマドは北壁の東よりに存在するが、掘方状態に破壊されていた。西壁下には周溝が巡り、床面は幅約90cmほど他の床面よりも高くなっている。土層の観察からは住居の建て替えや、遺構の重複関係は認められないことから、所謂「ベッド状遺構」と思われる。ピットは掘方も含め3基検出されているが、主柱穴ではない。

遺物は土師器と石器が出土している。土師器には坏・坏蓋・武威甕が認められる。坏はロクロ成型で底部を欠損するが、外底周縁にヘラケズリが施される。内面は黒色処理である。坏蓋は須恵器の模倣形態である。佐久市内の遺跡では、この時期だけ須恵器模倣形態の土師器坏蓋が存在する。内面ヘラミガキ後黒色処理、つまみは貼り付けられている。武威甕は「コ」字口縁である。石器は打製石斧、横刃型石器、磨石、砥石が出土している。8の磨石、9の砥石は本址に伴う可能性が強いが、他は縄文時代の石器であり混入品と思われる。

以上の出土遺物の特徴から本址は聖原編年の奈良・平安時代V期-9世紀前半の所産と考えられる。



第4図 基本層序模式図

## OH2号住居址 (第6図)

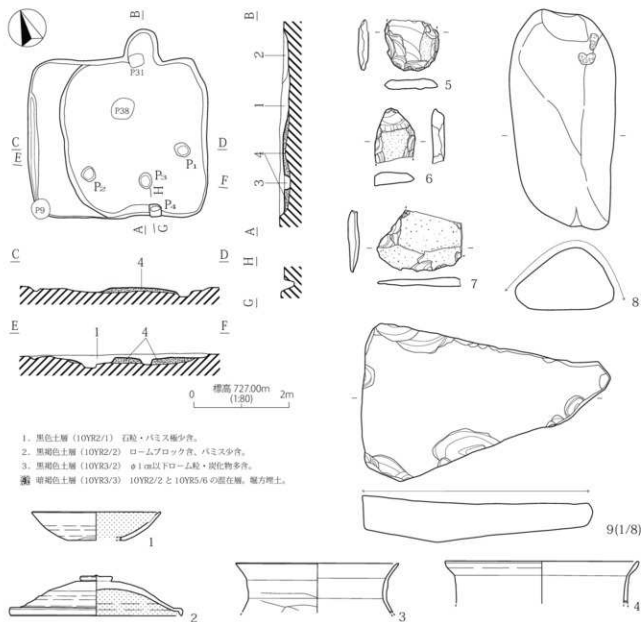
N4グリット周辺で検出された。P2・3・39・40号ピットに切れ、ほぼ真北に主軸をとる。北西隅が北東隅よりも張り出し、南北方向の中央部分が窄まる不整な隅丸長方形の平面形を呈する。長軸長3.11m、短軸長2.93m、壁残高0.07m、面積8.17㎡の規模を有する。カマドは北壁の中央部分に存在するが、掘方状態に破壊されていた。ピットは掘方も含め1基しか検出されていない。周溝は有さない。

遺物は土師器と須恵器が出土している。土師器には坏・甕の器種が認められる。坏のロクロからの切り離しは回転糸切であるが、その後周縁部分も含めヘラケズリ調整を加えている。内面はヘラミガキ後に黒色処理が施される。2の外面には墨書が認められるが判読できない。甕は武蔵甕とロクロ甕が出土している。須恵器は短頸壺が1点出土している。

以上の出土遺物の特徴から本址は聖原編年の奈良・平安時代V期-9世紀前半の所産と考えられる。

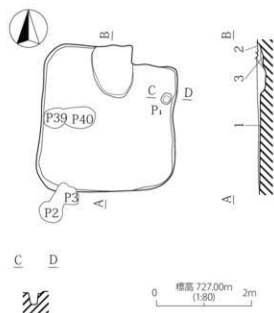
## OH3号住居址 (第7・8図)

N3グリット周辺で検出され、他遺構との重複関係は有さない。ほぼ真北に主軸をとる隅丸方形の平面形を呈する。長軸長4.02m、短軸長3.87m、壁残高0.24m、面積12.2㎡の規模を有する。カマドは北壁中央部分に構

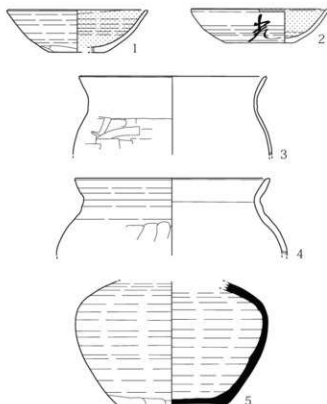


1. 黒色土層 (10YR2/1) 石粒・パミス極少量。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) ロームブロック状、パミス少量。
3. 黒褐色土層 (10YR3/2)  $\phi$  1cm以下ローム粒・炭化物多量。
4. 暗褐色土層 (10YR3/3) 10YR2/2と10YR5/6の層在層。掘方埋土。

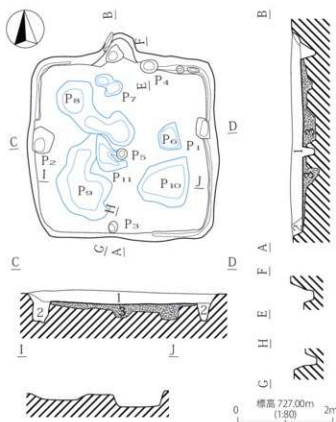
第5図 H1号住居址



1. 黒色土層 (10YR2/1) 石粒・パミス粒子極少。
2. 黒褐色土層 (10YR3/2) 炭化物・焼土・灰多。
3. 黒色土層 (10YR2/1) 炭化物・焼土・灰多。



第6図 H2号住居址

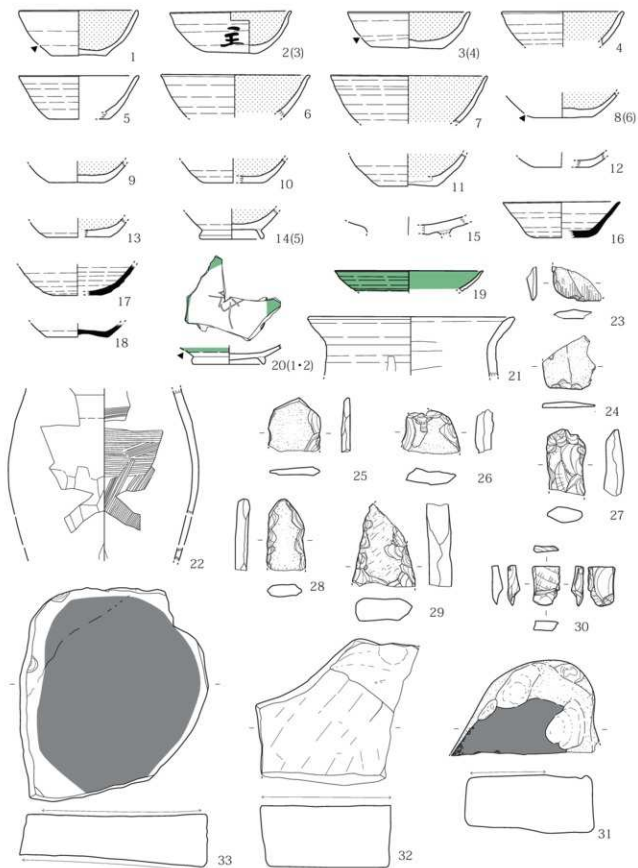


1. 黒色土層 (10YR2/1) φ2cm以下パミス多。
2. 褐色土層 (10YR4/4) ロームブロック多。
3. 暗褐色土層 (10YR3/3) 灰土・腐方埋土。ローム粒子・パミスを含む。

第7図 H3号住居址(1)

築されるが、掘方状態に破壊されていた。南壁下中央から西壁下中央部分を除く壁下には周溝が巡らされている。P1・P2が主柱穴である。このような、短軸の相対する2辺の壁中央部分に主柱を配置する形態は、奈良時代の小型の住居址には散見されるが、平安時代では本期に特徴的な形態である。P3は出入口施設と思われるが、掘方検出のものも含め、他は性格不明である。カマドは煙道部分の構築材と思われる石が1点だけ残存しており、石芯を粘土で被覆した石組粘土カマドであったものと思われる。

遺物は土師器、須恵器、灰軸陶器、石器が出土している。土師器には坏・碗・甕の器種が認められる。坏・碗のロクロからの切離しは回転糸切で、内面には黒色処理が施される。碗の高台は貼付である。15の碗については盤の可能性もあるが、残存部分が限られるため判断できない。坏2の外面には「主」の墨書が認められる。甕は2点共にロクロ甕で体部上半はロクロナデ、下半にはヘラナデが施される。通常はナデ調整により消去されるため痕跡は残らないが、成型には叩きが用いられる。須恵器は坏が3点出土している。ロクロからの切離しは回転糸切で、16は内外面に火禰痕が認められる。灰軸陶器は碗が2点出土した。施軸はつけ掛けである。20の見込みには「財」の一字が刻書されている。石器は打製石斧・加工痕のある剥片・磨石・砥石が出土している。磨石・砥石は本址に伴う可能性があるが、他は縄文時代の



第8図 H3号住居址(2)

石器であり混入品である。

以上の出土遺物の特徴から本址は聖原編年の奈良・平安時代V期—9世紀前半の所産と考えられる。

#### OH 4号住居址 (第9・10図)

I 11グリット周辺で検出され、カクランに切られるが他遺構との重複関係は有さない。主軸をN—21°—Eにとる。平面形態は円形を呈する。長軸長3.69m、短軸長3.51m、壁残高0.13m、面積9.34㎡の規模を有する。14基検出されたピットのうち、P1—P4の4基が主柱穴で、P5・P6が出入口施設に伴うものと思われる。出入口部分以外の壁下には周溝が巡らされており、貯蔵穴と思われるP7が出入口の東脇の壁下に存在する。炉は本来方形の石囲炉であったと思われるが、炉石が抜き取られ掘方状態になっていた。位置的には住居の中心からやや北西に偏って構築されていた。屋内埋裏は存在しなかった。

遺物は縄文土器、土師器、石器・石製品が出土している。縄文土器は1—34までの34点が出土しているが、2以外は破片である。時期的には1と15が前期、27—34が中期末から後期初頭の他は中期後半のものである。中期後半以外の土器は混入品と思われるが、中期末—後期初頭のものは数量的にもまとまっており、本址を切る遺構に伴っていたのかも知れないが、遺構は把握出来なかった。中期後半の土器は加曾利E式が11点と最も多く、次いで所謂「郷土式」が5点、唐草文系が3点、曾利式が2点である。加曾利E式にはIとII式が存在するが、IIが大半を占めている。前期の土器片は1が諸磯b式、15は羽状縄文が施されるが、胎土に繊維は含まない。中期末後期初頭の土器は微隆帯文のものや帯縄文のものが存在する。土師器35は混入品で、内面黒色処理が施される鉢である。石器・石製品には打製石斧、磨・敲石、石皿、加工痕のある剥片が出土している。打製石斧は28以外の2点は破損している。磨・敲石は1面を磨り面として使用しているが、側面に敲打痕が認められる。石皿は2点共に定型化した石皿の形態ではないが、表裏2面に顕著な使用痕が認められる。加工痕のある剥片はガラス質安産岩製で側辺の1辺に加工を加え刃部を造り出している。

以上の出土遺物の特徴から本址は縄文時代中期後半加曾利E II式期の所産と考えられる。

#### OH 5号住居址 (第11—13図)

G 10グリット周辺で検出され、Ta2・3・4・5、JD3・カクランに切られる。主軸をN—13°—Wにとる。平面形態は円形を呈する。長軸長5.33m、短軸長4.9m、壁残高0.14m、の規模を有する。16基検出されたピットのうち、P1—P7が主柱穴と思われる。調査範囲部分の壁下には周溝が巡らされている。炉は住居の中心やや北よりに構築されているが、炉石は全て抜き取られており掘方状態であった。炉の東側は長方形に、炉を含め床面よりも僅かに深くなっていた。

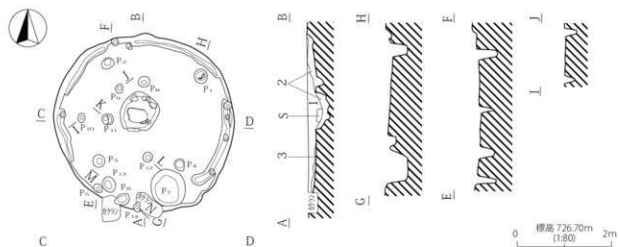
遺物は縄文土器、石器・石製品・鉄器・鉄製品が出土している。縄文土器には深鉢と浅鉢の器種が認められる。深鉢は1—5・14—17が中期後半加曾利E II式、11がE I式、6・7・12・13・19は加曾利E式であるが時期を特定できないものである。10・23は中期後半曾利式で、10はI式である。8・9・21・25は中期後半の土器ではあるが、それ以上の細分ができないものである。20の勝坂式、22・24の焼町土器は中期中葉の土器であり混入品と思われる。浅鉢はほとんどものに赤採が施されている。中期後半のものであるが、それ以上の細分は出来ない。石器・石製品には石鏃、石錐、打製石斧、凹・磨・敲石、磨石、台石、横刃型石器、加工痕のある剥片の器種がある。定型化した形態の石器は少なく、33の石鏃や35の石錐、36の打製石斧、37の凹・磨・敲石だけであり、他は用途に合った石材をそのまま使用しているような印象である。石材的には打製石器の大半はガラス質安産岩を用いており、小型の石器である石鏃や石錐に黒曜石を用いている。鉄器・鉄製品は角釘が1点出土している。混入品である。

以上の出土遺物の特徴から本址は縄文時代中期後半加曾利E II式期の所産と考えられる。

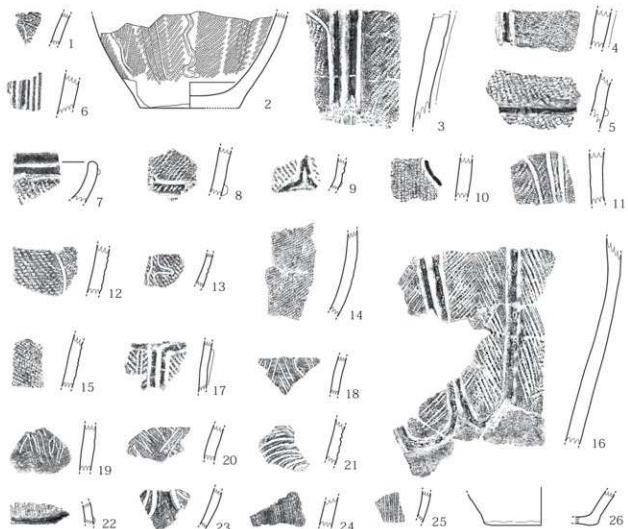
#### OH 6号住居址 (第14・15図)

F 6グリット周辺で検出された。カクランに切られる以外は他遺構との重複関係は有さない。主軸をN—23°—Wにとり、円形の平面形態を呈する。長軸長4.88m、短軸長4.85m、壁残高0.32m、の規模を有する。ピットは15基検出されたが主柱穴は判然としない。周溝は有さない。炉は住居の中心に構築されているが、炉石は全て抜き取られており掘方状態であった。

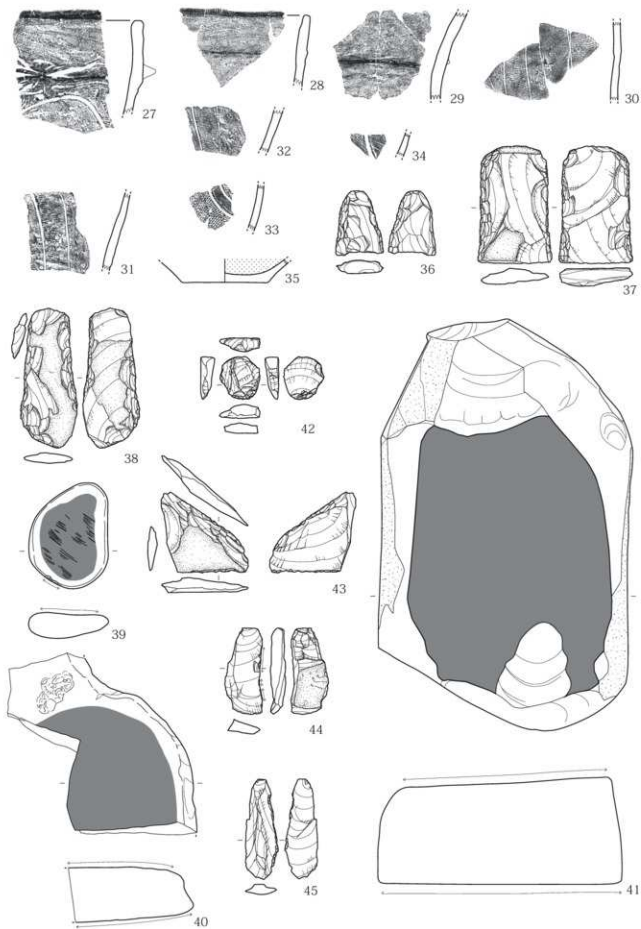
遺物は縄文土器、石器・石製品が出土している。縄文土器には深鉢、浅鉢、釣手の器種が認められる。深鉢1は総期末「塚田式」の深鉢であり、混入品である。2—9・11は「焼町土器」、10・14—16・18—20は「勝坂式」土器である。勝坂式土器には14・15のような新道式段階のものも混入するが、井戸尻I式段階のものが主体である。共存する焼町土器も寺内の「川原田IV・V期」のものである。尚、14については土器片円盤とし



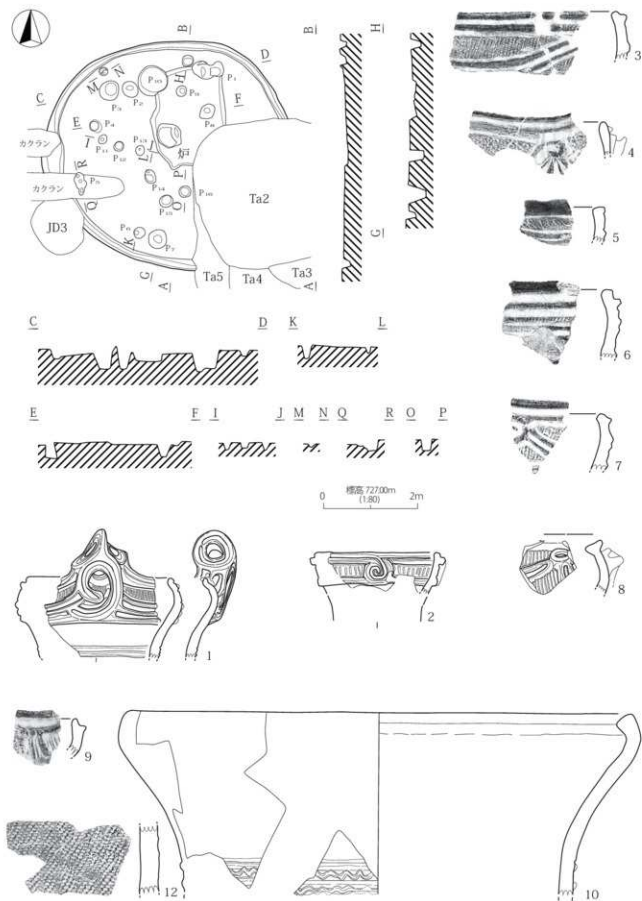
1. 黒色土層 (10YR2/1)  $\phi$ 3m以下パミス・ローム粒子多含。
2. 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム粒多含、パミス片。
3. 黒色土層 (10YR2/1) 炭化物・小石多含。



第9図 H4号住居址(1)

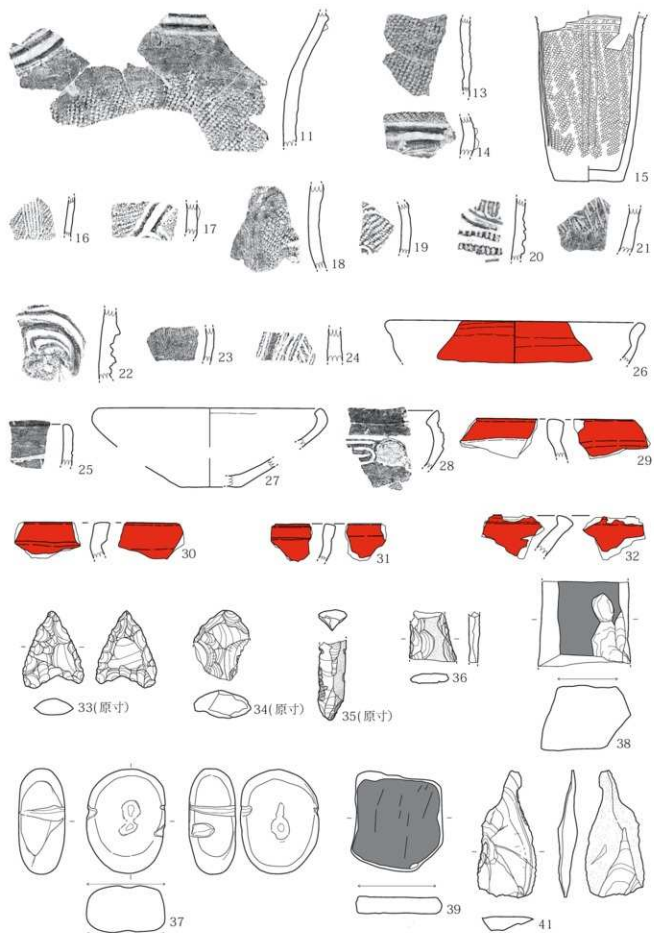


第10图 H4号住居址(2)

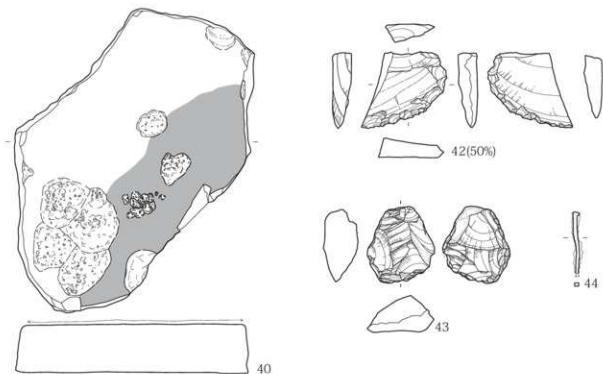


第11図 H5号住居址(1)





第12图 H5号住居址(2)



第13図 H5号住居址(3)

て捉えた方がよいのかもしれない。浅鉢は基本的に赤彩が施される。無文のものが多く時期は特定できないが、22のような有文のものも存在する。勝坂式の深鉢と同時期と捉えられよう。28の釣手は破片であり全容は不明であるが、口唇部の文様要素から本址に伴う時期のものと推測される。石器・石製品には石鏃、打製石斧、ピエス・エスキュー、加工痕の有る剥片、磨石、磨・凹石の器種が認められる。小型の石器である石鏃やピエス・エスキューは黒曜石製であるが、他の打製石器の多くはガラス質安山岩製である。40は頁岩製であり、駒込頁岩の可能性を有する。

以上の出土遺物の特徴から本址は縄文時代中期中葉勝坂Ⅳ期の所産と考えられる。

#### OH7号住居址(第16図)

I5グリッドで検出された。北方向に調査区外に延びるため全容は不明である。調査範囲においては他遺構との重複関係は有さない。壁残高0.29mの規模である。6基検出されたピットのうち、P6は主柱穴の可能性が高い。床面上で1基検出された土坑は本址に伴うものと思われるが、性格は不明である。調査範囲には周溝や炉は存在しなかった。

遺物は縄文土器と石器・石製品が出土している。縄文土器には深鉢と浅鉢の器種が認められる。深鉢は全て破片資料であるが、時期的には時期的には中期後半以外のものは含まれない。1は加曾利E式、2は所謂「郷土式」であるが、3・4については特定できない。浅鉢は無文の底部である。赤彩は認められない。石器・石製品は打製石斧と使用痕のある剥片が出土している。

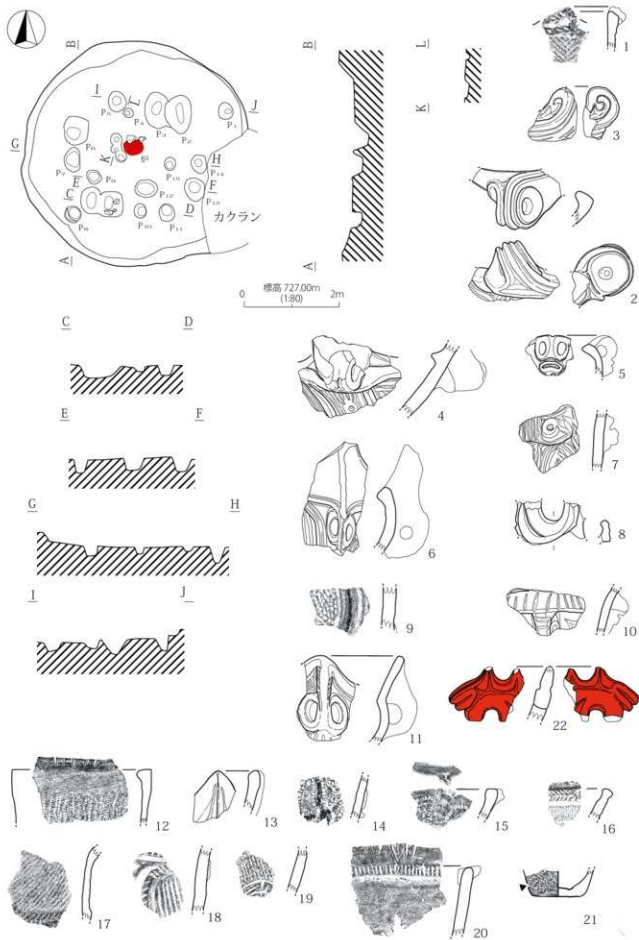
以上貧弱な出土遺物ではあるが、その特徴から本址は縄文時代中期後半の所産と考えられる。

## 第2節 土坑

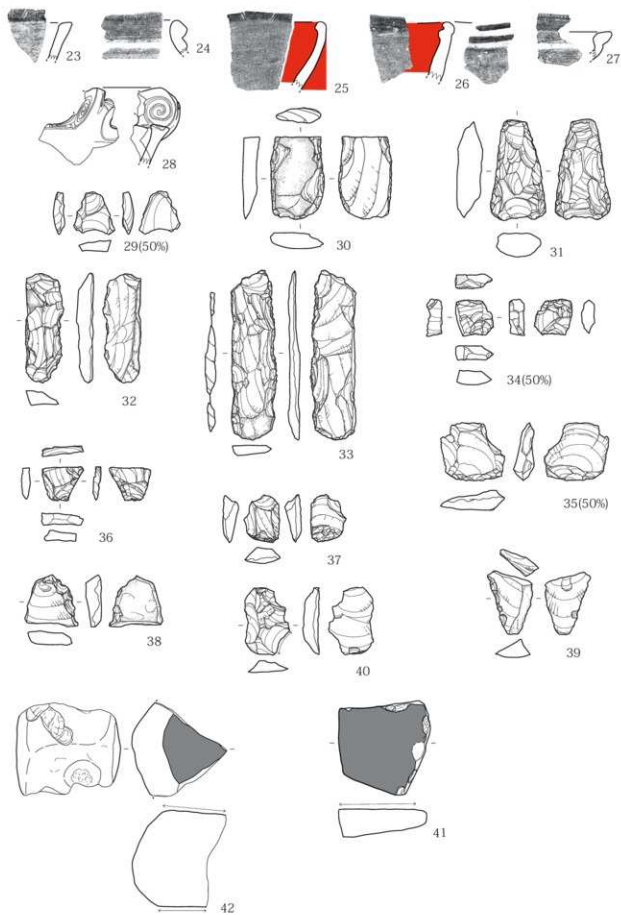
#### OD1号土坑(第17図)

T4グリッドで検出された。SD3号集石土坑を切る。主軸をN-0°-Eにとり、長軸長1.46m、短軸長1.35m、壁残高0.41m、面積1.58㎡の規模である。

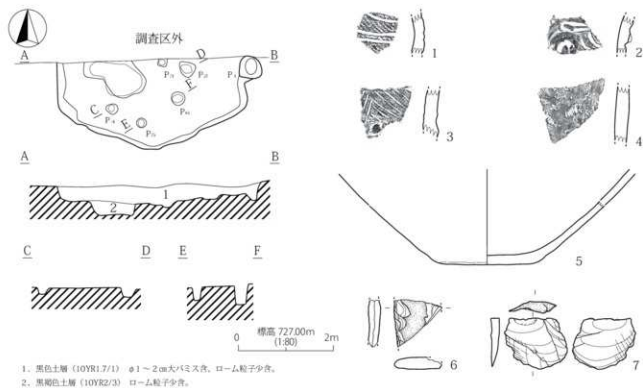
出土遺物は皆無であるが、SD3を切ることから近世以降の所産と考えられる。



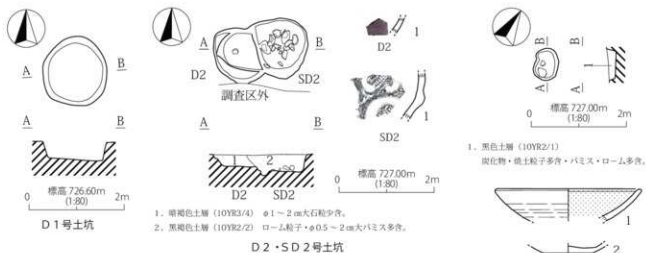
第14図 H6号住居址(1)



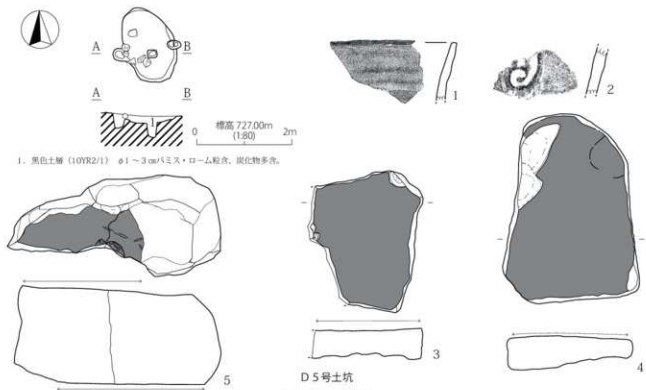
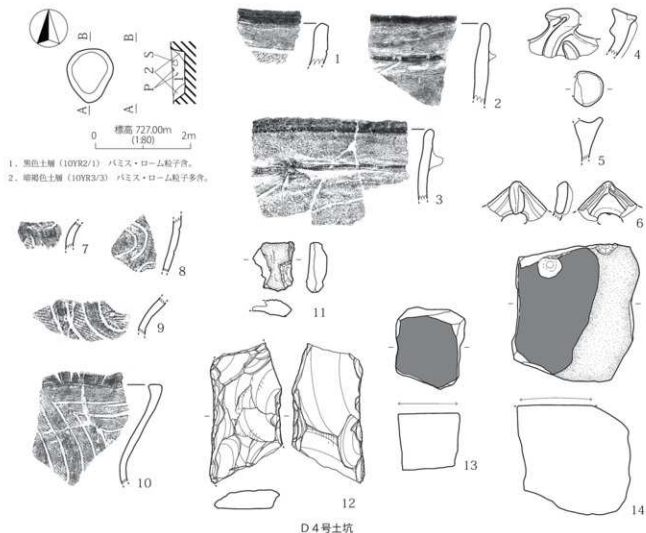
第15图 H6号住居址(2)



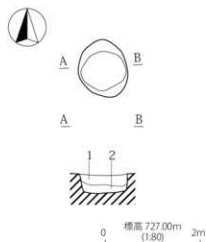
第16図 H7号住居址



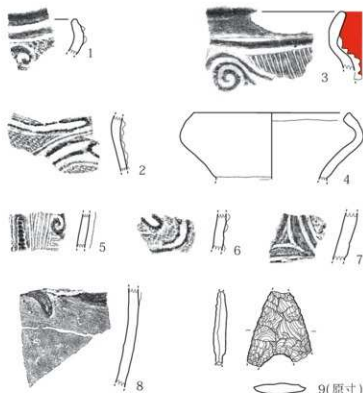
第17図 土坑1



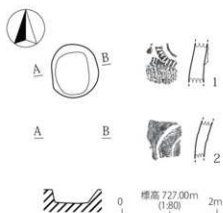
第18図 土坑2



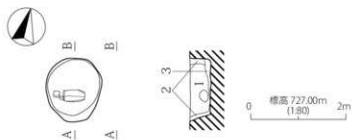
1. 黒褐色土層 (10YR2/3)  $\phi$ 5cm以下パミス多量、ローム粒子少許。
2. 褐色土層 (10YR4/4)  $\phi$ 3cm以下パミス少許、ローム粒子多量。



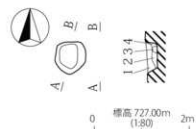
D 6号土坑



D 7号土坑



1. 黒褐色土層 (10YR2/2)  $\phi$ 6cm以下パミス多量、ローム粒子少許。
2. 黒褐色土層 (10YR2/3)  $\phi$ 4cm以下パミス・ローム粒子多量。
3. 褐色土層 (10YR4/4) ローム粒子多量。



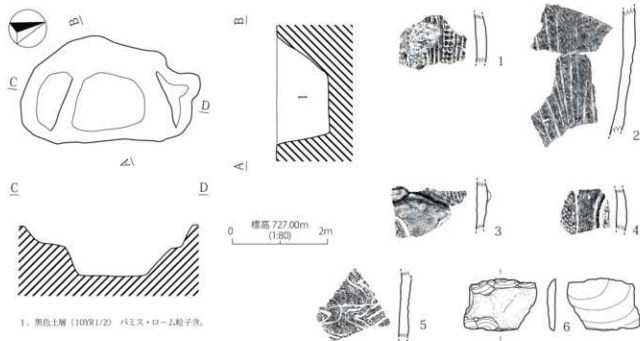
1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 炭化物・ローム粒子多量。
2. 褐色土層 (10YR4/4) ローム粒子多量。
3. 黒褐色土層 (10YR2/3) ロームブロック。
4. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子多量。

D 8号土坑



D 9号土坑

第 19 図 土坑 3



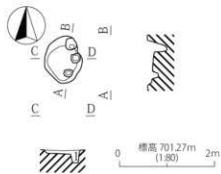
1. 黒色土層 (10YR1/2) ハミス・ローム粒子多。

D10号土坑



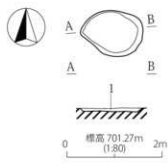
1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子多、 $\phi$ 3cm以下ハミス少。
2. 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム粒子多、 $\phi$ 4cm以下ハミス少、炭化物極少。

D11号土坑



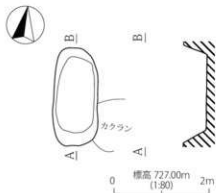
1. 黒褐色土層 (10YR2/3)  $\phi$ 2cm以下ハミス・ローム粒子少。

D12号土坑



1. 黒褐色土層 (10YR2/3)  $\phi$ 2cm以下ハミス・ローム粒子少。

D13号土坑



D14号土坑

第20図 土坑4



#### OD 2号土坑 (第17図)

P 4グリットで検出された。SD 2号集石土坑に切られる。全容が不明なため、壁残高0.22 m以外の規模は不明である。平面形態は判然としなが、2段落の底面を形成する。

出土遺物は17世紀の志野焼の皿片が1点出土している。

本址の年代は前記した志野焼皿を根拠に17世紀と考えられる。

#### OD 3号土坑 (第17図)

R 4グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N-20°-Wに長軸方位をとる。長軸長0.68 m、短軸長0.49 m、壁残高0.2 m、面積0.28㎡の規模を有する。平面不整形円形、断面逆梯形の形態である。

遺物は土師器と灰軸陶器、石器・石製品が出土している。土師器には坏と皿の器種が認められる。内面のヘラミガキ調整は施されない。灰軸陶器は碗と長頸瓶の器種が認められる。碗の見込み部分は転用碗状に円滑である。石器・石製品は全て砥石である。定型化した砥石ではなく、扁平な礫を砥石として使用している。

以上の出土遺物の特徴から、本址は聖原編年の奈良・平安時代Ⅶ期-Ⅹ世紀前半の所産と考えられる。

#### OD 4号土坑 (第18図)

I 12グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N-12°-Eに長軸方位をとる。長軸長1.14 m、短軸長0.94 m、壁残高0.29 m、面積0.82㎡の規模である。平面不整形円形、断面逆梯形の形態である。

遺物は縄文土器、石器・石製品が出土している。縄文土器は全て後期称名寺式期のものであり、器種は全て深鉢である。3は被熱により歪んでいる。降帯文の2・3を除き称名寺式土器である。石器・石製品には打製石斧、砥石、磨・凹石の器種が認められる。

以上の出土遺物の特徴から、本址は縄文時代後期称名寺式期の所産と考えられる。

#### OD 5号土坑 (第18図)

F 11グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N-24°-Wに長軸方位をとる。長軸長1.64 m、短軸長1.1 m、壁残高0.2 m、面積1.37㎡の規模である。重複する3基の方形ピットは本址を切る中近世遺構の可能性が高い。平面楕円、断面逆梯形の形態である。

遺物は内耳銅、縄文土器、石器・石製品が出土している。内耳銅は口縁部片、縄文土器は中期後半の深鉢片である。石器・石製品は3点ともに砥石である。定型化した砥石ではなく、礫を利用している。4は全面に煤が付着している。

以上の出土遺物の特徴から、本址は中世の所産と考えられる。

#### OD 6号土坑 (第19図)

C 11グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N-15°-Wに長軸方位をとる。長軸長1.24 m、短軸長1.03 m、壁残高0.41 m、面積0.97㎡の規模である。平面不整形円形、断面逆梯形の形態である。

遺物は縄文土器と石器・石製品が出土している。縄文土器には深鉢1・2・4~7と浅鉢3、有穴鈎付土器? 8の器種が認められる。時間的には2・7・8が中期中葉の他は中期後半のものであり、型的には加曾利E系が過半数を占めるが、曾利式や唐草文系も存在する。石器・石製品は黒曜石製の鎌が1点出土しているが欠損している。

以上の出土遺物の特徴から、本址は縄文時代中期後半加曾利E 1~Ⅱ式期の所産と考えられる。

#### OD 7号土坑 (第19図)

C 11グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N-15°-Wに長軸方位をとる。長軸長1.13 m、短軸長0.98 m、壁残高0.29 m、面積0.91㎡の規模である。平面不整形円形、断面逆梯形の形態である。

遺物は縄文土器が2点出土している。1は中期中葉扇板式の深鉢片、2は後期称名寺式の深鉢片である。

本址の時期については不明である。

#### OD 8号土坑 (第19図)

D 11グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。真北に長軸方位をとる。長軸長0.68 m、短軸長0.64 m、壁残高0.26 m、面積0.35㎡の規模である。平面不整形円形、断面逆梯形の形態である。

出土遺物は皆無であり、本址の時期は不明である。

## OD 9号土坑 (第19図)

D 11グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N-13°-Wに長軸方位をとる。長軸長1.37 m、短軸長1.17 m、壁残高0.47 m、面積1.25㎡の規模である。平面不整楕円形、断面逆梯形の形態である。

遺物は土師器と石器・石製品が出土している。土師器は所謂「かわらけ」であり、内外面の口縁部に煤の付着が認められることから燈明皿として使用されたものであろう。石器・石製品は磨・敲石と磨石の器種が認められる。

以上の出土遺物の特徴から本址は、中世の所産と考えられる。

## OD 10号土坑 (第20図)

F 7グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N-7°-Eに長軸方位をとる。長軸長3.86 m、短軸長2.21 m、壁残高1.11 m、面積6.59㎡の規模である。平面不整楕円、断面逆梯形の形態で、底面が2段形成される。

遺物は縄文土器と石器・石製品が出土している。縄文土器は全て深鉢片であり、1が曾利I、5が不明の他は加曾利E式である。石器・石製品は横刃型石器が1点出土している。

以上の出土遺物から本址は、縄文時代中期後半加曾利EIV式期の所産と考えられる。

## OD 11号土坑 (第20図)

E 11グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N-30°-Eに長軸方位をとる。長軸長1.71 m、短軸長1.31 m、壁残高0.24 m、面積1.8㎡の規模である。平面楕円、断面逆梯形の形態である。重複する5基のピットは本址を切る中近世遺構の可能性が高い。

出土遺物は皆無であり、本址の年代は不明である。

## OD 12号土坑 (第20図)

G 11グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N-9°-Wに長軸方位をとる。長軸長1.0 m、短軸長0.8 m、壁残高0.13 m、面積0.59㎡の規模である。平面楕円、断面逆梯形の形態である。重複する3基の方形ピットは本址を切る中近世遺構の可能性が高い。

出土遺物は皆無であり、本址の年代は不明である。

## OD 13号土坑 (第20図)

G 11グリットで検出された。D 14号土坑を切る。N-90°-Eに長軸方位をとる。長軸長1.31 m、短軸長0.96 m、壁残高0.08 m、面積0.96㎡の規模である。平面楕円、断面逆梯形の形態である。

出土遺物は皆無であり、本址の年代は不明である。

## OD 14号土坑 (第20図)

G 11グリットで検出された。D 13号土坑に切られる。N-8°-Wに長軸方位をとる。長軸長2.07 m、短軸長0.93 m、壁残高0.5 m、面積1.74㎡の規模である。平面隅丸長方形、断面逆梯形の形態である。

出土遺物は皆無であり、本址の年代は不明である。

## OD 15号土坑 (第21図)

B 11グリットで検出された。S D 5号集石土坑に切られる。N-32°-Wに長軸方位をとる。長軸長0.74 m、壁残高0.18 mの規模である。楕円形、断面逆梯形の形態である。

出土遺物は縄文中期後半の深鉢片が2点出土しており、本址の年代も出土遺物と同様と考えられる。

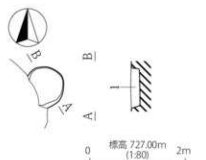
## OD 16号土坑 (第21図)

J 12グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N-26°-Eに長軸方位をとる。長軸長0.74 m、短軸長0.68 m、壁残高0.3 m、面積0.37㎡の規模である。平面円形、断面逆梯形の形態である。

出土遺物は皆無であり、本址の年代は不明である。

## OD 17号土坑 (第21図)

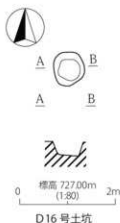
J 12グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N-17°-Wに長軸方位をとる。長軸長0.68



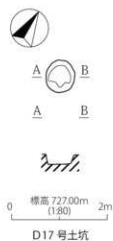
1. 褐色土層 (10YR4/4) ローム粒子多量、パミス多。



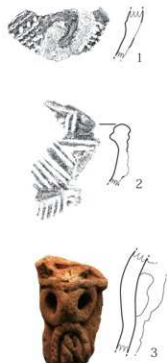
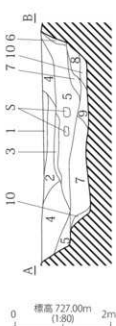
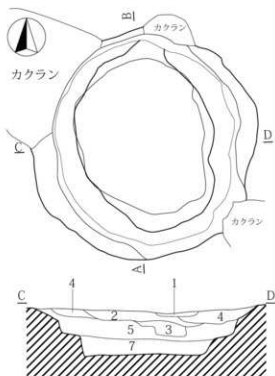
D15号土坑



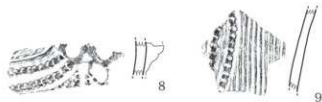
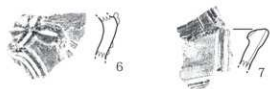
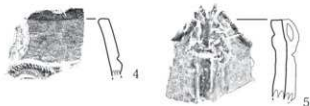
D16号土坑



D17号土坑



1. 黒色土層 (10YR2/1) パミス・ローム粒子多。
2. 暗褐色土層 (10YR3/2)  $\phi 1 \sim 2$  cm/パミス多、ローム粒多。
3. 黄褐色土層 (10YR5/6) ローム2次堆積。
4. 黒褐色土層 (10Y3/2)  $\phi 1 \sim 3$  cm/パミス・ローム粒子多、炭化物多。
5. 黒色土層 (10YR2/1)  $\phi 1 \sim 5$  cm/パミス・ローム粒子多。
6. 濃い黄褐色土層 (10YR5/4) ロームと10YR3/3の混在。
7. 暗褐色土層 (10YR3/3)  $\phi 5$  cm以下/パミス多、炭化物多。
8. 明黄褐色土層 (10YR6/6) ローム2次堆積。
9. 黒色土層 (10YR2/1)  $\phi 5$  cm以下/パミス多。
10. 濃い黄褐色土層 (10YR5/4) ロームと10YR3/3の混在。



D18号土坑 (1)  
第21図 土坑5

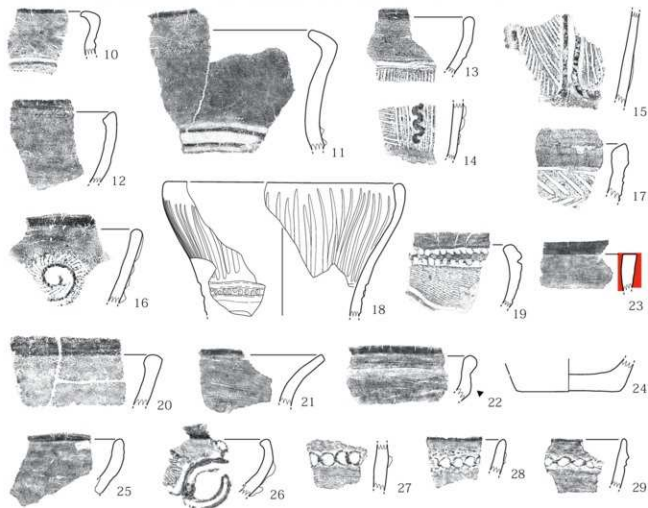
m、短軸長0.6m、壁残高0.21m、面積0.33㎡の規模である。平面楕円形、断面逆梯形の形態である。出土遺物は皆無であり、本址の年代は不明である。

#### OD 18号土坑 (第21～29図)

C 10グリッドで検出された。カクランに切られる。N-62°-Eに長軸方位をとる。長軸長4.9m、短軸長4.7m、壁残高0.89mの規模である。平面円形、断面は2面の底面を形成する。当初住居址と思われたが、柱穴や炉は存在しなかったため、土坑とした。

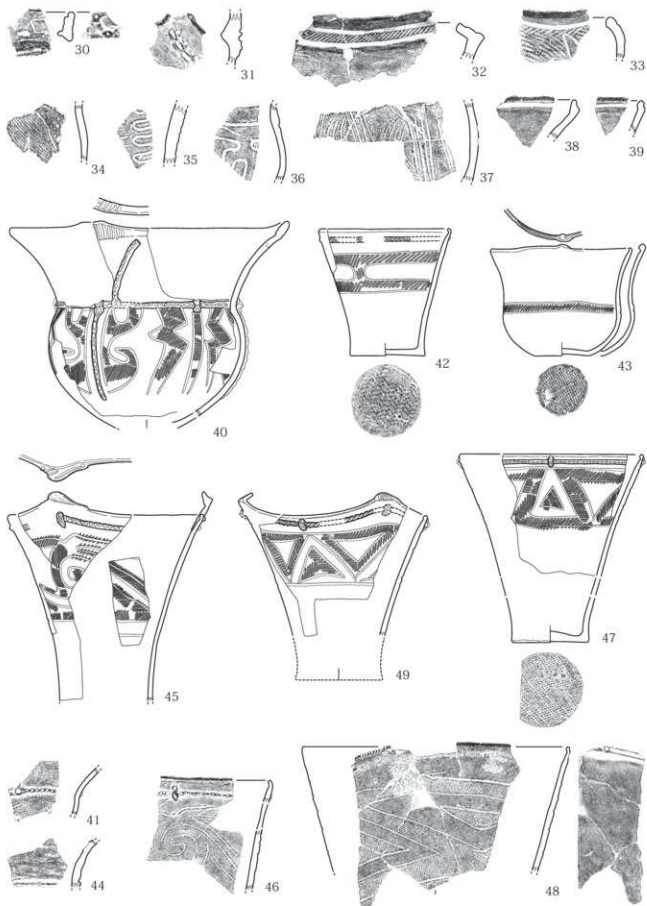
遺物は縄文土器、石器・石製品が出土している。1は阿玉台Ⅱ式の深鉢で、大波状縁の部位であるが隆帯が剥落している。2は焼町土器深鉢の口縁部片、3・4・5・18・19は勝坂式の深鉢で3は双環状把手が付く。6・7・8は曾利Ⅱ式の深鉢口縁部片、17も曾利系であるが、時的にIVないしV期まで下がる。9・21・22は中期後半の浅鉢の口縁部片と思われる。10・34は隆帯上に半葎竹管による押引を加えており、曾利Ⅰ式土器と思われる。中期後半の土器であろうか？ 11・12・14は中期後半郷土式、13は中期後半唐草文系と思われる。15はあまり類例がない土器であるが、中期後半加曾利E系の土器と思われる。16も加曾利E系の土器で、EⅣ期と思われる。20・23・24は無文部位であり判然としなが中期後半の深鉢片と思われる。25～27は後期の押圧隆帯が施される粗製土器である。28～33・36は後期称名寺式ないし同時期と思われるものであるが、堀之内Ⅰ式まで下がるものも含んでいるかもしれない。35～37・42・43は堀之内Ⅰ式、38～41・44～62は堀之内Ⅱ式ないし同時期の土器である。63～65は堀之内式期の注口土器である。66～73は土器片円盤である。時的には堀之内式期のものと思われる。74は平安時代の内面黒色処理の土師器環であり、底部には右回転の糸切痕が認められる。75は中世の内耳鍋の口縁部片である。石器・石製品には石鎌、打製石斧、磨・敲・凹石、砥石、石皿・石錐、スクレイパー、横刃型石器、ピース・エスキュー、加工痕・使用痕のある剥片の器種が認められる。

以上の出土遺物の特徴から本址は縄文時代後期堀之内Ⅱ式期の所産と考えられる。



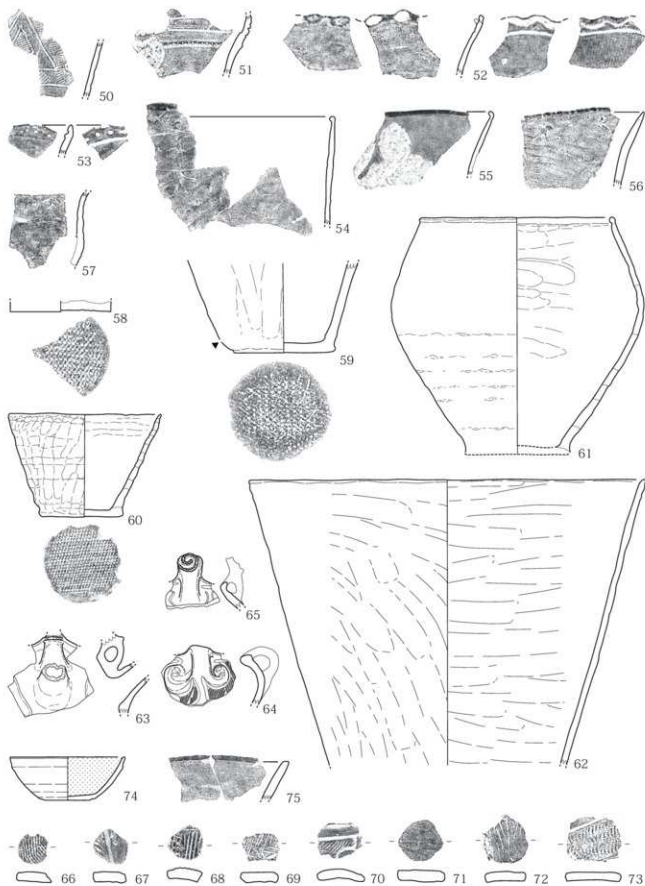
D18号土坑 (2)

第22図 土坑6



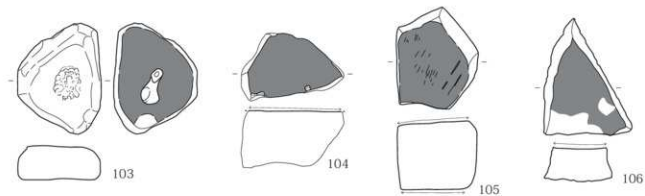
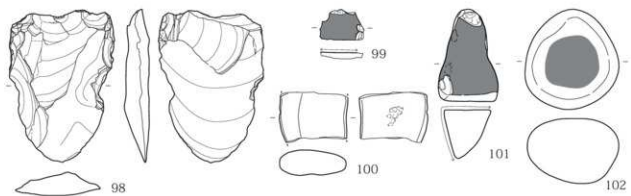
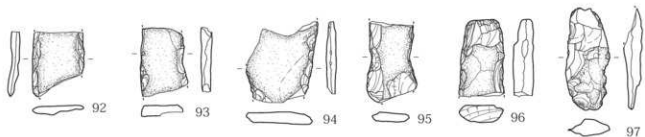
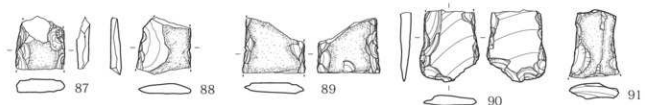
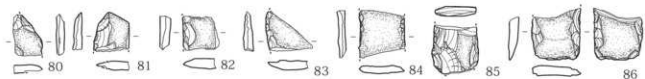
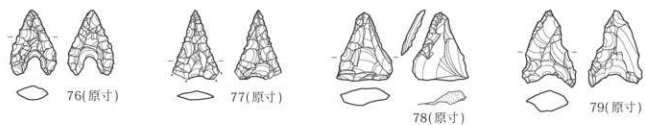
D18号土坑(3)

第23图 土坑7



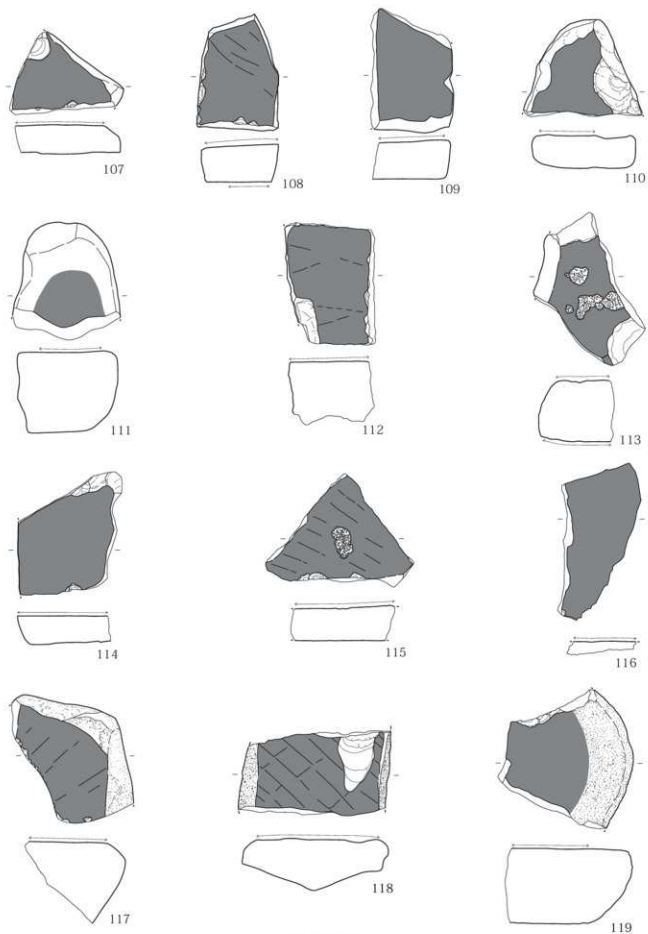
D18号土坑(3)

第24图 土坑8



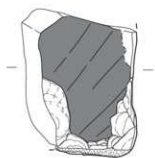
D18号土坑(4)

第25图 土坑9

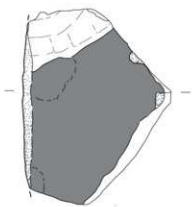


D18号土坑(5)  
第26回 土坑10

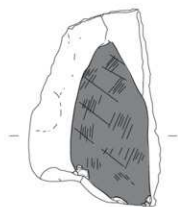




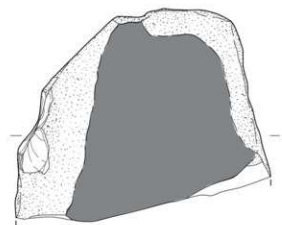
120



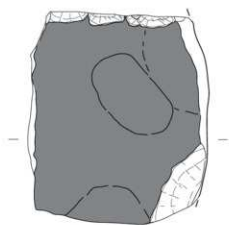
121



122



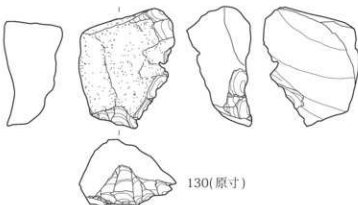
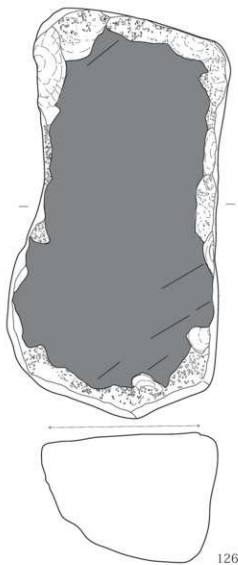
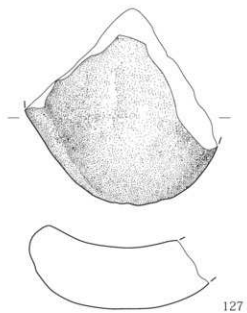
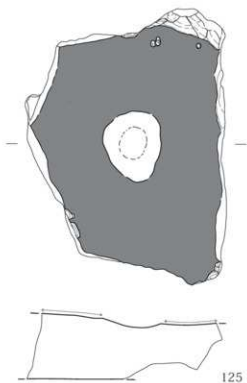
123



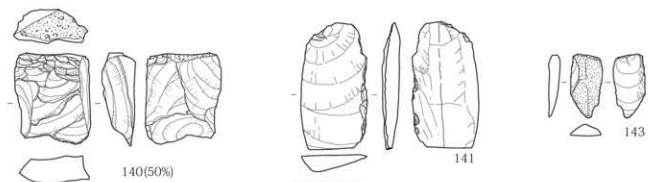
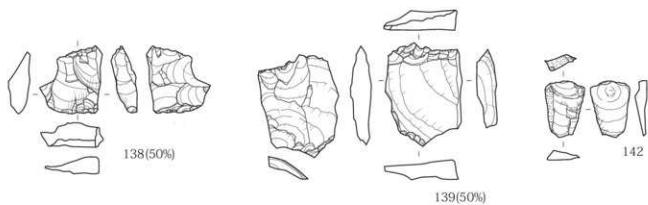
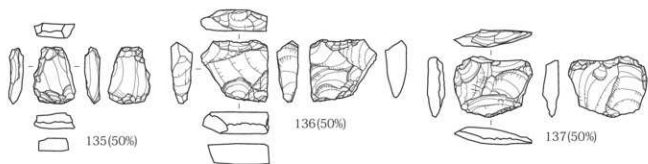
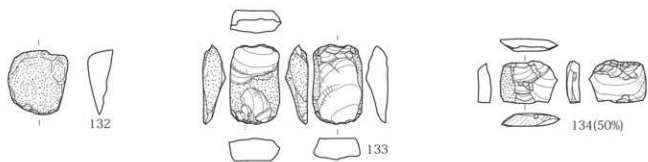
124

D18号土坑(6)

第27图 土坑11

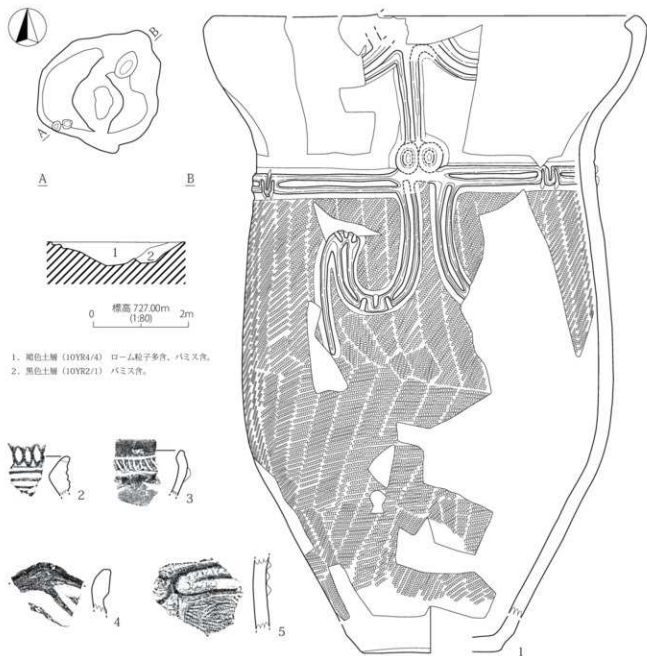


D18号土坑(7)  
第28图 土坑12

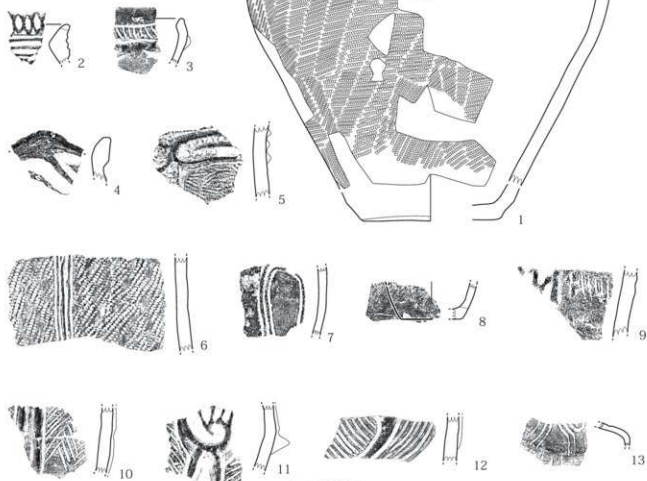


D18号土坑(8)

第29图 土坑13



1. 褐色土層 (10YR4/4) ローム粒子多量、パミス状。  
 2. 黒色土層 (10YR2/1) パミス状。



D19号土坑(1)

第30図 土坑14

### OD 19号土坑 (第30・31図)

B 11グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N-50°-Eに長軸方位をとる。長軸長2.88m、短軸長2.43m、壁残高0.5m、面積5.08㎡の規模である。平面不整楕円形、断面3段底面の逆梯形の形態を呈する。

遺物は縄文土器、石器・石製品が出土している。縄文土器は1が曽利I式期の深鉢、2は鋸歯口縁下に数条の平行沈線が施される深鉢で、並行沈線下には曲降線文が展開するものと思われる。中期中葉末期の焼町土器と思われる。3は口縁部の区画帯に斜位の沈線文が充填される中期後半の深鉢である。4は加曽利EⅢ式の波状口縁深鉢の口縁部、5は隆帯間に半截竹管による突起が加えられる地文縄文の深鉢である。中期後半に位置付けられるものと思われる。6は加曽利EⅡ式、7はEⅣ式の深鉢である。8は底部片であり、時期は判然としない。9は中期後半に位置付けてよいものと思われる深鉢の低部付近の破片で、縦位の沈線を地文とし、隆帯による懸垂文が貼付される。10・11は綾杉状の沈線文を地文とし、隆帯による懸垂文が貼付される唐草文系土器の深鉢。12は鱗状沈線が施される郷土式の深鉢である。13は後期堀之内式の注口土器片である。石器・石製品には打製石斧(14~16)、磨石(17・18)、砥石(19~21)、加工痕のある剥片(22)の器種が認められる。

本址の時期としては1の深鉢を基準とするのが妥当と考える。よって本址は縄文時代中期後半曽利I式期の所産と思われる。

### OD 20号土坑 (第32図)

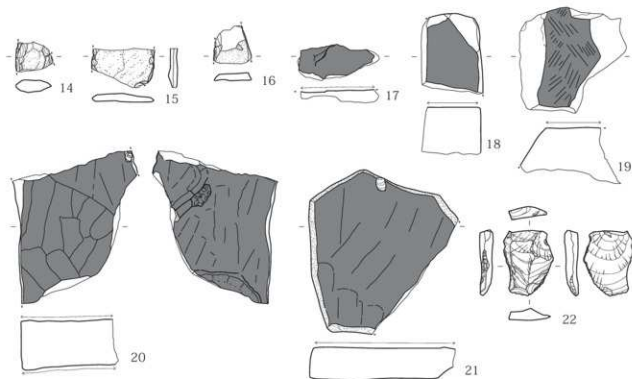
H 8グリットで検出された。SD 6号集石土坑に切られる。N-12°-Wに長軸方位をとる。長軸長2.1m、壁残高0.74mの規模である。平面楕円形、断面逆梯形の形態を呈する。

出土遺物は皆無であり、本址の時期は不明である。

## 第3節 集石土坑

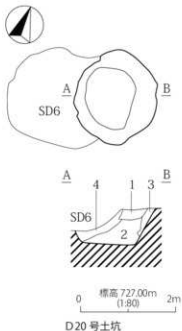
### OSD 1号土坑 (第33図)

Q 4グリットで検出された。P 37に切られる。N-90°-Eに長軸方位をとる。長軸長2.06m、短軸長1.42m、壁残高0.43m、面積2.16㎡の規模である。平面楕円形、断面逆梯形の形態を呈する。集石は底面には達し



D19号土坑(2)

第31図 土坑15



D20号土坑

1. 赤褐色土層 (SYR3/2) ローム粒子・パミス少量。
2. 黒色土層 (SYR17/1) φ1cm大パミス発、φ1cm大ロームブロック極少量。
3. 灰褐色土層 (SYR5/2) φ3cm大パミス・ローム粒子多量。
4. 高い褐色土層 (SYR7/4) ローム二次堆積。人糞埋土。

第32図 土坑16

ていない。覆土は粘質土で石を固めている。隣接するP18も同様であるが、礎石の基礎と思われる。

遺物は灰釉陶器、須恵器、縄文土器、陶器、石器・石製品が出土している。1は灰釉陶器の碗片で、底部に糸切痕を残す。2は平行叩目の須恵器裏片、3～5は縄文土器の深鉢片で、3・4は曾利Ⅰ式、5は加曾利EⅣ式である。6は18世紀末の前山焼播鉢片、7は幕末の土瓶の蓋片である。石器・石製品は8・9の打製石斧、10～14・16の砥石、15の石皿が出土している。砥石は12が定型化した砥石の他は扁平な石を用いているが、対象が金属と思われるため砥石とした。15の石皿は溝状の使用痕が全面に認められる。破損した石皿を砥石に転用したものと思われる。

以上の出土遺物の特徴から本址は近世の所産と考えられ、家の基礎の一部と思われる。

#### OSD2号土坑 (第17図)

P4グリットで検出された。D2号土坑を切る。N-67°-Wに長軸方位をとる。長軸長1.42m、短軸長1.26m、壁残高0.36m、面積1.32㎡の規模である。平面楕円形、断面逆梯形の形態を呈する。集石は底面に集中している。

遺物は加曾利EⅣ式の深鉢片が1点出土している。

本址の年代は、重複するD2号土坑の年代である17世紀を遡ることはないため、17世紀以降と考えられる。

#### OSD3号土坑 (第34図)

S4グリットで検出された。D1号土坑に切られる。N-49°-Wに長軸方位をとる。長軸長4.23m、短軸長3.32m、壁残高0.42mの規模である。5基以上の掘り込みの複合であり、家の基礎の一部と思われる。

遺物は土師質土器、陶器、石器・石製品が出土している。1・2は土師質土器内耳鍋、3～11は陶器である。3～6は同一個体と思われる17世紀後半の唐津の呉器手碗。7・8は18世紀の肥前系・平戸波佐具の陶胎碗。9は19世紀の瀬戸・美濃の丸碗。10は18世紀末～19世紀の前山焼の片口碗。11は8世紀末～19世紀の器種不明の瀬戸・美濃焼である。石器・石製品は12の砥石、13の磨石、14の播鉢の器種が認められる。

以上の出土遺物の特徴から本址は18世紀末～19世紀の近世の所産と考えられる。

#### OSD4号土坑 (第34図)

L3グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N-69°-Wに長軸方位をとる。長軸長2.55m、短軸長1.98m、壁残高0.18m、面積4.11㎡の規模である。平面楕円形、底面2面の逆梯形の断面形態である。集石は上面に存在し、底面には達していない。

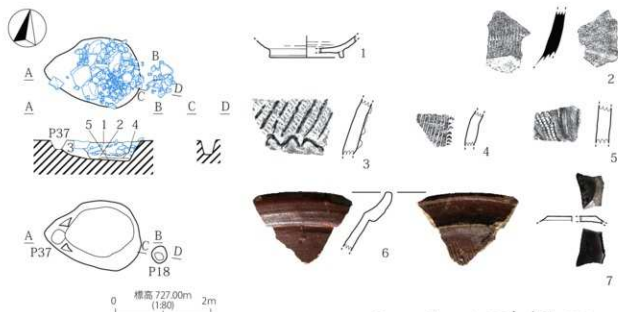
遺物は縄文土器、石器・石製品が出土している。縄文土器は1の中期後半加曾利EⅢ式の深鉢片1点が認められる。石器・石製品は2～3の砥石、5の磨石、6の加工痕のある剥片、7の五輪塔の地輪と思われる立方体に加工された石が存在する。

以上の出土遺物の特徴から本址は中世以降の所産と考えられる。

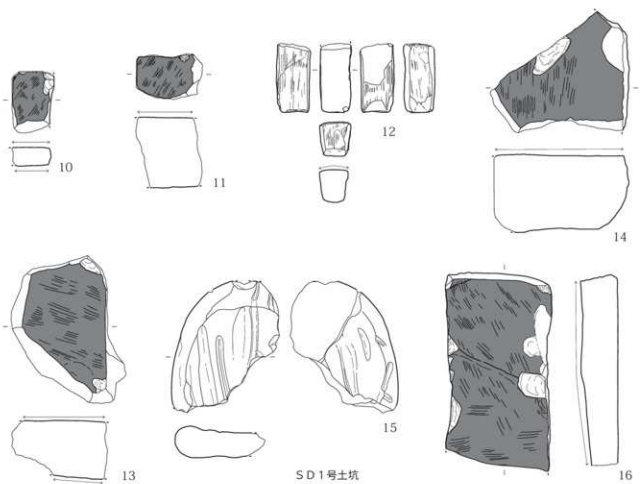
#### OSD5号土坑 (第35・36図)

C11グリットで検出された。D15号土坑を切る。N-76°-Wに長軸方位をとる。湧水が激しく底面を確認することは出来なかった。長軸長3.17m、短軸長2.9m、面積6.8㎡の規模である。平面形態は不整な円形である。本址は井戸であり、河原石を方形に積み上げた井戸枠が構築されていた。

遺物は土師器・土師質土器、須恵器、陶器、縄文土器、土製品、石器・石製品が出土している。土師器はかわらが、土師質土器は内耳鍋が認められる。須恵器は裏片が1点認められる。陶器は瓶子と天目茶碗が1点ずつ認められる。いずれも古瀬戸で、瓶子が中期様式14C?、天目茶碗が後期様式I14C後半である。縄文土器は中期後半の加曾利E式や曾利式がほとんどであるが、後期堀之内式も混在する。石器・石製品には打製石斧、磨

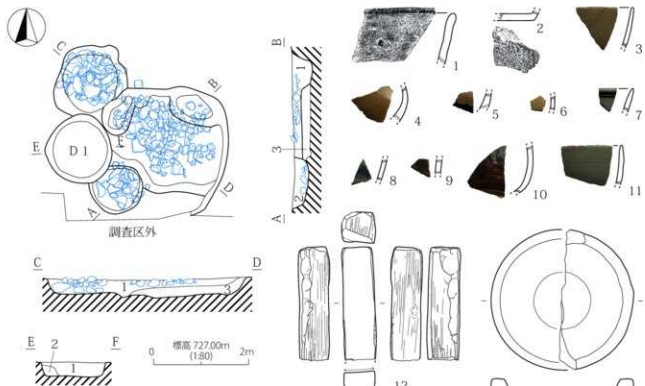


1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 粒子細かい、粘性やや強い、 $\phi 5$  m以下石粒極少。
2. 暗褐色土層 (10YR3/4) 粒子細かい、粘性強、 $\phi 1 \sim 2$  cm石粒少。
3. 暗褐色土層 (10YR3/3) 粒子細かい、粘性弱、ローム・ $\phi 0.5 \sim 1.5$  cmパミス多。
4. 黒褐色土層 (10YR2/3) 粒子細かい、粘性弱、ローム少、 $\phi 0.5 \sim 1.5$  cmパミス多。
5. 黒色土層 (10YR1.7/1) 粒子細かい、粘性有り。



SD1号土坑

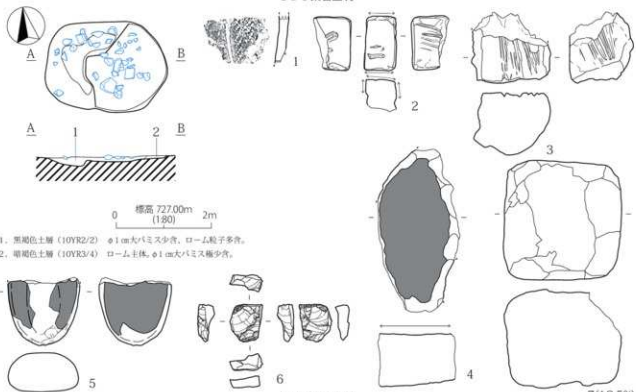
第33図 集石土坑1



## SD3

1. 黒褐色土層 (10YR2/3)
  2. 暗褐色土層 (10YR3/4) ロームブロック・パミス片。
  3. 濃い褐色土層 (7.5YR5/4) ローム主体、粘土ブロック状に散在。埋土。
- D1
1. 黒褐色土層 (10YR3/2) パミス片。
  2. 褐色土層 (10YR4/4) ローム粒子主体。

## SD3集石土坑

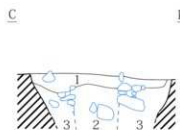
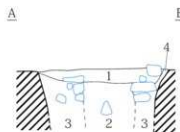
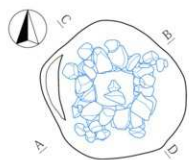


1. 黒褐色土層 (10YR2/2)  $\phi 1$  cm大パミス少許、ローム粒子多量。
2. 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム主体、 $\phi 1$  cm大パミス極少許。

## SD4集石土坑

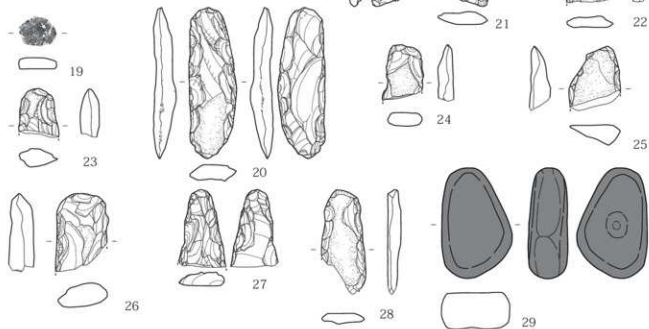
第34図 集石土坑2





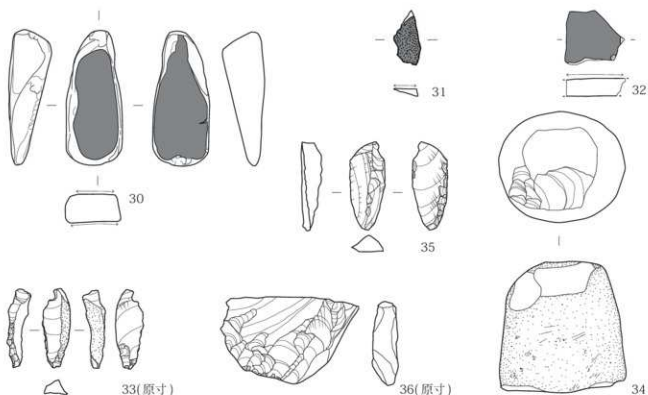
0 標高 727.00m (180) 2m

1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 炭化物極少含。
2. 黒褐色土層 (10YR2/3) 炭化物・ローム粒子極少含。
3. 褐色土層 (10YR4/4) ローム粒子多含。
4. 黄褐色土層 (10YR5/8) ローム二次堆積。

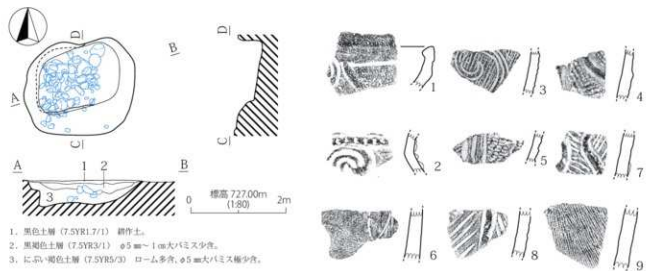


SD5集石土坑(1)

第35図 集石土坑3



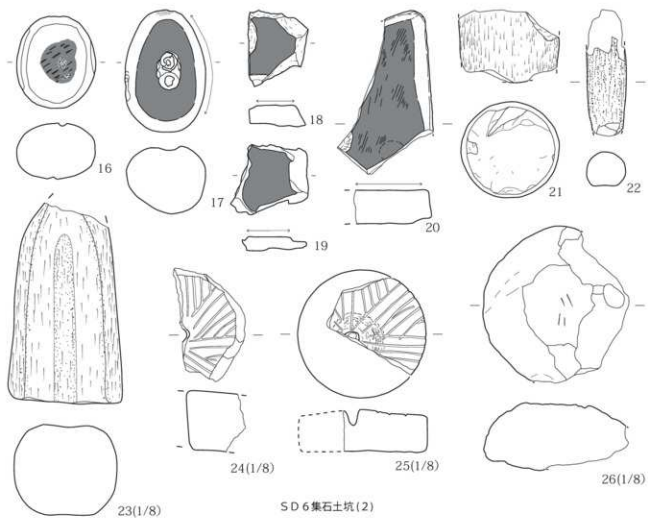
SD 5集石土坑(2)



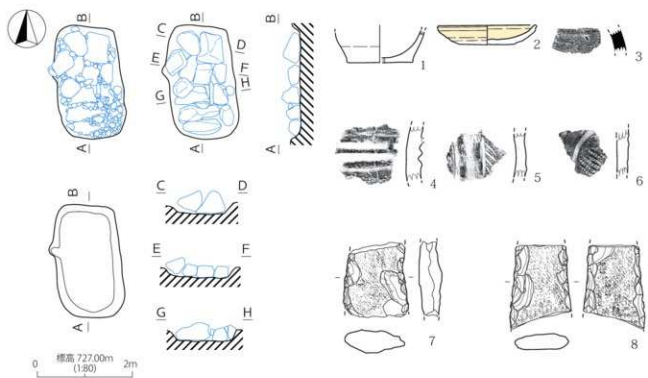
1. 黒色土層 (7.5YR1.7/1) 耕作土。
2. 黒褐色土層 (7.5YR3/1)  $\phi 5$  mm~1 cm大パミズ少。
3. 棕色~褐色土層 (7.5YR5/3) ローム多、 $\phi 5$  mm大パミズ極少。

SD 6集石土坑(1)

第36図 集石土坑 4

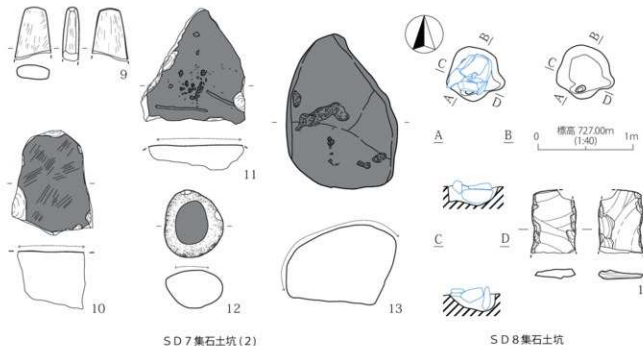


SD 6集石土坑(2)



SD 7集石土坑(1)

第 37 图 集石土坑 5



第38図 集石土坑6

石、砥石、石錐、石棒、加工痕のある剥片が認められる。ほとんどのものは井戸枠の構築材として集められたものと思われる。

以上の出土遺物の特徴から本址は中世以降の所産と考えられる。

#### OSD 6号土坑 (第36・37図)

H 8グリッドで検出された。D 20号土坑を切る。N-72°-Eに長軸方位をとる。長軸長2.45 m、短軸長1.97 m、壁残高0.56 m、面積4.0㎡の規模である。平面形態は不整な楕円形、断面は西底面がオーバーハングし、2段落ちとなるが、東側は鍋底状になだらかな底面を形成する。集石は底面よりも上層に存在する。

遺物は縄文土器、石器・石製品が出土している。縄文土器は中期後半の加曾利E式、曾利式、郷土式である。石器・石製品は磨石、磨・敲石、凹敲石、凹・敲・磨石、砥石、石棒、石臼、五輪塔が出土している。石材として集められたものと思われる。

以上の出土遺物の特徴から本址は中世以降の所産と考えられる。

#### OSD 7号土坑 (第37・38図)

K 4グリッドで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N-8°-Wに長軸方位をとる。長軸長2.35 m、短軸長1.41 m、壁残高0.22 m、面積3.15㎡の規模である。平面丸長方形、断面逆梯形の形態である。集石は底面からギッシリと組上げられ、隙間には小石が充填されていた。集石土坑というよりは集石とした方がよいのかもしれない。

遺物は土師器、須恵器、陶器、縄文土器、石器・石製品が出土している。土師器はロクロ裏片が1点、須恵器は壺片が1点、陶器は前山焼の燈明皿が1点、縄文土器は中期後半の曾利式、加曾利E式、唐草門系の土器片が各々1点認められる。石器・石製品は打製石斧、砥石、磨石の器種が認められる。

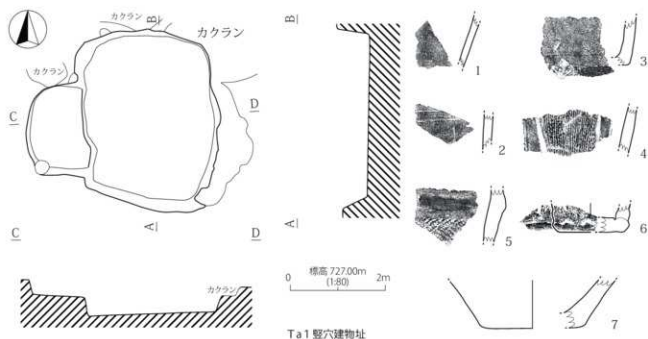
以上の出土遺物の特徴から本址は近世の所産と考えられる。

#### OSD 8号土坑 (第38図)

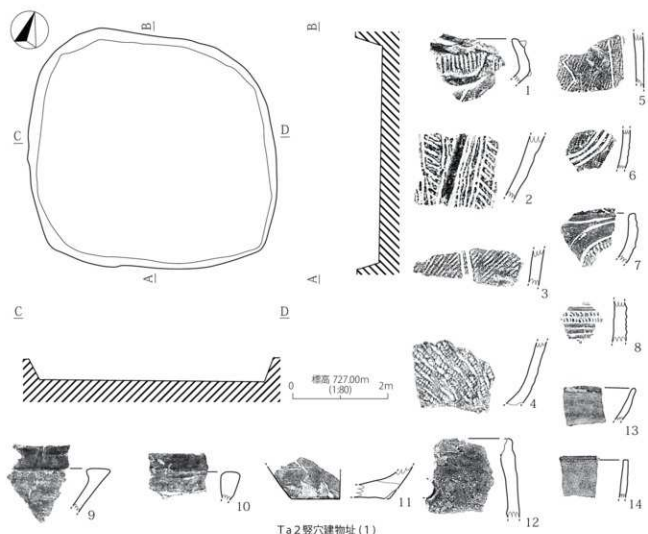
I 7グリッドで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N-30°-Eに長軸方位をとる。長軸長1.09 m、短軸長0.96 m、壁残高0.38 m、面積0.98㎡の規模である。平面不整形、断面不整形の形態である。集石は底面から組上げられていた。集石土坑というよりは礎石とした方がよいのかもしれない。

遺物は打製石斧片が1点出土しているが、構築材として集められたものであろう。

本址の所産期は不明である。

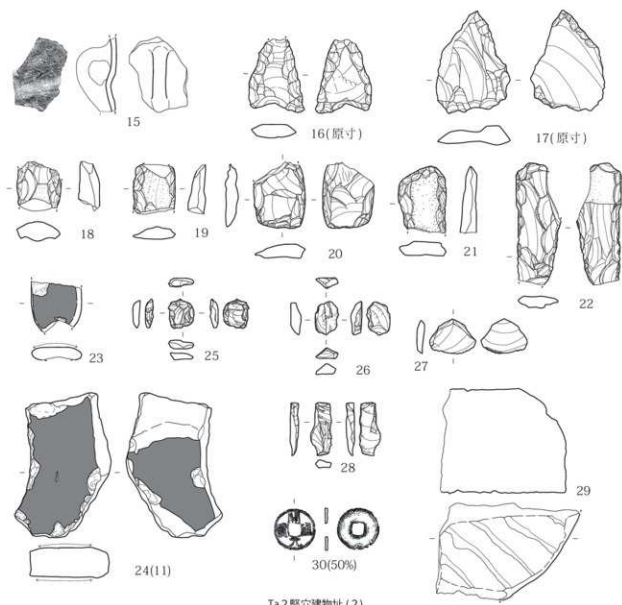


Ta1 竪穴建物址

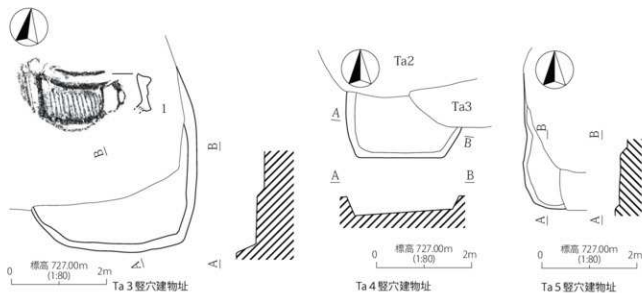


Ta2 竪穴建物址 (1)

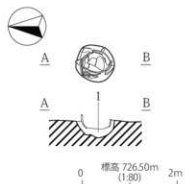
第39図 竪穴建物址 (1)



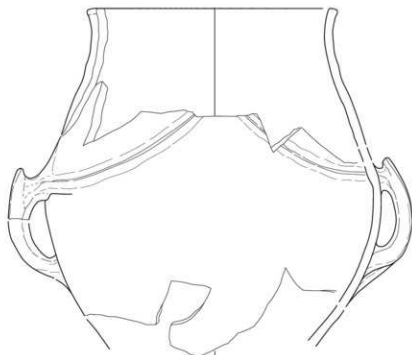
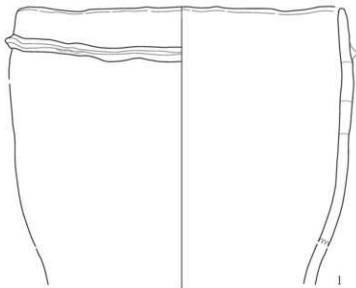
Ta 2 竪穴建物址 (2)



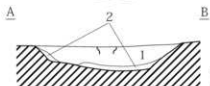
第 40 図 竪穴建物址 (2)



1. 黒色土層 (10YR2/1) ローム粒子多量, パミス片。



埋裏 1



1. 黒色土層 (10YR2/1)  $\phi$  2cm以下パミス・ローム粒子多量。  
2. 黒褐色土層 (10YR3/2)  $\phi$  2cm以下パミス・ローム粒子多量。

0 標高 727.00m (1.80) 2m

埋裏 2



第 41 図 埋裏

## 第4節 竪穴建物址

### ○T a 1号竪穴建物址 (第39図)

E 10グリットで検出された。カクランによる破壊を受けるが他遺構との重複関係は有さない。N-90°-Eに長軸方位をとる。長軸長約4.05m、短軸長3.83m、壁残高0.77m、面積約11.9㎡の規模である。平面は西辺中央に方形の張り出し部分を有する方形、断面は逆梯形の形態である。張床、周溝、柱穴などの付属施設は一切認められなかった。

遺物は土師質土器の内耳鍋辺3点と縄文土器片が4点出土している。縄文土器は中期のものである。

以上の出土遺物の特徴から本址は中世の所産と思われる。

### ○T a 2号竪穴建物址 (第39・40図)

F 10グリットで検出された。H 5号住居址、T a 3～5号竪穴建物址を切る。N-17°-Wに長軸方位をとる。長軸長約5.19m、短軸長4.92m、壁残高0.52m、面積約22.83㎡の規模である。平面は隅丸方形、断面は逆梯形の形態である。張床、周溝、柱穴などの付属施設は一切認められなかった。

遺物は縄文土器片が12点と土師質土器の内耳鍋片3点、石器・石製品、銅製品が出土している。縄文土器は中期後半のものが大半を占めるが、中葉や後期のものも認められる。内耳鍋片は1点のみが内耳部分であり、他は口縁部片である。石器・石製品には打製石鏃、打製石斧、磨石、砥石、加工痕の有る剥片、石臼が認められる。銅製品は古銭(開元通宝)が1点出土している。

以上の出土遺物の特徴から本址は中世の所産と思われる。

### ○T a 3号竪穴建物址 (第40図)

F 10グリットで検出された。T a 2号竪穴建物址に切られ、T a 4号竪穴建物址を切る。壁残高0.45m以外の規模は不明である。平面は隅丸長方形を呈するものと思われる。断面は逆梯形の形態である。張床、周溝、柱穴などの付属施設は一切認められなかった。

遺物は縄文時代中期後半の深鉢口縁部片が1点出土している。

遺構の重複関係から本址の時期は中世以降と思われる。

### ○T a 4号竪穴建物址 (第40図)

G 10グリットで検出された。T a 2・3号竪穴建物址に切られ、T a 5号竪穴建物址を切る。壁残高0.4m以外の規模は不明である。平面は長方形を呈するものと思われる。断面は逆梯形の形態である。張床、周溝、柱穴などの付属施設は一切認められなかった。

出土遺物は皆無であった。

遺構の重複関係から本址の時期は中世以降と思われる。

### ○T a 5号竪穴建物址 (第40図)

G 10グリットで検出された。T a 2～4号竪穴建物址に切られ、H 5号住居址を切る。壁残高0.4m以外の規模は不明である。平面は長方形を呈するものと思われる。断面は逆梯形の形態である。張床、周溝、柱穴などの付属施設は一切認められなかった。

出土遺物は皆無であった。

遺構の重複関係から本址の時期は中世以降と思われる。

## 第5節 埋葬

### ○埋葬1 (第41図)

I 9グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N-55°-Eに長軸方位をとる。長軸長0.84m、短軸長0.78m、壁残高0.35m、面積0.5㎡の規模である。平面は円形、断面は鍋底の形態である。掘方は土器の分量に合わせ掘り込まれており、葬は2の中に1が入子状態で正位に埋設されていた。

出土遺物は埋設されていた2点の他には認められなかった。1は入子になっていた深鉢であり、口縁部に1条の隆帯が巡るほかは無文である。2は把手付の鉢で、把手は両耳である。文様は把手から弧状に口縁部に向かい



のびる2条の隆帯以外は施されない。

以上の出土遺物の特徴から、本址の時期は縄文時代中期後半から後期初頭と思われる。

#### ○埋蔵2 (第41図)

L4グリットで検出された。カクランによる破壊を受けるほかは、他遺構との重複関係は有さない。N-90°-Wに長軸方位をとる。長軸長3.15m、短軸長2.36m、壁残高0.54m、面積5.49㎡の規模である。平面は不整な楕円形、断面は逆梯形の形態である。埋蔵は頸部下が欠損しており、掘方中央に正位で埋設されていた。

出土遺物は埋設土器以外は存在しない。埋設土器は加曾利EⅡ式の深鉢である。

出土遺物から、本址は縄文時代中期後半加曾利EⅡ式期の所産と思われる。

### 第5節 ピット (第42～44図)

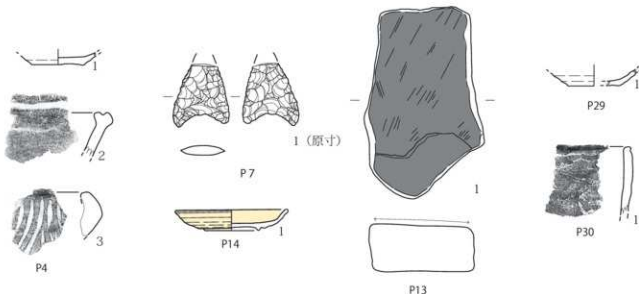
北側の調査区から40基検出されている。平安時代の住居址や、近世遺構であるSD1を切るものが存在することから時期的には中世以降に構築されたものと思われる。平面形態は円、楕円形が主体であるが、方、長方形のものも認められる。断面形態は逆梯形を基本とし、深度は深い傾向にある。

遺物はP4・P7・P13・P14・P29・P30の6基から出土している。P4からは、土師器坏片1点、縄文時代中期後半の深鉢片が2点、P7からは、黒曜石製の打製石鏃が1点、P13からは砥石が1点、P14からは17世紀の瀬戸・美濃製丸皿片が1点、P29からは土師器坏片が1点、P30からは縄文時代後期の深鉢片が1点が出土した。

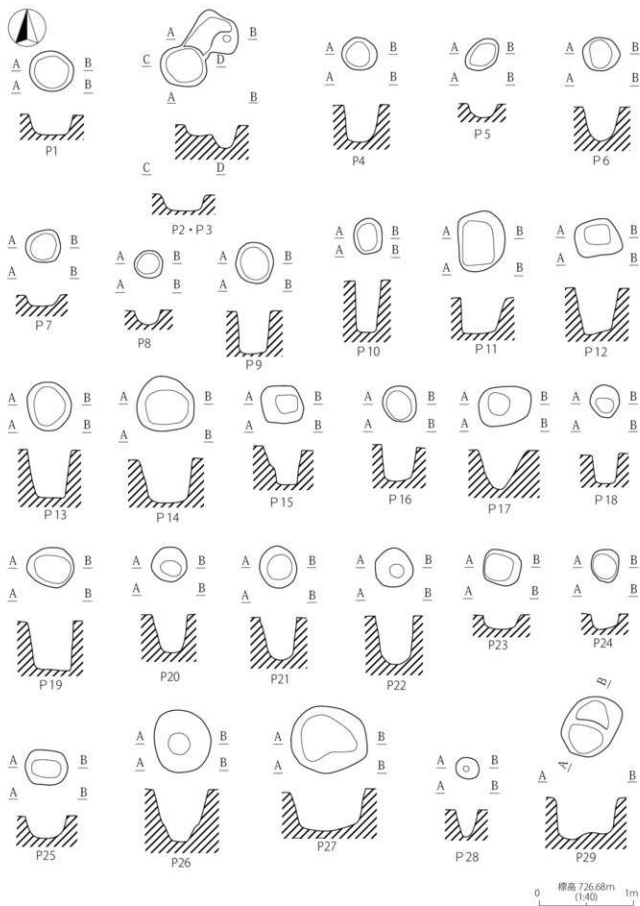
これらのピットの多くは、集石土坑SD1～3とともに近世の家を構成していた可能性が強いものと思われる。

### 第6節 遺構外出土遺物 (第45～48図)

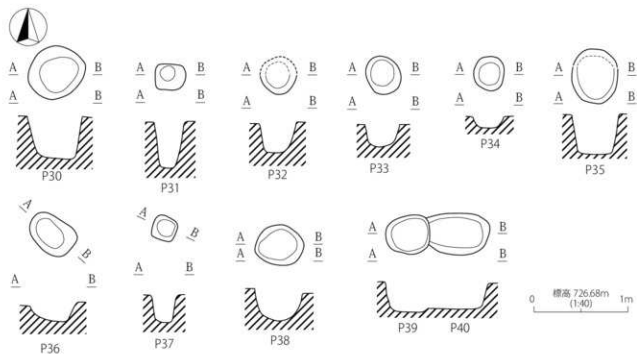
遺構外出土遺物としては縄文土器、土師器、灰釉陶器、陶器、石器・石製品、銅製品が出土している。縄文土器には前期(33)のもの、中期中葉(32・66・67)、中期後半(1～31、34～40、49)、後期(41～48、50～65)の時期のものが認められるが主体となるのは中期後半から後期のものである。中期後半土器の中では加曾利E式の占める割合が高く、時期的にはEⅠからEⅢ期が大半である。他型式の土器としては曾利式や唐草文系が多く、在地の郷土式は最も少ない。これは、郷土式が当地方で主体となる時期以前に当遺跡の中期後半期の隆盛期が位置するためと思われる。後期の土器は称名寺式が主体である。土坑出土資料にはまとまった量の堀之内2式が認められることから、中期後半終末期から堀之内2式までの期間が当遺跡における縄文時代後期の隆盛期と考えられる。土師器は平安時代のもので、中世以降の土師質土器が認められる。土師質土器の大半は内耳



第42図 ピット出土遺物



第 43 図 ビット (1)



第 44 図 ビット (2)

鍋と思われる土鍋である。灰釉陶器は 1 点のみ皿が出土している。陶器は近世のものであり、北調査区に存在したと思われる江戸時代の家に伴うものであろう。石器・石製品には打製石鏃、打製石斧、磨・敲石、凹・磨・敲石、砥石、加工痕のある剥片、石錐の器種が認められる。最も多いものは打製石斧で 27 点認められた。次いで加工痕のある剥片が 19 点、砥石が 13 点、打製石鏃が 6 点であり他の器種は少数であった。銅製品は 2 点の古銭が出土している。青永通宝と紹聖元寶である。

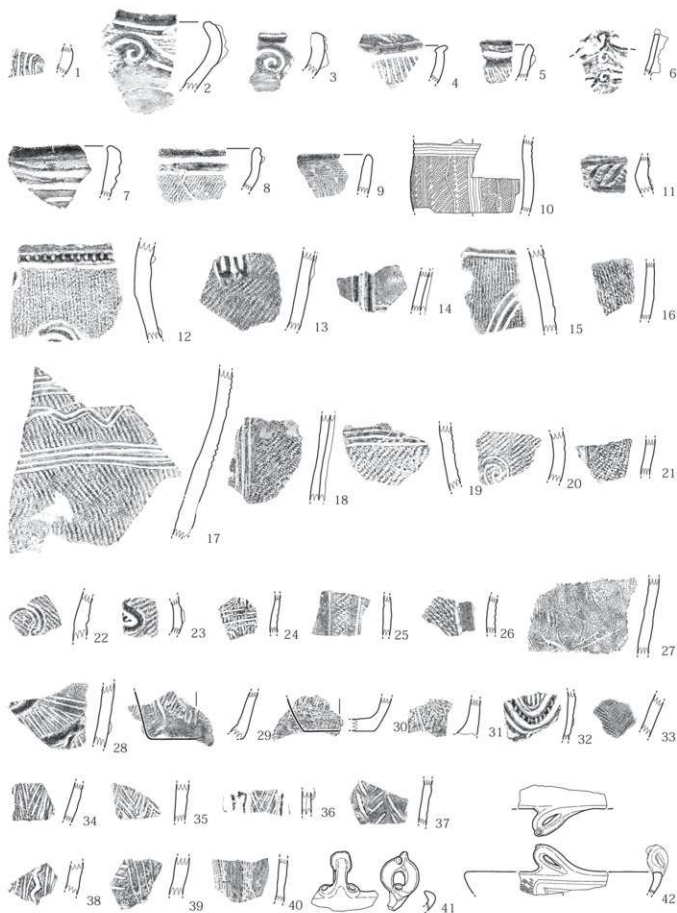
以上のように、遺構外出土遺物は遺構内出土遺物と同様な時期・器種であり、ほとんどのものは本来遺構内に包括されていたものかと思われる。

### 第三章 まとめ

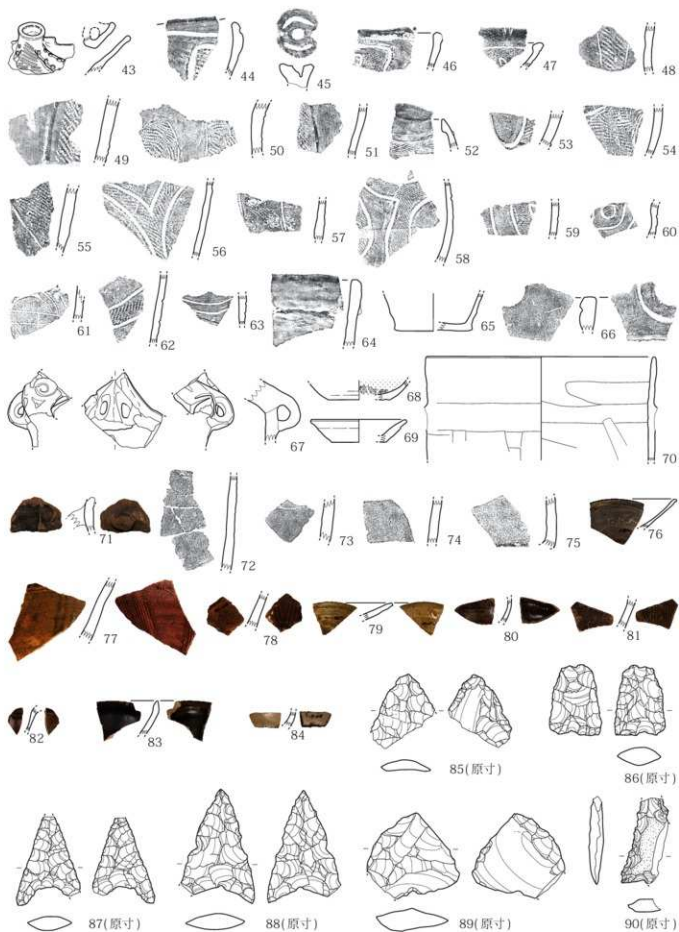
山伏木遺跡の調査が行われたのは平成元年であり、調査から 30 年の歳月が過ぎ去った。遺跡周辺では調査後に本格的な発掘調査を行う必要が生じるような開発は行われておらず、山伏木遺跡の調査は、当該地域の様相を知りえる重要な資料と言える。

縄文時代の成果としては、平坦な沖積平野にも中期の集落が展開することが判明したことが挙げられる。遺跡の北を東西に走る上信越自動車道の調査では、平尾富士の裾野部に立地する北山寺遺跡や丸山遺跡、大星尻古墳群などの遺跡が調査されているが、前期から中期初頭の遺構・遺物が主であり、当遺跡と同時期のものは稀である。上信越自動車道を更に遡り標高 900 m の香坂地区の吹付遺跡では、中期後半～後期前葉の集落が発見されており、当遺跡との時期的重複が確認できる。しかし中期後半の遺構・遺物は中期後半の後半部分である。以上から、平尾富士の山麓尾根根部に営まれていた縄文時代集落は、中期中葉の後半に沖積平野面に進出し中期後半加曾利 E II 期まで存続し、E III 期以降は再度山麓尾根根部や斜面に立地するものと、そのまま沖積平野面に展開するものに分かれ、双方とも後期前葉の堀之内期まで継続する。という想定が出来る。かなり乱暴な想定ではあるが、中期中葉の後半と中期後半の加曾利 E II 期、後期堀之内期に変化要因が存在するようである。遺物面からは、中期後半加曾利 E I から II 式期においては、加曾利系土器が主体であり、曾利式や唐草門系土器は主体ではない。石器に占める石鏃の比率は低く、打製石斧や加工痕のある剥片が多く認められることから、食料獲得手段としては採取の比重が高かったのかもしれない。後期については、東信地域では遺跡の減少化傾向はなく、むしろ増加しているように思われる。当遺跡では堀之内期で集落は断絶している。

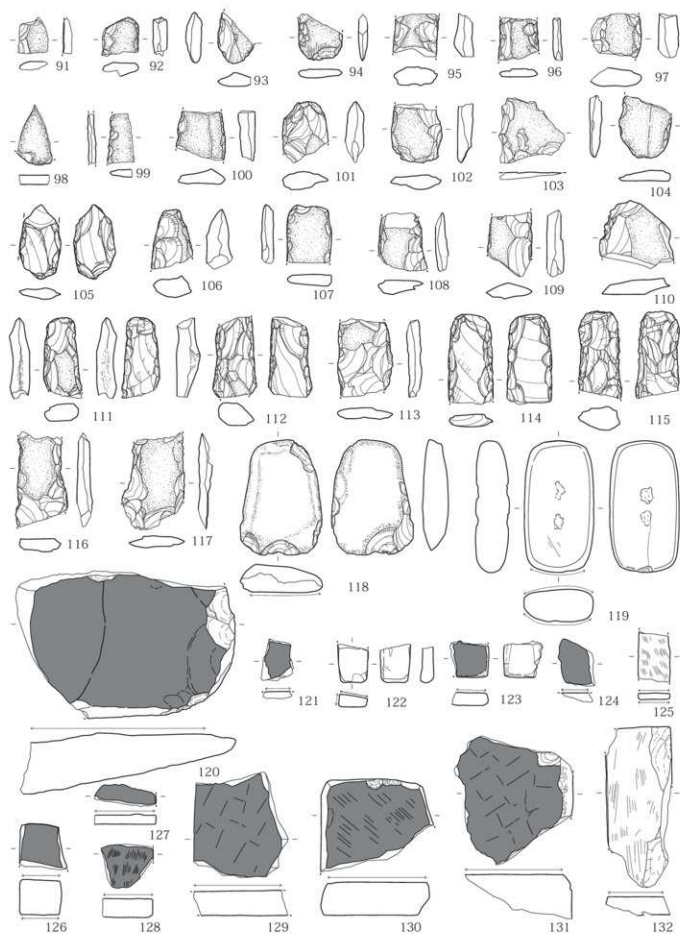
平安時代の集落は平尾富士裾野部や、尾根間の扇状地でも集落が発見されている。掘立柱建物址は少数で、住



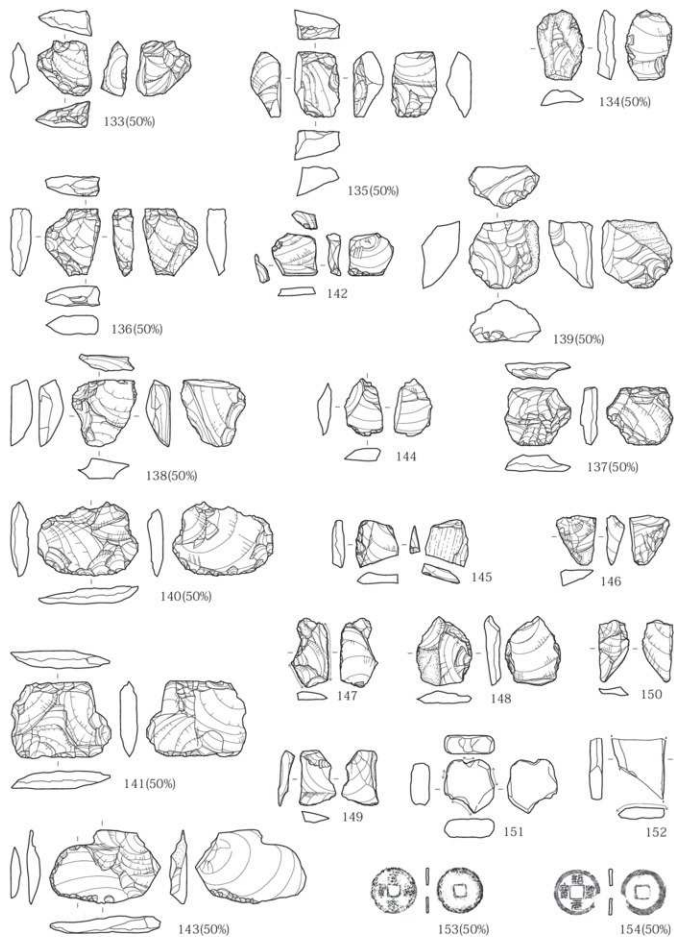
第 45 図 遺構外出土遺物 (1)



第46图 遺構外出土遺物(2)



第 47 図 遺構外出土遺物 (3)



第 48 图 遺構外出土遺物 (4)

遺構計測表(1)

遺構名	移出位置	重埋関係	規模			面積	ピット	付帯施設	備考	時期
			主軸方位	長さ	短径長					
H1	Q3	P9・31・38に切られる	N-22°-E	3.81	3.38	0.11	12.19	3カマド・周溝	南側の床面がベッド下に1段深い	奈良・平安時代V期
H2	N4	P2・2・339.40	N-0°-E	3.11	2.93	0.07	8.17	1カマド	—	奈良・平安時代V期
H3	N3	—	N-0°-E	4.02	3.87	0.24	12.2	床面5、扉方6カマド・周溝	東西中央の2基のピットが土柱穴	奈良・平安時代VI期
H4	I11	カケランに切られる	N-21°-E	3.69	3.51	0.13	9.34	14軒・周溝	南西出入口	中朝後半
H5	G10	Ta2~5、I03、カケランに切られる	N-13°-W	5.33	4.9	0.14	—	16軒・周溝	初周初床面よりやや深い	中朝後半
H6	F6	カケランに切られる	N-23°-W	4.88	4.85	0.32	—	15軒	—	中朝中葉(勝坂IV・井戸尻I)
H7	I5	調査区外に属する	—	—	0.29	—	7	—	—	中朝後半
D1	T4	SD3を切る	N-0°-E	1.46	1.35	0.41	1.58	—	—	—
D2	P4	SD2に切られる	—	—	0.22	—	—	—	底面2段	—
D3	R4	—	N-20°-W	0.68	0.49	0.2	0.28	—	—	—
D4	I12	—	N-12°-E	1.14	0.94	0.29	0.82	—	—	—
D5	F11	—	N-24°-W	1.64	1.1	0.2	1.37	3	—	—
D6	C11	—	N-15°-W	1.24	1.03	0.41	0.97	—	—	—
D7	C11	—	N-15°-W	1.13	0.98	0.29	0.91	—	—	—
D8	D11	—	N-0°-E	0.68	0.64	0.26	0.35	—	—	—
D9	D11	—	N-13°-W	1.34	1.17	0.47	1.25	—	—	—
D10	F7	—	N-7°-E	3.86	2.21	1.11	6.59	5	底面2段	—
D11	E11	—	N-30°-E	1.71	1.31	0.24	1.8	—	—	—
D12	G11	—	N-9°-W	1	0.8	0.13	0.59	3	—	—
D13	G11	D14を切る	N-90°-E	1.31	0.96	0.08	0.96	—	—	—
D14	G11	D13に切られる	N-8°-W	2.07	0.83	0.5	1.74	—	—	—
D15	B11	SD5に切られる	N-32°-W	0.74	—	0.18	—	—	—	—
D16	J12	—	N-26°-E	0.74	0.68	0.3	0.37	—	—	—
D17	J12	—	N-17°-W	0.68	0.6	0.21	0.33	—	—	—
D18	C10	カケランに切られる	N-62°-E	4.9	4.7	0.89	—	—	底面2段	—
D19	B11	—	N-50°-E	2.88	2.43	0.5	5.08	3	底面3段	—
D20	H8	SD6に切られる	N-12°-W	2.1	—	0.74	—	—	—	—
SD1	Q4	P37に切られる	N-90°-E	2.06	1.42	0.43	2.16	—	—	—
SD2	P4	D2を切る	N-67°-W	(142)	(126)	0.36	(1.32)	1	—	—
SD3	S4	D1に切られる	N-49°-W	4.23	3.32	0.42	—	—	5基の掘り込みにより構成される	—
SD4	L3	—	N-68°-W	2.55	1.98	0.18	4.11	—	—	—
SD5	C11	D15を切る	N-76°-W	3.17	2.9	—	6.8	—	井戸	中世以降
SD6	H8	D20を切る	N-72°-E	2.45	1.97	0.56	4	—	—	中世以降
SD7	K4	—	N-8°-W	2.35	1.41	0.22	3.15	—	—	近世
SD8	J7	—	N-30°-E	1.09	0.96	0.38	0.98	—	—	不明
Ta1	E10	カケランに切られる	N-90°-E	(406)	3.83	0.77	(11.9)	—	—	中世以降
Ta2	F10	H5・Ta3~5を切る	N-17°-W	5.19	4.92	0.52	22.83	—	—	中世以降
Ta3	F10	Ta2に切られる、Ta4を切る	—	—	—	0.45	—	—	—	中世以降
Ta4	G10	Ta2-3に切られる、Ta5を切る	—	—	—	0.4	—	—	—	中世以降
Ta5	G10	Ta2~4に切られる、H5を切る	—	—	—	0.11	—	—	—	中世以降
埋蔵1	I9	—	N-55°-E	0.84	0.78	0.35	0.5	—	入子	中朝末~後朝初頭
埋蔵2	L4	カケランに切られる	N-90°-W	3.15	2.36	0.54	5.49	—	—	中朝後半



居規模も総じて小規模である。今回発見された3軒の住居址も同様であり、山間の農村集落と思われる。

中世の遺構は、南側調査区の南東部分に集中しており、竪穴建物址と井戸が発見された。付近では北山寺遺跡から15世紀中頃から16世紀前半の遺構群が発見されている。年代的には判然としなが、東南方向に向かい遺構は続くものと思われる。

北側調査区に散在する集石土坑や土坑、ピットは近世の家の痕跡の可能性が強い。形状は知れないが、18世紀～19世紀に家が存在したものと思われる。

遺構計測表(2)

遺構名	平面形態	長軸長	短軸長	壁残高	重複関係	備考	検出位置
P 1	円形	0.95	0.87	0.44	—	10YR2/1	O4
P 2	円形	1.01	0.87	0.23 P3を切る	—	10YR2/1	O4
P 3	—	—	1.03	0.49 P2に切られる	—	10YR2/1	O4
P 4	円形	0.76	0.71	0.79	—	10YR2/1、パミス多含	N4
P 5	楕円形	0.81	0.56	0.32	—	10YR2/1	N4
P 6	楕円形	0.81	0.72	0.72	—	10YR2/1、パミス多含	M4
P 7	楕円形	0.77	0.7	0.23	—	10YR2/1、パミス多含	N4
P 8	円形	0.61	0.59	0.3	—	10YR2/1	N4
P 9	円形	0.87	0.79	0.9 H1を切る	—	10YR2/2、ローム粒・パミス多含	Q 3
P 1 0	楕円形	0.77	0.61	1.09	—	10YR2/3、ローム粒・パミス多含	P3
P 1 1	楕円形	1.29	1	0.76	—	1 10YR2/1、ローム粒・パミス多含 2 ローム主体	P3
P 1 2	楕円形	0.98	0.78	1.01	—	10YR2/1、ローム粒・ブロック多含	P3
P 1 3	円形	1.04	0.95	1.02	—	10YR2/1、ローム粒多含	Q 3
P 1 4	円形	1.22	1.16	0.95	—	10YR2/2、ローム粒・パミス多含	R3
P 1 5	方形	0.9	0.8	0.73	—	10YR2/2、ローム粒・パミス多含	R3
P 1 6	円形	0.81	0.71	0.74	—	10YR2/1、ローム多含	R3
P 1 7	楕円形	1.14	0.85	0.85	—	10YR2/1、ローム粒・パミス多含	R4
P 1 8	円形	0.73	0.66	0.61	—	10YR2/1、パミス多含	Q4
P 1 9	楕円形	0.99	0.85	1.05	—	10YR2/1、ローム・パミス多含	P4
P 2 0	円形	0.78	0.73	0.8	—	10YR2/1、ローム・パミス多含	P4
P 2 1	楕円形	0.89	0.8	0.94	—	10YR2/1、ローム・パミス多含	O4
P 2 2	円形	0.83	0.82	1.04	—	10YR2/1、ローム・パミス多含	P3
P 2 3	方形	0.77	0.71	0.31	—	10YR2/1、ローム・パミス多含	O3
P 2 4	楕円形	0.71	0.57	0.31	—	10YR2/1、ローム・パミス多含	O3
P 2 5	楕円形	0.91	0.73	0.47	—	10YR2/2、ローム粒・ブロック多含	Q2
P 2 6	円形	1.31	1.22	1.14	—	10YR2/2、ローム粒・ブロック多含	Q2
P 2 7	円形	1.63	1.44	0.85	—	10YR2/2、ローム粒・ブロック多含	R2
P 2 8	楕円形	0.51	0.43	0.58	—	—	R4
P 2 9	楕円形	1.36	1.08	0.91 底面2段	—	10YR2/1、ローム粒・ブロック多含	M4
P 3 0	楕円形	1.22	1.01	0.91	—	10YR2/1、ローム粒・ブロック多含	M4
P 3 1	長方形	0.66	0.53	0.99 H1を切る	—	10YR2/1	Q3
P 3 2	円形	0.81	0.8	0.63	—	10YR2/1	M1
P 3 3	楕円形	0.65	0.58	0.49	—	10YR2/1	M2
P 3 4	楕円形	0.75	0.65	0.86	—	—	N2
P 3 5	楕円形	1.15	0.98	0.86	—	—	N1
P 3 6	楕円形	1.05	0.75	0.35	—	—	O2
P 3 7	方形	0.53	0.5	0.57 SD1を切る	—	—	Q4
P 3 8	楕円形	1.06	0.89	0.59 H1を切る	—	—	Q3
P 3 9	楕円形	0.93	0.84	0.66 H2・P40を切る	—	—	O4
P 4 0	楕円形	—	0.9	0.53 H2・P39に切られる	—	—	O4

H 1 号住居址出土遺物観察表

N○	器種	器形	法			量	成形・調整			備考	出土層位
			口径(径)	底径(径)	器高(厚)		内面	外面			
1	土師器	杯	13.6 (17.4)	(6.0)	—	—	黒色処理	ヘラケズリ	同転表測	II区	
2	土師器	杯蓋	—	—	(4.2)	—	ミガキ→黒色処理 ナデ	同転ヘラケズリ→つまみ貼付 ヘラケズリ	同転表測	I・III区	
3	土師器	武甕槌	17.2	—	—	—	ナデ	ナデ	同転表測	I区	
4	土師器	武甕槌	20.4	—	—	—	ナデ	ナデ	同転表測	IV区	
5	石器	打製石斧	<5.35>	5.6	1.1	<42.7>	—	—	完全表測	カマド西	
6	石器	打製石斧	<5.8>	4.2	0.9	<51.0>	—	—	完全表測	I区	
7	石器	横刃型石器	<6.5>	<9.1>	0.9	<60.3>	—	—	完全表測	I区	
8	石器	磨石	23.2	11.3	6.5	2658.7	—	—	完全表測	S6	
9	石器	砥石	5.28	33.6	9.9	19820.0	砥面数1	—	完全表測	S1	

H 2 号住居址出土遺物観察表

N○	器種	器形	法			量	成形・調整			備考	出土層位
			口径(径)	底径(径)	器高(厚)		内面	外面			
1	土師器	杯	(14.4)	(6.0)	(4.5)	—	ヘラミガキ→黒色処理	底部・肩縁ヘラケズリ	同転表測	覆土	
2	土師器	杯	(14.5)	(7.0)	(3.6)	—	ヘラミガキ→黒色処理	同転糸切→ヘラケズリ・器蓋「？」	同転表測	II区	
3	土師器	武甕槌	(19.8)	—	(8.3)	—	ナデ	ヘラケズリ	同転表測	カマド内	
4	土師器	ロク口甕	(25.5)	—	<8.2>	—	ナデ	ヘラナデ	同転表測	カマド・II区	
5	須恵器	短頸甕	—	11.4	<132>	—	—	底部・肩縁ヘラケズリ	同転表測	II区・III区	

H 3 号住居址出土遺物観察表(1)

N○	器種	器形	法			量	成形・調整			備考	出土層位
			口径(径)	底径(径)	器高(厚)		内面	外面			
1	土師器	杯	(12.8)	5.7	4.8	—	黒色処理	同転糸切	完全表測	II区	
2	土師器	杯	12.9	5.2	4.5	—	黒色処理	同転糸切・器蓋「主」	完全表測	No3	
3	土師器	杯	13.0	7.5	3.9	—	黒色処理	同転糸切	完全表測	No4	
4	土師器	杯	(13.0)	—	<3.6>	—	黒色処理	同転糸切	同転表測	IV区	
5	土師器	杯	(13.2)	(6.4)	(4.6)	—	—	同転糸切	同転表測	カマド	
6	土師器	杯	(15.8)	—	<4.5>	—	黒色処理	同転糸切	同転表測	IV区	
7	土師器	杯	(16.6)	—	<5.1>	—	黒色処理	—	同転表測	II区	
8	土師器	杯	—	6.0	<2.7>	—	黒色処理	同転糸切	完全表測	No6	
9	土師器	杯	(6.0)	<2.3>	—	—	黒色処理	同転糸切	同転表測	カマド	
10	土師器	杯	—	(6.2)	<2.6>	—	黒色処理	同転糸切	同転表測	カマド	
11	土師器	杯	—	(6.2)	<3.5>	—	黒色処理・刷漉	同転糸切	同転表測	II区	
12	土師器	杯	—	(6.2)	<1.6>	—	ミガキ	同転糸切	同転表測	I区	
13	土師器	杯	—	(6.6)	<2.0>	—	黒色処理	同転糸切	同転表測	II区	
14	土師器	杯	—	(6.4)	<3.2>	—	黒色処理	同転糸切	同転表測	No5	
15	土師器	甕	(12.5)	(6.0)	(3.8)	—	火髹	同転糸切→付高台	同転表測	I区	
16	須恵器	杯	—	—	<1.9>	—	ナデ	同転糸切・火髹	同転表測	IV区	
17	須恵器	杯	—	(5.4)	<3.4>	—	—	—	同転表測	カマド	
18	須恵器	杯	—	(6.4)	<1.5>	—	ロク口ナデ	右同転糸切	同転表測	IV区	
19	灰陶器	甕	(15.8)	—	<2.2>	—	腕輪	腕輪	同転表測	II区	
20	灰陶器	甕	—	7.4	<2.1>	—	腕輪・劍書「財」	腕輪	完全表測	No1・2	
21	土師器	ロク口甕	(22.0)	—	<5.7>	—	ヘラケズリ	ヘラケズリ	同転表測	カマド	

H 3号住居址出土遺物調査表(2)

No	原形	高形	法			量	成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)		内面	外面		
22	土陶器	口ケロ皿	—	<18.4>	—	ハケ目	ヘラケズリ	同転製調	Ⅳ区	
23	石器・石製品	打製石斧	<3.6>	<5.1>	<17.8>	—	—	完全製調	Ⅳ区	
24	石器・石製品	打製石斧	<5.3>	<5.6>	<23.6>	—	—	完全製調	Ⅳ区	
25	石器・石製品	打製石斧	<5.7>	<5.8>	<35.6>	—	—	完全製調	Ⅳ区	
26	石器・石製品	打製石斧	<4.5>	<6.1>	<54.9>	—	—	完全製調	Ⅳ区	
27	石器・石製品	打製石斧	<7.0>	<4.1>	<78.3>	—	—	完全製調	Ⅰ区	
28	石器・石製品	打製石斧	<7.5>	<4.2>	<88.9>	—	—	完全製調	Ⅱ区	
29	石器・石製品	打製石斧	<8.8>	<6.7>	<29>	—	—	完全製調	Ⅲ区	
30	石器・石製品	加工組の有る剥片	4.3	1.3	16.9	安山岩	—	完全製調	Ⅲ区床	
31	石器・石製品	磨石	<10.1>	<15.6>	<1536.9>	断面1・被熱有	—	完全製調	S10	
32	石器・石製品	砥石	<15.5>	<17.2>	<2750.0>	底面1	—	完全製調	S13	
33	石器・石製品	砥石	22.5	20.0	5.6	底面2	—	完全製調	S4	

H 4号住居址出土遺物調査表(1)

No	原形	高形	法			量	成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)		内面	外面		
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	縄文・半蔵竹管並行状網目に斜目	—	破片製調・拓本・前期後半製調 b 式	覆土	
2	縄文土器	深鉢	—	(10.6)	<9.9>	蛇行縦帯・枕線文・縄文(RL)	—	同転製調・中期後半加管利 E II	覆土	
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	垂下隆帯・隆帯・枕線文・縄文(RL)	—	破片製調・拓本・中期後半加管利 E II	覆土	
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	隆帯・縄文(LR)	—	破片製調・拓本・中期後半加管利 E I	覆土	
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	半蔵竹管の隆帯	—	破片製調・拓本・中期後半加管利 E	覆土	
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	隆帯・縄文(LR)	—	破片製調・拓本・中期後半加管利 E	覆土	
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	隆帯・隆帯上の斜目・R 標系輪巻	—	破片製調・拓本・中期後半加管利 E I	覆土	
8	縄文土器	深鉢	—	—	—	隆帯・半蔵竹管枕線文	—	破片製調・拓本・中期後半加管利 E	覆土	
9	縄文土器	深鉢	—	—	—	隆帯・縄文(LR)の輪巻	—	破片製調・拓本・中期後半加管利 E	覆土	
10	縄文土器	深鉢	—	—	—	枕線文・縄文(RL)	—	破片製調・拓本・中期後半加管利 E II	覆土	
11	縄文土器	深鉢	—	—	—	蛇行枕線文・縄文(LR)	—	破片製調・拓本・中期後半加管利 E II	覆土	
12	縄文土器	深鉢	—	—	—	縄文(LR)	—	破片製調・拓本・中期後半加管利 E	覆土	
13	縄文土器	深鉢	—	—	—	羽根縄文(RL)	—	破片製調・拓本・前期	覆土	
14	縄文土器	深鉢	—	—	—	隆帯・隆帯・枕線文・縞杉枕線文	—	破片製調・拓本・中期後半加管利 E II	覆土	
15	縄文土器	深鉢	—	—	—	隆帯・枕線文	—	破片製調・拓本・中期後半加管利 E II	覆土	
16	縄文土器	深鉢	—	—	—	縞杉枕線文	—	破片製調・拓本・中期後半加管利 E II	覆土	
17	縄文土器	深鉢	—	—	—	縞杉枕線文	—	破片製調・拓本・中期後半加管利 E II	覆土	
18	縄文土器	深鉢	—	—	—	縞杉枕線文	—	破片製調・拓本・中期後半加管利 E II	覆土	
19	縄文土器	深鉢	—	—	—	縞杉枕線文	—	破片製調・拓本・中期後半加管利 E II	覆土	
20	縄文土器	深鉢	—	—	—	縞杉枕線文	—	破片製調・拓本・中期後半加管利 E II	覆土	
21	縄文土器	深鉢	—	—	—	隆帯・枕線文	—	破片製調・拓本・中期後半加管利 E II	覆土	
22	縄文土器	深鉢	—	—	—	隆帯・枕線文・縄文	—	破片製調・拓本・中期後半加管利 E II	覆土	
23	縄文土器	深鉢	—	—	—	条線	—	破片製調・拓本・中期後半加管利 E II	覆土	
24	縄文土器	深鉢	—	—	—	条線	—	破片製調・拓本・中期後半加管利 E II	覆土	
25	縄文土器	深鉢	—	—	—	条線	—	破片製調・拓本・中期後半加管利 E II	覆土	
26	縄文土器	深鉢	—	(12.2)	<3.6>	—	—	同転製調	覆土	
27	縄文土器	深鉢	—	—	—	縞隆帯・枕線文・縄文	—	破片製調・拓本・中期末～後期初頭	覆土	

H 4号住居址出土遺物調査表(2)

N○	器種	形状	法		量	成形・調整		備考	出土層位
			口徑(長)	径(短)		内面	外面		
28	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片実測・拓本、中期末	覆土
29	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片実測・拓本、中期末	覆土
30	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片実測・拓本、中期末～後期初頭	覆土
31	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片実測・拓本、中期末～後期初頭	覆土
32	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片実測・拓本、中期末～後期初頭	覆土
33	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片実測・拓本、中期末～後期初頭	覆土
34	縄文土器	深鉢	—	(90)	<2.5>	—	—	破片実測・拓本、中期末～後期初頭	覆土
35	土師器	鉢	—	—	—	—	ヘラミガキ	完全実測	覆土
36	石器・石製品	打製石斧	7.0	5.6	1.4	71.4	—	完全実測	覆土
37	石器・石製品	打製石斧	12.5	7.8	2.0	277.8	安山岩	完全実測	覆土
38	石器・石製品	打製石斧	15.0	6.0	1.1	120.7	安山岩	完全実測	覆土
39	石器・石製品	磨・砥石	11.4	8.5	2.8	283.2	断面1・敲打痕	完全実測	覆土
40	石器・石製品	石皿	19.4	20.5	5.8	3280.0	使用面2	完全実測	覆土
41	石器・石製品	石皿	43.65	24.0	11.5	25430.0	使用面2	完全実測	覆土
42	石器・石製品	加工痕のある削片	4.5	4.3	1.5	33.3	安山岩	完全実測	覆土
43	石器・石製品	加工痕のある削片	9.1	9.3	1.6	94.3	安山岩	完全実測	覆土
44	石器・石製品	加工痕のある削片	9.2	4.0	1.6	44.6	安山岩	完全実測	覆土
45	石器・石製品	加工痕のある削片	10.7	3.5	1.1	33.9	安山岩	完全実測	覆土

H 5号住居址出土遺物調査表(1)

N○	器種	形状	法		量	成形・調整		備考	出土層位
			口徑(長)	径(短)		内面	外面		
1	縄文土器	深鉢	(15.0)	—	—	—	—	—	覆土
2	縄文土器	深鉢	(12.6)	—	—	—	—	—	覆土
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	覆土
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	覆土
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	覆土
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	覆土
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	覆土
8	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	覆土
9	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	覆土
10	縄文土器	深鉢	(55.0)	—	—	—	—	—	覆土
11	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	覆土
12	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	覆土
13	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	覆土
14	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	覆土
15	縄文土器	深鉢	—	7.1	—	—	—	—	覆土
16	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	覆土
17	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	覆土
18	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	覆土
19	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	覆土
20	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	覆土
21	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	覆土

H 5 号住原址出土遺物調査表(2)

No	原形	法			量	成形・調整			備考	出土層位
		口径(長)	底径(短)	底高(厚)		内 面	外 面	外 面		
22	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	—	—	—	破片夾層・拓木、中期中葉焼町	覆土
23	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	—	—	—	破片夾層・拓木、中期中葉焼町	覆土
24	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	—	—	—	破片夾層・拓木、中期中葉焼町	覆土
25	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	—	—	—	破片夾層・拓木、中期後半	覆土
26	縄文土器 浅鉢	(27.3)	—	—	—	—	—	—	回転夾層、中期後半	覆土
27	縄文土器 浅鉢	(23.8)	—	—	—	—	—	—	回転夾層、中期後半	覆土
28	縄文土器 浅鉢	—	—	—	—	—	—	—	破片夾層・拓木、中期後半	覆土
29	縄文土器 浅鉢	—	—	—	—	—	—	—	破片夾層、中期後半	覆土
30	縄文土器 浅鉢	—	—	—	—	—	—	—	破片夾層、中期後半	覆土
31	縄文土器 浅鉢	—	—	—	—	—	—	—	破片夾層、中期後半	覆土
32	縄文土器 浅鉢	—	—	—	—	—	—	—	完全夾層	覆土
33	石器・石製品 石鏃	2	1.6	0.6	—	—	—	—	完全夾層	覆土
34	石器・石製品 石鏃未成品	1.8	1.4	0.7	—	1.2 安山岩	—	—	完全夾層	覆土
35	石器・石製品 石鏃	2.2	0.7	0.55	—	1.4 黒曜石	—	—	完全夾層	覆土
36	石器・石製品 打製石斧	5.4	4.9	1	39.5	0.5 黒曜石	—	—	完全夾層	覆土
37	石器・石製品 凹・磨・敲石	11.6	8.3	4.95	713.4	磨面2、花園岩	—	—	完全夾層	覆土
38	石器・石製品 磨石	9	9.7	6.95	1117.9	磨面2	—	—	完全夾層	覆土
39	石器・石製品 磨石	10.65	9.7	1.7	362.7	磨面1	—	—	完全夾層	覆土
40	石器・石製品 磨・敲の台石	32.35	25.5	5.15	7070	磨面1、焼熱	—	—	完全夾層	覆土
41	石器・石製品 側刃製石器	13.5	6.2	1.5	101.5	安山岩	—	—	完全夾層	覆土
42	石器・石製品 加工組の有る剥片	4.0	4.6	1.1	19.1	安山岩	—	—	完全夾層	覆土
43	石器・石製品 加工組の有る剥片	8.0	7.2	3.8	202.6	安山岩	—	—	完全夾層	覆土
44	石器・鉄製品 釘	—	—	—	<4.6>	—	—	—	完全夾層	覆土

H 6 号住原址出土遺物調査表(1)

No	原形	法			量	成形・調整			備考	出土層位
		口径(長)	底径(短)	底高(厚)		内 面	外 面	外 面		
1	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	—	—	—	破片夾層・拓木、早期未採田式	覆土
2	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	—	—	—	破片夾層、中期中葉焼町	覆土
3	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	—	—	—	破片夾層、中期中葉焼町	覆土
4	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	—	—	—	破片夾層、中期中葉焼町	覆土
5	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	—	—	—	破片夾層、中期中葉焼町	覆土
6	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	—	—	—	破片夾層、中期中葉焼町	覆土
7	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	—	—	—	破片夾層、中期中葉焼町	覆土
8	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	—	—	—	破片夾層、中期中葉焼町	覆土
9	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	—	—	—	破片夾層・拓木、中期中葉焼町	覆土
10	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	—	—	—	破片夾層、中期中葉焼町	覆土
11	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	—	—	—	破片夾層、中期中葉焼町	覆土
12	縄文土器 深鉢	(14.6)	—	—	—	—	—	—	回転夾層・拓木、中期中葉焼町	覆土
13	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	—	—	—	破片夾層、中期中葉	覆土
14	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	—	—	—	回転夾層・拓木、中期中葉焼町	覆土
15	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	—	—	—	回転夾層・拓木、中期中葉焼町	覆土
16	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	—	—	—	回転夾層・拓木、中期中葉焼町	覆土

H 6号住居址出土遺物調査表(2)

N.O	器種	器形	法		量	成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		内面	外面		
17	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片表割・拓本	覆土
18	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片表割・拓本、中期中葉磨坂式	覆土
19	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	回転表割・拓本、中期中葉磨坂式	覆土
20	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	回転表割・拓本、中期中葉磨坂式	覆土
21	縄文土器	深鉢	—	5.7	(2.8)	—	—	回転表割・拓本	覆土
22	縄文土器	浅鉢	—	—	—	—	—	破片表割・中期中葉	覆土
23	縄文土器	浅鉢	—	—	—	—	—	破片表割・拓本、中期中葉	覆土
24	縄文土器	浅鉢	—	—	—	—	—	破片表割・拓本、中期中葉	覆土
25	縄文土器	浅鉢	—	—	—	—	—	破片表割・拓本、中期中葉	覆土
26	縄文土器	浅鉢	—	—	—	—	—	破片表割・拓本、中期中葉	覆土
27	縄文土器	釣手	—	—	—	—	—	破片表割・拓本、中期中葉	覆土
28	縄文土器	石鏝	<2.3>	2.2	0.6	2.5	—	完全表割	覆土
29	石器・石製品	打製石斧	8.7	5.6	1.8	125.1	—	完全表割	覆土
30	石器・石製品	打製石斧	10.3	5.8	2.7	199	—	完全表割	覆土
31	石器・石製品	打製石斧	11.7	3.9	1.6	83.9	—	完全表割	覆土
32	石器・石製品	打製石斧	18.1	4.9	1.3	126.8	—	完全表割	覆土
33	石器・石製品	加工痕の有る刮片	3.1	3.4	1.1	9.5	—	完全表割	覆土
34	石器・石製品	加工痕の有る刮片	3.5	4.4	1.3	19.6	—	完全表割	覆土
35	石器・石製品	加工痕の有る刮片	5.0	3.8	1.7	26.7	—	完全表割	覆土
36	石器・石製品	加工痕の有る刮片	5.5	5.8	1.5	53.2	—	完全表割	覆土
37	石器・石製品	加工痕の有る刮片	6.8	4.8	2.0	42.0	—	完全表割	覆土
38	石器・石製品	加工痕の有る刮片	7.2	4.8	1.8	41.9	—	完全表割	覆土
39	石器・石製品	磨石	10.0	9.8	3.0	452.0	—	完全表割	覆土
40	石器・石製品	磨石	<9.9>	<10.0>	<9.7>	<1000.0>	—	完全表割	覆土
41	石器・石製品	磨石	—	—	—	—	—	完全表割	覆土
42	石器・石製品	磨石	—	—	—	—	—	完全表割	覆土

H 7号住居址出土遺物調査表

N.O	器種	器形	法		量	成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		内面	外面		
1	縄文	深鉢	—	—	—	—	—	破片表割・拓本、中期後半加賀利E	覆土
2	縄文	深鉢	—	—	—	—	—	破片表割・拓本、中期後半磨坂	覆土
3	縄文	深鉢	—	—	—	—	—	破片表割・拓本、中期後半磨坂	覆土
4	縄文	浅鉢	—	—	—	—	—	破片表割・拓本、中期後半磨坂	覆土
5	縄文	浅鉢	—	(10.2)	(10.1)	—	—	回転表割	覆土
6	石器・石製品	打製石斧	(5.0)	(5.0)	(1.3)	(37.4)	—	完全表割	覆土
7	石器・石製品	使用痕のある刮片	(5.4)	(6.7)	(0.9)	(30.2)	—	完全表割	覆土

D 2号土坑出土遺物調査表

N.O	器種	器形	法		量	成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		内面	外面		
1	土器焼	皿	—	—	—	—	—	破片表割・写真、17世紀	覆土

D 3 号土坑出土遺物調査表

N○	器種	器形	法			量			成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)	重量	内面	外面	内面	外面		
1	土師器	坏	(15.1)	—	—	—	—	—	—	—	—	覆土
2	土師器	皿	—	(5.2)	<1.0>	—	—	—	—	—	—	覆土
3	灰陶器	碗	—	(7.6)	—	—	—	—	—	—	—	覆土
4	灰陶器	長頸瓶	—	—	—	—	—	—	—	—	—	覆土
5	石器・石製品	砥石	<10.5>	<10.1>	2.5	<390.0>	—	—	—	—	—	覆土
6	石器・石製品	砥石	<8.7>	<12.0>	2.0	<458.0>	—	—	—	—	—	覆土
7	石器・石製品	砥石	18.5	<20.7>	5.9	<2568.0>	—	—	—	—	—	覆土

D 4 号土坑出土遺物調査表

N○	器種	器形	法			量			成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)	重量	内面	外面	内面	外面		
1	縄文	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	覆土
2	縄文	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	覆土
3	縄文	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	覆土
4	縄文	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	覆土
5	縄文	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	覆土
6	縄文	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	覆土
7	縄文	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	覆土
8	縄文	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	覆土
9	縄文	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	覆土
10	縄文	深鉢	<5.3>	<4.4>	<1.9>	<38.8>	—	—	—	—	—	覆土
11	石器・石製品	打製石斧	15.9	7.7	2.0	288.6	砥面 1	—	—	—	—	覆土
12	石器・石製品	打製石斧	9.3	7.4	6.0	678.3	凹 1 ヶ所	—	—	—	—	覆土
13	石器・石製品	砥石?	—	—	—	—	—	—	—	—	—	覆土
14	石器・石製品	磨石・凹石	<11.7>	<13.5>	<11.7>	<3390.0>	安山岩	—	—	—	—	覆土

D 5 号土坑出土遺物調査表

N○	器種	器形	法			量			成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)	重量	内面	外面	内面	外面		
1	土師質土器	内耳瓶	—	—	—	—	—	—	—	—	—	覆土
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	覆土
3	石器・石製品	砥石	15.0	<11.7>	3.3	<1054.7>	砥面 1	—	—	—	—	覆土
4	石器・石製品	砥石	19.7	14.6	3.6	1,900	砥面 1、全面に帯付着	—	—	—	—	覆土
5	石器・石製品	砥石	10.7	22.5	10.5	3,340	砥面 2	—	—	—	—	覆土

D 6 号土坑出土遺物調査表 (1)

N○	器種	器形	法			量			成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)	重量	内面	外面	内面	外面		
1	縄文	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	覆土
2	縄文	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	覆土
3	縄文	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	覆土
4	縄文	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	覆土
5	縄文	深鉢	(16.6)	—	—	—	—	—	—	—	—	覆土
6	縄文	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	覆土

D 6号土坑出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法		量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内面	外面		
7	縄文	深鉢	—	—	—	—	沈線文	—	破片実測・拓本、中期中葉晩町	覆土
8	縄文	有孔野付土器?	—	—	—	—	隆帯	—	破片実測・拓本、中期中葉晩坂	覆土
9	石器・石製品	石槌	<2.0>	<1.8>	0.3	<1.0>	黒曜石	—	完全実測	覆土

D 7号土坑出土遺物観察表

No	器種	器形	法		量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内面	外面		
1	縄文	深鉢	—	—	—	—	R縹系軸帯・短巾隆帯	—	破片実測・拓本、中期中葉晩坂	覆土
2	縄文	深鉢	—	—	—	—	沈線文・縄文(脱)	—	破片実測・拓本、後期命名式	覆土

D 9号土坑出土遺物観察表

No	器種	器形	法		量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内面	外面		
1	土師器	皿	8.8	6.0	2.4	—	煤付着	—	完全実測	No3
2	石器・石製品	磨・敲石	11.6	4.3	3.8	27.8	両端部敲、その他の面磨り	回転糸切、煤付着	完全実測	覆土
3	石器・石製品	磨石	<42.4>	21.7	23.0	<32800>	断面1	—	完全実測	覆土

D 10号土坑出土遺物観察表

No	器種	器形	法		量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内面	外面		
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線・半截竹管押引文	—	破片実測・拓本、中期後半曾利I	覆土
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線	—	破片実測・拓本、中期後半曾利E	覆土
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線・隆帯・縄文LR	—	破片実測・拓本、中期後半曾利EIV	覆土
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線・隆帯・縄文LR	—	破片実測・拓本、中期後半曾利EIV	覆土
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線	—	破片実測・拓本	覆土
6	石器・石製品	楕円型石器	5.1	7.8	0.9	46.5	—	—	完全実測	覆土

D 15号土坑出土遺物観察表

No	器種	器形	法		量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内面	外面		
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線・隆帯	—	破片実測・拓本、中期後半	覆土
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線	—	破片実測・拓本、中期後半	覆土

D 18号土坑出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法		量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内面	外面		
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯刺刺、朝突門	—	破片実測・拓本、中期中葉阿玉台II式	覆土
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯	—	破片実測・拓本、中期中葉晩町土器	覆土
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯、双環状突起	—	破片実測・拓本、中期中葉晩坂式	覆土
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	渦巻文	—	破片実測・拓本、中期中葉晩坂式	覆土
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯	—	破片実測・拓本、中期中葉晩坂式	覆土
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯	—	破片実測・拓本、中期中葉晩坂式	覆土
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯	—	破片実測・拓本、中期中葉晩坂式	覆土
8	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯上に半截竹管による押引、半截竹管による隆縁	—	回転実測、中期後半曾利I式	覆土



D 18号土坑出土文物觀察表(2)

N <sub>o</sub>	高径	形状	去		量	面		形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		底高(寸)	(重量)	内 面	外 面		
9	陶文土器	深鉢	—	—	—	—	—	隆帯上半周竹管による押引、半周竹管による隆線	—	破片実測・拓本、中期後半曾利Ⅰ式	覆土
10	陶文土器	深鉢	—	—	—	—	—	隆帯	—	破片実測・拓本、中期後半曾利Ⅰ式	覆土
11	陶文土器	深鉢	—	—	—	—	—	無文	—	破片実測・拓本、中期後半曾利Ⅰ式	覆土
12	陶文土器	深鉢	—	—	—	—	—	無文	—	破片実測・拓本、中期後半曾利Ⅰ式	覆土
13	陶文土器	深鉢	—	—	—	—	—	隆帯、弧状沈線	—	破片実測・拓本、中期後半曾利Ⅳ・Ⅴ式	覆土
14	陶文土器	深鉢	—	—	—	—	—	隆帯、弧状沈線	—	破片実測・拓本、中期後半曾利Ⅳ・Ⅴ式	覆土
15	陶文土器	深鉢	—	—	—	—	—	隆帯、弧状沈線	—	破片実測・拓本、中期後半曾利Ⅳ・Ⅴ式	覆土
16	陶文土器	深鉢	—	—	—	—	—	調査文、重状沈線	—	破片実測・拓本、中期後半曾利Ⅳ式	覆土
17	陶文土器	深鉢	—	—	—	—	—	矢羽状沈線	—	破片実測・拓本、中期後半曾利Ⅳ式	覆土
18	陶文土器	深鉢	(24.8)	—	—	—	—	凹形刺突文、沈線、縄文	—	破片実測・拓本、中期後半曾利Ⅳ式	覆土
19	陶文土器	深鉢	—	—	—	—	—	無文	—	破片実測・拓本、中期後半曾利Ⅳ式	覆土
20	陶文土器	深鉢	—	—	—	—	—	無文	—	破片実測・拓本、中期後半	覆土
21	陶文土器	浅鉢	—	—	—	—	—	無文	—	破片実測・拓本、中期後半	覆土
22	陶文土器	浅鉢	—	—	—	—	—	無文	—	破片実測・拓本、中期後半	覆土
23	陶文土器	浅鉢	—	—	—	—	—	赤彩	—	破片実測・拓本、中期後半	覆土
24	陶文土器	浅鉢	—	—	—	—	—	無文	—	破片実測・拓本、中期後半	覆土
25	陶文土器	深鉢	11	—	—	—	—	無文	—	破片実測・拓本、中期後半	覆土
26	陶文土器	深鉢	—	—	—	—	—	無文	—	破片実測・拓本、中期後半	覆土
27	陶文土器	深鉢	—	—	—	—	—	隆帯、刺突、沈線、縄文(L.R)	—	破片実測・拓本、後期階各等式	覆土
28	陶文土器	深鉢	—	—	—	—	—	押圧隆帯	—	破片実測・拓本、後期	覆土
29	陶文土器	深鉢	—	—	—	—	—	押圧隆帯	—	破片実測・拓本、後期	覆土
30	陶文土器	深鉢	—	—	—	—	—	沈線、凹文	—	破片実測・拓本、後期	覆土
31	陶文土器	深鉢	—	—	—	—	—	扇状隆帯胎に凹形刺突列	—	破片実測・拓本、後期	覆土
32	陶文土器	深鉢	—	—	—	—	—	沈線、縄文(L.R)	—	破片実測・拓本、後期	覆土
33	陶文土器	深鉢	—	—	—	—	—	沈線、縄文(R.L)	—	破片実測・拓本、後期	覆土
34	陶文土器	深鉢	—	—	—	—	—	沈線、縄文	—	破片実測・拓本、後期	覆土
35	陶文土器	深鉢	—	—	—	—	—	沈線	—	破片実測・拓本、後期	覆土
36	陶文土器	深鉢	—	—	—	—	—	沈線、縄文(L.R)	—	破片実測・拓本、後期	覆土
37	陶文土器	深鉢	—	—	—	—	—	沈線	—	破片実測・拓本、後期	覆土
38	陶文土器	深鉢	—	—	—	—	—	口唇部に1本の沈線	—	破片実測・拓本、後期	覆土
39	陶文土器	深鉢	—	—	—	—	—	口唇部に2本の沈線	—	破片実測・拓本、後期	覆土
40	陶文土器	深鉢	(29.5)	—	(21.3)	—	—	口唇部に「8」字状胎付文、沈線、縄文、口唇部に刻目	—	完全実測、後期階之内1式	覆土
41	陶文土器	深鉢	—	—	—	—	—	扇状隆帯、「8」字状胎付文、沈線、縄文	—	完全実測、後期階之内1式	覆土
42	陶文土器	深鉢	14	7.95	13.3	—	—	扇状隆帯、沈線、縄文、細代底	—	完全実測、後期階之内2式	覆土
43	陶文土器	深鉢	15	5.65	11.8	—	—	扇状隆帯、沈線、縄文、細代底	—	完全実測、後期階之内2式	覆土
44	陶文土器	深鉢	—	—	—	—	—	沈線	—	完全実測、後期階之内2式	覆土
45	陶文土器	深鉢	(20.8)	—	—	—	—	扇状隆帯、「8」字状胎付文、沈線、縄文(L.R)、波状口縁	—	完全実測、後期階之内2式	覆土
46	陶文土器	深鉢	—	—	—	—	—	扇状隆帯、「8」字状胎付文、沈線、縄文	—	完全実測、後期階之内2式	覆土
47	陶文土器	深鉢	(19.6)	—	—	—	—	扇状隆帯、「8」字状胎付文、沈線、縄文	—	完全実測、後期階之内2式	覆土
48	陶文土器	深鉢	(28.2)	—	(19.95)	—	—	沈線、縄文(L.R)、口唇部に刻目	—	完全実測、後期階之内2式	覆土
49	陶文土器	深鉢	(18.8)	—	—	—	—	扇状隆帯、「8」字状胎付文、沈線、縄文	—	完全実測、後期階之内2式	覆土
50	陶文土器	深鉢	—	—	—	—	—	沈線、縄文(L.R)	—	完全実測、後期階之内2式	覆土
51	陶文土器	深鉢	—	—	—	—	—	扇状隆帯、沈線、縄文	—	破片実測・拓本、後期階之内2式	覆土

D 18号土坑出土物総覧表(3)

N°	高径	形状	去			量		面		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	底高(厚)	重量	内面	外面			
52	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本、後期型之内期	覆土
53	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本、後期型之内期	覆土
54	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本、後期型之内期	覆土
55	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本、後期型之内期	覆土
56	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本、後期型之内期	覆土
57	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本、後期型之内期	覆土
58	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本、後期型之内期	覆土
59	縄文土器	深鉢	(10.6)	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本、後期型之内期	覆土
60	縄文土器	深鉢	16.15 (20.7)	8.9 (11.2)	10.9 (25.0)	—	—	—	—	破片実測・拓本、後期型之内期	覆土
61	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本、後期型之内期	覆土
62	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本、後期型之内期	覆土
63	縄文土器	注口	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・後期型之内期	覆土
64	縄文土器	注口	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・後期型之内期	覆土
65	縄文土器	注口	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・後期型之内期	覆土
66	土製品	土器片円盤	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本、	覆土
67	土製品	土器片円盤	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本、	覆土
68	土製品	土器片円盤	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本、	覆土
69	土製品	土器片円盤	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本、	覆土
70	土製品	土器片円盤	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本、	覆土
71	土製品	土器片円盤	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本、	覆土
72	土製品	土器片円盤	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本、	覆土
73	土製品	土器片円盤	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本、	覆土
74	土製品	杯	(12.0)	(4.5)	(4.5)	—	—	—	—	同形実測・拓本、 同形実測・平安時代	覆土
75	土師器	内耳罎	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本、	覆土
76	石器・石製品	石鏃	<1.75>	<1.2>	<0.4>	<0.5>	黒曜石	—	—	完全実測	覆土
77	石器・石製品	石鏃	<1.85>	<1.2>	<0.3>	<0.4>	黒曜石	—	—	完全実測	覆土
78	石器・石製品	石鏃	<1.8>	<1.5>	<0.6>	<1.0>	黒曜石	—	—	完全実測	覆土
79	石器・石製品	石鏃	<2.1>	<1.5>	<0.6>	<1.0>	チャート	—	—	完全実測	覆土
80	石器・石製品	石鏃	<2.5>	<1.7>	<0.6>	<1.5>	—	—	—	完全実測、未成品、黒曜石	覆土
81	石器・石製品	石鏃	2.5	1.2	0.5	1.2	—	—	—	完全実測、黒曜石	覆土
82	石器・石製品	打製石斧	<4.4>	<3.1>	<0.9>	<14.6>	—	—	—	完全実測	覆土
83	石器・石製品	打製石斧	<4.2>	<3.7>	1	<19.1>	—	—	—	完全実測	覆土
84	石器・石製品	打製石斧	<3.6>	<3.4>	1.1	<24.3>	—	—	—	完全実測	覆土
85	石器・石製品	打製石斧	<4.2>	<4.9>	1	<22.3>	—	—	—	完全実測	覆土
86	石器・石製品	打製石斧	<5.0>	5	0.9	<26.9>	—	—	—	完全実測	覆土
87	石器・石製品	打製石斧	<5.2>	4.9	1.3	<43.9>	—	—	—	完全実測	覆土
88	石器・石製品	打製石斧	<5.6>	5.1	1.1	<42.1>	—	—	—	完全実測	覆土
89	石器・石製品	打製石斧	<5.7>	5.2	1.4	<56.9>	—	—	—	完全実測	覆土
90	石器・石製品	打製石斧	<6.0>	5.7	1.1	<50.7>	—	—	—	完全実測	覆土
91	石器・石製品	打製石斧	<6.5>	5.9	1.1	<82.0>	—	—	—	完全実測	覆土
92	石器・石製品	打製石斧	<7.2>	6.3	1.1	<68.9>	—	—	—	完全実測	覆土
93	石器・石製品	打製石斧	<7.3>	6.1	1.7	<84.1>	—	—	—	完全実測	覆土
94	石器・石製品	打製石斧	<8.9>	5.5	1	<43.9>	—	—	—	完全実測	覆土

D 18 号土坑出土遺物観察表 (4)

No	器種	器形	法		量	成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		高さ(厚)	重量		
95	石器・石製品	打製石斧	<7.3>	5	1.2	<68.2>	-	完全未測	覆土
96	石器・石製品	打製石斧	<8.0>	7.5	1.3	<93.6>	-	完全未測	覆土
97	石器・石製品	打製石斧	<8.7>	5.4	1.1	<72.5>	-	完全未測	覆土
98	石器・石製品	打製石斧	<8.3>	4.9	1.8	<134.8>	-	完全未測	覆土
99	石器・石製品	打製石斧	<10.9>	4.7	1.3	<226.0>	-	完全未測	覆土
100	石器・石製品	打製石斧	<16.3>	11.3	2.7	<499.9>	-	完全未測	覆土
101	石器・石製品	磨石	<3.3>	4.7	<0.7>	<14.8>	-	完全未測、磨面 2	覆土
102	石器・石製品	磨石	<9.8>	6.4	<5.1>	<381.0>	-	完全未測、磨面 1	覆土
103	石器・石製品	磨石	10.6	9.9	7.2	1026.7	-	完全未測、磨面 1	覆土
104	石器・石製品	磨石	7.1	10	<6.1>	<636.3>	-	完全未測、磨面 2	覆土
105	石器・石製品	磨石	<10.8>	8.8	<7.3>	<1210.0>	-	完全未測、磨面 1	覆土
106	石器・石製品	磨石	12.3	9.4	3.7	<512.7>	-	完全未測、磨面 1	覆土
107	石器・石製品	磨石	<8.8>	<12.2>	<3.1>	<441.2>	-	完全未測、磨面 1	覆土
108	石器・石製品	磨石	<12.3>	8.7	<4.1>	<836.7>	-	完全未測、磨面 1	覆土
109	石器・石製品	磨石	<12.8>	<8.7>	<4.2>	<902.0>	-	完全未測、磨面 2	覆土
110	石器・石製品	磨石	<10.3>	12.6	5.5	<715.4>	-	完全未測、磨面 1	覆土
111	石器・石製品	磨石	<12.0>	11.9	<8.9>	<1990.0>	-	完全未測、磨面 1	覆土
112	石器・石製品	磨石	<13.1>	<9.3>	<6.8>	<1636.2>	-	完全未測、磨面 1	覆土
113	石器・石製品	磨石	<13.2>	<11.0>	<3.1>	<746.9>	-	完全未測、磨面 1	覆土
114	石器・石製品	磨石	16.7	<8.7>	<1.4>	<244.1>	-	完全未測、磨面 1	覆土
115	石器・石製品	磨石	<13.6>	<12.9>	8.8	<1621.2>	-	完全未測、磨面 1	覆土
116	石器・石製品	磨石	<8.9>	15.9	5.5	<1272.3>	-	完全未測、磨面 1	覆土
117	石器・石製品	磨石	<14.7>	<14.3>	<8.0>	<2420.0>	-	完全未測、磨面 1	覆土
118	石器・石製品	磨石	<15.5>	<12.4>	<12.0>	<3590.0>	-	完全未測、磨面 1	覆土
119	石器・石製品	磨石	<20.7>	<15.6>	<9.7>	<4330.0>	-	完全未測、磨面 1	覆土
120	石器・石製品	磨石	<21.0>	<14.0>	<13.3>	<4500.0>	-	完全未測、磨面 1	覆土
121	石器・石製品	磨・敲石	<5.4>	7.3	2.2	<151.6>	-	完全未測、砂岩	覆土
122	石器・石製品	磨・敲石	11.7	8.8	3.9	622.7	-	完全未測、砥面 1・砥面 2	覆土
123	石器・石製品	磨・敲石	<16.3>	<11.7>	<6.6>	<1297.4>	-	完全未測、砥面 2・砥面 1	覆土
124	石器・石製品	磨・敲石	12	<15.7>	<3.8>	<867.9>	-	完全未測、砥面 1・砥面 1	覆土
125	石器・石製品	磨・敲石	<43.7>	<24.2>	<13.8>	-	-	完全未測	覆土
126	石器・石製品	磨・凹石	22.7	19.2	18.8	14180	-	完全未測、砥面 1・凹 1	覆土
127	石器・石製品	石皿	<22.6>	27.1	13.1	-	-	完全未測、砥面 2	覆土
128	石器・石製品	石皿	<20.8>	<19.0>	<9.0>	<3120.0>	-	完全未測、砥面 1・硯熱	覆土
129	石器・石製品	砥石	29.2	<21.4>	<7.0>	<5700.0>	-	完全未測、黒曜石	覆土
130	石器・石製品	スクレイパー	3.2	2.6	1.7	9.5	-	完全未測、安山岩	覆土
131	石器・石製品	横刃型石器	5.4	6.7	1	29.6	-	完全未測	覆土
132	石器・石製品	横刃型石器	6.8	6.3	2.8	152.9	-	完全未測	覆土
133	石器・石製品	ピース・エスキュー	6.4	5.3	2.4	133.7	-	完全未測、チャート	覆土
134	石器・石製品	加工面の有る剥片	2.2	3	0.8	5.97	-	完全未測、黒曜石	覆土
135	石器・石製品	加工面の有る剥片	3	2.2	0.8	5.64	-	完全未測、ガラス質安山岩	覆土
136	石器・石製品	加工面の有る剥片	3.3	3.5	1.1	18.2	-	完全未測、ガラス質安山岩	覆土
137	石器・石製品	加工面の有る剥片	3.2	4.1	0.9	11.5	-	完全未測、ガラス質安山岩	覆土

D 18号土坑出土遺物観察表(5)

No	高径	高径(厚)	口径(長)	口径(短)	高さ(厚)	重量	法		成形・調整		備考	出土層位
							口径(長)	口径(短)	内面	外面		
138	石器・石製品	加工痕のある銅片	3.5	3.4	1.3	10.5	—	—	—	—	完全尖潤、頁岩	覆土
139	石器・石製品	加工痕の有る銅片	5.3	4	2.1	23.1	—	—	—	—	完全尖潤、ガラス質安山岩	覆土
140	石器・石製品	加工痕の有る銅片	4.9	4	1.8	40.1	—	—	—	—	完全尖潤、ガラス質安山岩	覆土
141	石器・石製品	加工痕の有る銅片	13.5	7	1.7	204.3	—	—	—	—	完全尖潤、安山岩	覆土
142	石器・石製品	加工痕の有る銅片	6	4.2	1.6	25.6	—	—	—	—	完全尖潤、安山岩	覆土
143	石器・石製品	使用痕の有る銅片	6.2	3.4	1.3	32.9	—	—	—	—	完全尖潤、ホルンフェス	覆土

D 19号土坑出土遺物観察表

No	高径	高径(厚)	口径(長)	口径(短)	高さ(厚)	重量	法		成形・調整		備考	出土層位
							口径(長)	口径(短)	内面	外面		
1	縄文土器	深鉢	47.0	14.9	67.1	—	—	縄文RL縞・隆帯	—	—	回転尖潤、管利I~II古	覆土
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	器縁状口縁・平行化縞文	—	—	破片尖潤・拓木、中期後半	覆土
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	隆帯	—	—	破片尖潤・拓木、中期後半	覆土
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	ナナ・辻縞文	—	—	破片尖潤・拓木、加曾利EⅢ	覆土
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	縄文LR・隆帯・半截竹管刺突文	—	—	破片尖潤・拓木、中期後半	覆土
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	縄文RL・半截竹管による3本の筋隆帯	—	—	破片尖潤・拓木、加曾利EⅡ	覆土
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	隆帯	—	—	破片尖潤・拓木、加曾利EⅣ	覆土
8	縄文土器	深鉢	—	(6.5)	—	—	—	縄文RL縞	—	—	回転尖潤・拓木	覆土
9	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	隆帯・辻縞	—	—	破片尖潤・拓木、中期後半	覆土
10	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	隆帯・綾杉	—	—	破片尖潤・拓木、唐草文系	覆土
11	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	隆帯・綾杉	—	—	破片尖潤・拓木、唐草文系	覆土
12	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	隆帯・樹状辻縞	—	—	破片尖潤・拓木、獅子文	覆土
13	縄文土器	注口	—	—	—	—	—	隆帯	—	—	破片尖潤・拓木、後期型之内式	覆土
14	石器・石製品	打製石斧	<3.1>	3.9	1.3	<19.2>	—	—	—	—	完全尖潤	覆土
15	石器・石製品	打製石斧	<40.2>	60.7	1.0	<30.0>	—	—	—	—	完全尖潤	覆土
16	石器・石製品	打製石斧	<4.0>	4.0	0.7	<17.8>	—	—	—	—	完全尖潤	覆土
17	石器・石製品	磨石	3.8	8.6	1.4	44.2	磨面1	—	—	—	完全尖潤	覆土
18	石器・石製品	磨石	<8.5>	6.5	5.0	<449.2>	—	—	—	—	完全尖潤	覆土
19	石器・石製品	砥石	<11.2>	<11.3>	<6.0>	<797.3>	—	—	—	—	完全尖潤	覆土
20	石器・石製品	砥石	<16.3>	13.3	5.3	<1585.6>	砥面2	—	—	—	完全尖潤	覆土
21	石器・石製品	砥石	17.4	15.8	3.5	1568.5	—	—	—	—	完全尖潤	覆土
22	石器・石製品	加工痕のある銅片	6.9	5.3	1.3	53.7	安山岩	—	—	—	完全尖潤	覆土

SD 1号土坑出土遺物観察表(1)

No	高径	高径(厚)	口径(長)	口径(短)	高さ(厚)	重量	法		成形・調整		備考	出土層位
							口径(長)	口径(短)	内面	外面		
1	灰釉陶器	罎	—	—	7.6	(2.3)	—	—	—	—	回転尖潤	覆土
2	須恵器	罎	—	—	—	—	—	—	—	—	破片尖潤・拓木	覆土
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	蛇行隆帯・龍目文	—	—	破片尖潤・拓木、管利I式	覆土
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	辻縞文	—	—	破片尖潤・拓木、管利I式	覆土
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	縄文(L形)	—	—	破片尖潤・拓木、加曾利EⅣ式	覆土
6	陶山境	指鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	破片尖潤・18世紀末	覆土
7	陶器	土瓶蓋	—	—	—	—	—	—	—	—	磨木	覆土
8	石器・石製品	打製石斧	(6.8)	(4.8)	(1.7)	(73.0)	—	—	—	—	破片尖潤	覆土

## S D 1 号土坑出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法		量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)	重さ	内面	外面		
9	石器・石製品	打製石斧	(7.1)	(5.7)	(2.1)	(129.8)	—	—	破片尖測	覆土
10	石器・石製品	砥石	(6.5)	(4.2)	(2.0)	(110.1)	底面2	—	破片尖測	覆土
11	石器・石製品	砥石	(4.7)	(7.0)	(6.3)	(423.7)	底面2	—	破片尖測	覆土
12	石器・石製品	砥石	(7.3)	(3.3)	(3.5)	(144.5)	底面3、条線	—	破片尖測	覆土
13	石器・石製品	砥石	(15.6)	(10.1)	(6.2)	(1549.9)	底面2	—	破片尖測	覆土
14	石器・石製品	砥石	(12.7)	(14.6)	(8.1)	(2028.5)	底面1	—	破片尖測	覆土
15	石器・石製品	石皿	(13.9)	(10.5)	(3.7)	(958.6)	底石に転用か?	—	破片尖測	覆土
16	石器・石製品	砥石	(11.3)	(20.2)	(3.9)	(1935.6)	底面1	—	破片尖測	覆土

## S D 2 号土坑出土遺物観察表

No	器種	器形	法		量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)	重さ	内面	外面		
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	内面	—	破片尖測・拓本	覆土

## S D 3 号土坑出土遺物観察表

No	器種	器形	法		量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)	重さ	内面	外面		
1	土師質土器	内耳鍋	—	—	—	—	内面	—	破片尖測・拓本	覆土
2	土師質土器	内耳鍋	—	—	—	—	内面	—	破片尖測・拓本	覆土
3	陶器	兵器手碗	—	—	—	—	内面	—	破片尖測・唐津・17C 後半	覆土
4	陶器	兵器手碗	—	—	—	—	内面	—	破片尖測・唐津・17C 後半	覆土
5	陶器	兵器手碗	—	—	—	—	内面	—	破片尖測・唐津・17C 後半	覆土
6	陶器	兵器手碗	—	—	—	—	内面	—	破片尖測・唐津・17C 後半	覆土
7	陶器	陶器碗	—	—	—	—	内面	—	破片尖測・肥前系・平戸波佐見、18C	覆土
8	陶器	陶器碗	—	—	—	—	内面	—	破片尖測・肥前系・平戸波佐見、18C	覆土
9	陶器	丸碗	—	—	—	—	内面	—	破片尖測・瀬戸・美濃・19C	覆土
10	陶器	片口碗	—	—	—	—	内面	—	破片尖測・瀬戸・美濃・18C 末～19C	覆土
11	陶器	不明	—	—	—	—	内面	—	完全尖測	覆土
12	石器・石製品	砥石	(12.2)	(3.3)	(3.4)	(230.2)	—	—	完全尖測	覆土
13	石器・石製品	磨石	(6.2)	(6.3)	(2.2)	(141.0)	—	—	完全尖測	覆土
14	石器・石製品	摺鉢	(330.0)	(143.0)	(85.0)	(5780.0)	—	磨石安山岩	完全尖測	覆土

## S D 4 号土坑出土遺物観察表

No	器種	器形	法		量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)	重さ	内面	外面		
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	内面	—	破片尖測・拓本・加曾利E III	覆土
2	石器・石製品	砥石	5.7	<3.2>	<3.9>	<107.8>	底面5	—	完全尖測	覆土
3	石器・石製品	砥石	<7.6>	<8.5>	6.6	<212.1>	底面2	—	完全尖測	覆土
4	石器・石製品	砥石	<17.3>	<8.7>	5.6	<1256.1>	底面1	—	完全尖測	覆土
5	石器・石製品	磨石	<7.2>	7.6	4.2	<337.7>	断面2	—	完全尖測	覆土
6	石器・石製品	加工板のある磨片	4.0	3.5	1.4	22.8	砥石質安山岩	—	完全尖測	覆土
7	石器・石製品	五輪形地輪?	253	25.1	20.9	—	—	—	完全尖測	覆土

S D 5号土坑出土遺物調査表

No	器種	器形	法			量			形状・測定		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	高さ(厚)	重量	体積	内 量	外 量			
1	土師器	かわらけ	—	—	(6.4)	—	—	—	—	同定未測	—	覆土
2	土師質土器	内耳瓶	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本	—	覆土
3	土師質土器	内耳瓶	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本	—	覆土
4	土師質土器	内耳瓶	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本	—	覆土
5	土師質土器	内耳瓶	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本	—	覆土
6	土師質土器	内耳瓶	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本	—	覆土
7	土師質土器	内耳瓶	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本	—	覆土
8	須臾器	裏	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本	—	覆土
9	陶器	瓶子	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・写真、古瀬戸・14C ? ・中朝様式	—	覆土
10	縄文土器	天目茶碗	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・写真、古瀬戸・14C後半・後朝様式I	—	覆土
11	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本、加曾利E II	—	覆土
12	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本、加曾利E II	—	覆土
13	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本、加曾利E IV	—	覆土
14	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本、加曾利I	—	覆土
15	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本、加曾利E II	—	覆土
16	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本、曾利I	—	覆土
17	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本、曾利I	—	覆土
18	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本、加曾利E III	—	覆土
19	土製品	土器片片襷	3.9	3.0	1.2	—	—	—	—	破片実測・拓本、後朝編之内	—	覆土
20	石器・石製品	打製石斧	16.0	5.1	2.3	210.0	—	—	—	完全実測	—	覆土
21	石器・石製品	打製石斧	<4.4>	<5.4>	<1.5>	<32.9>	—	—	—	完全実測	—	覆土
22	石器・石製品	打製石斧	<3.6>	<5.0>	<1.2>	<35.3>	—	—	—	完全実測	—	No25
23	石器・石製品	打製石斧	<5.1>	<4.2>	<2.0>	<44.3>	—	—	—	完全実測	—	No7
24	石器・石製品	打製石斧	<59.0>	<4.5>	<1.7>	<56.1>	—	—	—	完全実測	—	No13
25	石器・石製品	打製石斧	<6.8>	<5.4>	<2.2>	<82.1>	—	—	—	完全実測	—	Ⅱ区
26	石器・石製品	打製石斧	<8.4>	<5.7>	<2.7>	<156.7>	—	—	—	完全実測	—	Ⅱ区
27	石器・石製品	打製石斧	<8.2>	<5.0>	<1.5>	<68.8>	—	—	—	完全実測	—	No18
28	石器・石製品	打製石斧	<11.1>	4.7	1.4	<84.7>	—	—	—	完全実測	—	I区
29	石器・石製品	磨石	11.7	7.4	4.2	61.2	—	—	—	完全実測	—	No2
30	石器・石製品	磨石	14.4	5.9	4.3	47.45	—	—	—	完全実測	—	覆土
31	石器・石製品	砥石	<5.8>	<2.9>	<0.9>	<11.1>	砥面1	—	—	完全実測	—	覆土
32	石器・石製品	砥石	<5.8>	<6.4>	1.9	<100.5>	—	—	—	完全実測	—	Ⅱ区
33	石器・石製品	石磨	<2.1>	<0.8>	<0.6>	<0.65>	—	—	—	完全実測	—	覆土
34	石器・石製品	石樽	<13.9>	3.4	1.8	<29.20>	—	—	—	完全実測	—	覆土
35	石器・石製品	加工種のある剥片	9.4	3.7	2.2	70.0	有アス質安山岩	—	—	完全実測	—	覆土
36	石器・石製品	加工種のある剥片	1.2	1.8	0.3	0.6	黒燐石	—	—	完全実測	—	覆土

S D 6号土坑出土遺物調査表(1)

No	器種	器形	法			量			形状・測定		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	高さ(厚)	重量	体積	内 量	外 量			
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本、加曾利E	—	覆土
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本、曾利I	—	覆土
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本、加曾利E I	—	覆土

S D 6号土坑出土遺物調査表(2)

N O	器種	図形	先		蓋		底		内面		外面		備考	出土層位
			口徑(長)	底径(短)	蓋径(厚)	蓋高(厚)	底径(厚)	底高(厚)	底径(厚)	底高(厚)	底径(厚)	底高(厚)		
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	破片表割・拓本、加曾利EⅢ	覆土
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	破片表割・拓本、加曾利EⅢ	覆土
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	破片表割・拓本、加曾利EⅣ	覆土
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	破片表割・拓本、加曾利EⅣ	覆土
8	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	破片表割・拓本、加曾利EⅣ	覆土
9	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	破片表割・拓本、加曾利EⅣ	覆土
10	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	破片表割・拓本、加曾利EⅣ	覆土
11	石器	磨石	6.1	5.9	4.9	286.0	磨面2面	—	—	—	—	—	完全表割	覆土
12	石器	磨石	6.6	6.7	5.7	327.4	磨面2面	—	—	—	—	—	完全表割	覆土
13	石器	磨石	8.6	7.8	5.7	499.8	磨面1面	—	—	—	—	—	完全表割	覆土
14	石器	磨石	9.9	6.5	5.3	593.3	磨面2面	—	—	—	—	—	完全表割	覆土
15	石器	磨・戴石	10.3	9.3	6.7	999.6	磨面1、磨面1面	—	—	—	—	—	完全表割	覆土
16	石器	磨・戴石	9.7	8.4	5.9	703.4	凹面2、磨面1	—	—	—	—	—	完全表割	覆土
17	石器	凹・戴・磨石	13.0	8.5	7.2	1052.7	凹面2、磨面2、磨面1面	—	—	—	—	—	完全表割	覆土
18	石器	戴石	7.5	8.2	1.5	165.0	砥面1面	—	—	—	—	—	完全表割	覆土
19	石器	戴石	7.5	8.2	1.5	107.5	砥面1面	—	—	—	—	—	完全表割	覆土
20	石器	砥石	17.4	10.2	3.6	880.0	砥面1面	—	—	—	—	—	完全表割	覆土
21	石器	石棒	< 7.5 >	10.2	10.7	819.6	—	—	—	—	—	—	完全表割	覆土
22	石器	石棒	13.5	4.0	4.2	327.8	—	—	—	—	—	—	完全表割	覆土
23	石器	石棒	< 21.3 >	12.2	9.6	4560.0	—	—	—	—	—	—	完全表割	覆土
24	石器	石臼	24.1	< 15.3 >	12.6	5130.0	下臼	—	—	—	—	—	完全表割	覆土
25	石器	石臼	< 20.5 >	21.1	8.8	3750.0	下臼	—	—	—	—	—	完全表割	覆土
26	石器	五輪塔	33.5	30.9	14.4	11780.0	—	—	—	—	—	—	完全表割	覆土

S D 7号土坑出土遺物調査表

N O	器種	図形	口		蓋		底		内面		外面		備考	出土層位
			口徑(長)	底径(短)	蓋径(厚)	蓋高(厚)	底径(厚)	底高(厚)	底径(厚)	底高(厚)	底径(厚)	底高(厚)		
1	土師器	口付口裏	—	10.4	6.8	< 3.4 >	—	—	—	—	—	—	回転表割、平安時代	覆土
2	陶器	灯明皿	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	回転表割、南山儀	覆土
3	須恵器	壺	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	破片表割・拓本	覆土
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	破片表割・拓本、曾利I	覆土
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	破片表割・拓本、磨草文	覆土
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	破片表割・拓本、加曾利EⅢ	覆土
7	石器	打製石斧	7.9	6.8	2.4	171.3	隆部、沈線	—	—	—	—	—	完全表割	覆土
8	石器	打製石斧	8.9	6.4	1.6	142.6	隆部、沈線	—	—	—	—	—	完全表割	覆土
9	石器	砥石	5.5	3.8	1.55	64.0	砥面4面	—	—	—	—	—	完全表割	覆土
10	石器	砥石	11.2	8.9	< 6.2 >	< 923.0 >	砥面1面	—	—	—	—	—	完全表割	覆土
11	石器	砥石	12.3	11.0	< 2.65 >	< 462.4 >	砥面1面	—	—	—	—	—	完全表割	覆土
12	石器	磨石	7.1	6.1	4.1	200.8	磨面1面	—	—	—	—	—	完全表割	覆土
13	石器	磨石	16.5	11.8	8.5	2270.0	磨面1面	—	—	—	—	—	完全表割	覆土

S D 8号土坑出土遺物觀察表

No	器種	胎形	法		量	成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	(重)		
1	石器	打製石斧	<67>	47	1.0	<41.2>	—	完全美測	覆土

T a 1号竪穴建物址出土遺物觀察表

No	器種	胎形	法		量	成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	(重)		
1	土師質土器	内耳鍋	—	—	—	—	—	破片美測・拓本	覆土
2	土師質土器	内耳鍋	—	—	—	—	—	破片美測・拓本	覆土
3	土師質土器	内耳鍋	—	—	—	—	—	破片美測・拓本	覆土
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片美測・拓本、加曾利E式	覆土
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片美測・拓本、加曾利E面式	覆土
6	縄文土器	深鉢	(3.8)	—	—	—	—	回縁美測・拓本、中剛	覆土
7	縄文土器	深鉢	(11.0)	—	—	—	—	回縁美測、中剛	覆土

T a 2号竪穴建物址出土遺物觀察表(1)

No	器種	胎形	法		量	成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	(重)		
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片美測・拓本、中剛後半	覆土
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片美測・拓本、中剛中盤	覆土
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片美測・拓本、加曾利E II	覆土
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片美測・拓本、中剛後半	覆土
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片美測・拓本、加曾利E II	覆土
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片美測・拓本、加曾利E I	覆土
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片美測・拓本、称名寺	覆土
8	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片美測・拓本、曾利I	覆土
9	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片美測・拓本、曾利II	覆土
10	縄文土器	浅鉢	—	—	—	—	—	破片美測・拓本、中剛後半	覆土
11	縄文土器	深鉢	(10.4)	<2.5>	—	—	—	回縁美測・拓本、野戸?	覆土
12	縄文土器	器台	—	—	—	—	—	破片美測・拓本	覆土
13	土師質土器	内耳鍋	—	—	—	—	—	破片美測・拓本	覆土
14	土師質土器	内耳鍋	—	—	—	—	—	破片美測・拓本	覆土
15	土師質土器	内耳鍋	—	—	—	—	—	破片美測・拓本	覆土
16	石器・石製品	石鏝	<2.0>	1.5	0.45	<1.4>	—	完全美測	覆土
17	石器・石製品	石鏝	2.8	1.9	0.6	1.8	—	完全美測	覆土
18	石器・石製品	打製石斧	<5.2>	4.7	2.1	<66.2>	—	完全美測	覆土
19	石器・石製品	打製石斧	<5.3>	4.5	1.4	<51.2>	—	完全美測	覆土
20	石器・石製品	打製石斧	7.0	5.5	1.5	62.7	—	完全美測	覆土
21	石器・石製品	打製石斧	7.0	5.1	1.5	86.5	—	完全美測	覆土
22	石器・石製品	打製石斧	<12.8>	4.7	1.3	<100.3>	—	完全美測	覆土
23	石器・石製品	磨石	<5.3>	5.2	1.4	<44.4>	磨面1	完全美測	覆土
24	石器・石製品	磨石	15.4	10.1	3.2	749.0	磨面2	完全美測	No11
25	石器・石製品	加工程のある剥片	3.2	2.7	0.9	7.4	安山岩	完全美測	覆土
26	石器・石製品	加工程のある剥片	3.6	2.4	1.2	9.1	安山岩	完全美測	覆土
27	石器・石製品	加工程のある剥片	3.7	4.9	0.8	13.2	—	完全美測	覆土



T a 2 号竪穴建物址出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	底径(短)	器高(厚)	内面	外面		
28	石器・石製品	使用痕のある剥片	5.6	2.2	0.9	9.1	—	—	—	完全剥離	覆土
29	石器・石製品	石臼	<10.3>	<11.1>	<1770.0>	上臼、目は切線主溝型	—	—	—	完全剥離	覆土
30	銅製品	古銭	2.2	2.2	0.1	2.2「開元通寶」真書	—	—	—	完全剥離	I区

T a 3 号竪穴建物址出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	口径(長)	器高(厚)	内面	外面		
1	縄文	深鉢	—	—	—	残片・半截竹管縁文	—	—	—	破片剥離・拓本、中期後半	覆土

埋蔵1出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	口径(長)	器高(厚)	内面	外面		
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	残片	—	—	—	同軸剥離、中期末～後期初頭	出土状態
2	縄文土器	把手付鉢	(26.3)	—	—	把手、残片	—	—	—	同軸剥離、中期末～後期初頭	—

埋蔵2出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	口径(長)	器高(厚)	内面	外面		
1	縄文土器	深鉢	18.2	—	—	L燃系、残片、沈線	—	—	—	完全剥離、加曾利EII	—

ビット出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	口径(長)	器高(厚)	内面	外面		
1	土師器	坏	—	—	—	ナデ	—	—	—	完全剥離、平安時代	P 4
2	縄文土器	深鉢	—	5.6	<1.3>	—	—	—	—	破片剥離・拓本、中期後半	P 4
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	口唇部に沈線	—	—	—	破片剥離・拓本、曾利II	P 4
1	石器	石鏝	<1.7>	1.5	0.3	沈線	—	—	—	完全剥離、黒曜石	P 7
1	石器	砥石	<20.5>	<12.7>	5.1	2303 砥面1面	—	—	—	完全剥離	P 13
1	土師器	丸皿	—	(5.8)	2.2	瀬戸・美濃	—	—	—	同軸剥離、17世紀	P 14
1	土師器	坏	—	(5.6)	<1.8>	ナデ	—	—	—	同軸剥離	P 29
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	無文	—	—	—	破片剥離・拓本、後附	P 30

遺構外出土遺物調査表(1)

No	原種	形状	法		量	内面		外面		出土層位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	重量	成形・調整	備考	
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈蝕文	—	破片実測・拓本、加曾利E II	Z
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	S字状隆帯・R 懸糸輪巻	—	破片実測・拓本、加曾利E II	I4b
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	渦巻き沈蝕文	—	破片実測・拓本、加曾利E II	Z
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈蝕文	—	破片実測・拓本、中期後半	E11a
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯・沈蝕文	—	破片実測・拓本、中期後半	H10a
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	S字状隆帯・沈蝕文	—	破片実測・拓本、唐草文系?	H10c
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈蝕文	—	破片実測・拓本、加曾利E III	H11a
8	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯・沈蝕文・RL 縄文	—	破片実測・拓本、加曾利E II	H12 覆土
9	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	縦・横糸線	—	破片実測・拓本、加曾利V?	J11a
10	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	竹筒目文	—	回転実測・加曾利E II	I6a
11	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯傾斜・R 懸糸輪巻	—	破片実測・拓本、加曾利E I	J10G
12	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	LR 縄文・隆帯	—	破片実測・拓本、中期後半	I6d
13	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯・沈蝕	—	破片実測・拓本、中期後半	Z
14	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	R 懸糸輪巻	—	破片実測・拓本、加曾利E I	D10a カケラン
15	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈蝕文・R 懸糸輪巻	—	破片実測・拓本、加曾利E	I10 カケラン
16	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	平取竹管の縞・波状沈蝕文・RL 縄文	—	破片実測・拓本、加曾利E I	D8a
17	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	平取竹管の縞階層文・RL 縄文	—	破片実測・拓本、加曾利E	D10a カケラン
18	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	縦沈蝕文・RL 縄文	—	破片実測・拓本、加曾利E	I8d
20	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	渦巻き沈蝕文・LR 縄文	—	破片実測・拓本、加曾利E	H9c
21	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈蝕文・RL 縄文	—	破片実測・拓本、加曾利E III	J5c
22	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	平取竹管の階層文・LR 縄文	—	破片実測・拓本、加曾利E	G9a
23	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	縦行隆帯・RL 縄文	—	破片実測・拓本、加曾利E II	C10 カケラン
24	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	平取竹管の縞・隆帯	—	破片実測・拓本、加曾利E	H9c
25	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈蝕文・RL 縄文	—	破片実測・拓本、加曾利E III	H12 覆土
26	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈蝕文・LR 縄文	—	破片実測・拓本、加曾利E III	H12 覆土
27	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	糸線	—	破片実測・拓本、曾利	H12b
28	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯・縞状沈蝕文	—	破片実測・拓本、郷戸	D10a カケラン
29	縄文土器	深鉢	—	(9.6)	<5.0>	—	沈蝕文・RL 縄文	—	回転実測・拓本、加曾利E III	F7c
30	縄文土器	深鉢	—	(7.4)	<3.5>	—	RL 縄文	—	回転実測・拓本、中期後半	II 区
31	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈蝕文・LR 縄文	—	破片実測・拓本、加曾利E II	I6a
32	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	錫引隆帯・沈蝕文	—	破片実測・拓本、井戸尻	D9C カケラン
33	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	LR 押取縄文	—	破片実測・拓本、前期	G6a
34	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	縞状沈蝕文	—	破片実測・拓本、唐草文系	M4d
35	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	縞状沈蝕文	—	破片実測・拓本、唐草文系	H9b
36	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯・縞状沈蝕文	—	破片実測・拓本、唐草文系	D8d カケラン
37	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	縞状沈蝕文	—	破片実測・拓本、唐草文系	D8d カケラン
38	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	縦行隆帯・沈蝕文	—	破片実測・拓本、曾利	H11a
39	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈蝕文・うろこ沈蝕文	—	破片実測・拓本、郷戸	M3d
40	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	糸線	—	破片実測・拓本、曾利	M2
41	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	四把手	—	回転実測・称名寺	G5a カケラン
42	縄文土器	深鉢	(20.8)	—	—	—	沈蝕文・RL 縄文・突起	—	回転実測・称名寺	I12b
43	縄文土器	深鉢(口付)	—	—	—	—	隆帯・縞・LR 縄文	—	破片実測・称名寺	G9a

遺構外出土遺物観察表(2)

No	器種	形状	法		器	成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		内面	外面		
44	縄文土器	深鉢	-	-	-	沈埋文・LR編文	-	破片表調・拓本、称名寺	D7dカクラン
45	縄文土器	深鉢	-	-	-	突起	-	破片表調・拓本、称名寺	J10d
46	縄文土器	深鉢	-	-	-	沈埋文・RL編文	-	破片表調・拓本、称名寺	H12a
47	縄文土器	深鉢	-	-	-	沈埋文・LR編文	-	破片表調・拓本、称名寺	H12b
48	縄文土器	深鉢	-	-	-	沈埋文・LR編文	-	破片表調・拓本、称名寺	H12 覆土
49	縄文土器	深鉢	-	-	-	隆線文・LR編文	-	破片表調・拓本、加曾利EIV	D9cカクラン
50	縄文土器	深鉢	-	-	-	沈埋文・LR編文	-	破片表調・拓本、称名寺	P3d
51	縄文土器	深鉢	51	-	-	隆線文・LR編文	-	破片表調・拓本、称名寺	I9b
52	縄文土器	深鉢	-	-	-	隆線文・LR編文	-	破片表調・拓本、称名寺	H12b
53	縄文土器	深鉢	-	-	-	沈埋文・LR編文	-	破片表調・拓本、称名寺	D9d
54	縄文土器	深鉢	-	-	-	沈埋文・LR編文	-	破片表調・拓本、称名寺	I9c
55	縄文土器	深鉢	-	-	-	沈埋文・RL編文	-	破片表調・拓本、称名寺	Z
56	縄文土器	深鉢	-	-	-	沈埋文・LR編文	-	破片表調・拓本、称名寺	覆土
57	縄文土器	深鉢	57	-	-	沈埋文・LR編文	-	破片表調・拓本、称名寺	H12b
58	縄文土器	深鉢	-	-	-	沈埋文・LR編文	-	破片表調・拓本、称名寺	G5aカクラン・J12a
59	縄文土器	深鉢	-	-	-	沈埋文・LR編文	-	破片表調・拓本、称名寺	J12
60	縄文土器	深鉢	-	-	-	沈埋文・LR編文	-	破片表調・拓本、称名寺	H12 覆土
61	縄文土器	深鉢	-	-	-	沈埋文・LR編文	-	破片表調・拓本、称名寺	E10d
62	縄文土器	深鉢	-	-	-	沈埋文・LR編文	-	破片表調・拓本、後期	J12a
63	縄文土器	深鉢	-	-	-	隆線文	-	破片表調・拓本、後期	H10a
64	縄文土器	深鉢	(8.2)	-	-	隆線文	-	破片表調・拓本、後期	I9c
65	縄文土器	深鉢	-	(8.2)	-	RL編文	-	破片表調・拓本、中期中葉	G6a
66	縄文土器	深鉢	-	-	-	沈埋文	-	破片表調・拓本、後期	I9c
67	縄文土器	鈎手土器	-	-	-	玉段き・三叉文	-	破片表調・拓本、後期	Z
68	土師器	環	(6.4)	<2.1>	-	黒色処理	凹転糸切	凹転表調、平安	E10c
69	土師器	かわらけ	(100)	(5.8)	3.0	-	-	凹転表調、平安	L3b
70	土師器	羽釜	(24.2)	-	<11.0>	ヘラナデ	ヘラケズリ→ナデ	凹転表調、平安	Z
71	土師器	内耳鍋	-	-	-	-	-	破片表調、中世	Z
72	土師器	土鍋	-	-	-	-	-	破片表調・拓本、中世	G11d
73	土師器	土鍋	-	-	-	-	-	破片表調・拓本、中世	D10b
74	土師器	土鍋	-	-	-	-	-	破片表調・拓本、中世	D9cカクラン
75	土師器	土鍋	-	-	-	-	-	破片表調・拓本、平安	B12カクラン
76	灰釉陶器	皿	(7.5)	-	-	隆線	隆線	破片表調・写真、平安	J5b
77	陶器	指鉢	-	-	-	-	-	破片表調・写真、18末～19世紀、前山焼	II区
78	陶器	指鉢	-	-	-	-	-	破片表調・写真、19世紀後半、前山焼	I区
79	陶器	皿	-	-	-	-	-	破片表調・写真、近世	F8a
80	陶器	推鉢	-	-	-	-	-	破片表調・写真	E9aカクラン
81	陶器	推鉢	-	-	-	-	-	破片表調・写真	G6d
82	陶器	?	-	-	-	-	-	破片表調・写真	G11
83	陶器	碗	-	-	-	-	-	破片表調・写真	覆土
84	陶器	?	-	-	-	-	-	破片表調・写真	覆土
85	石器・石製品	石磯	<1.9>	<1.7>	<0.3>	<1.0>	黒曜石	完全表調	F7c
86	石器・石製品	石磯	1.8	1.4	0.6	1.1	黒曜石	完全表調	F11b

道場外出土土物類調査表(3)

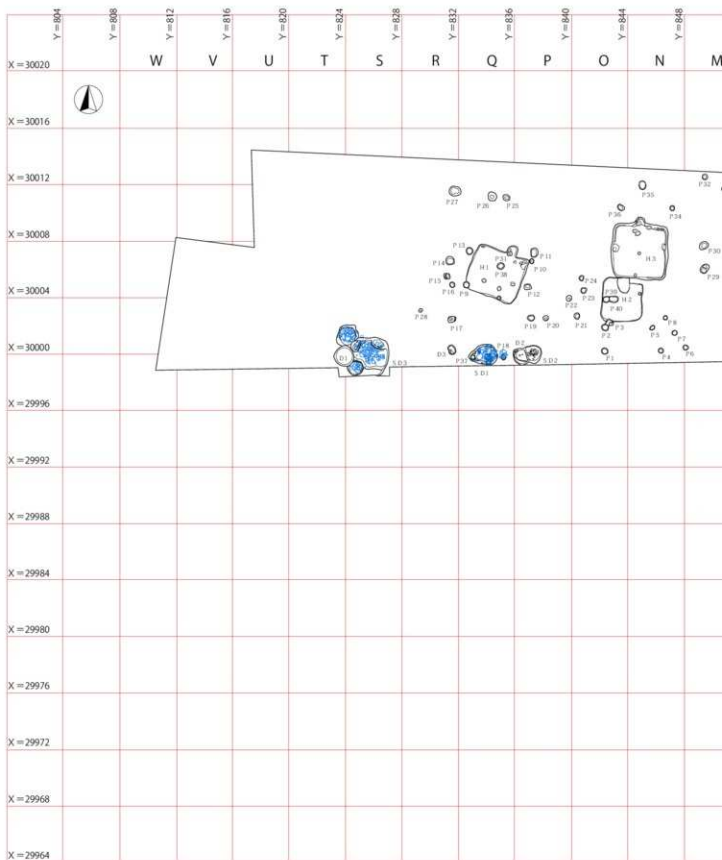
No	器種	顔形	法			量	成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)		内面	外面		
87	石器・石製品	石鏝	<2.4>	<1.7>	0.4	<0.9>	チャート	完全未測	J12a	
88	石器・石製品	石鏝	3.0	<1.9>	0.5	<1.8>	チャート	完全未測	F5c	
89	石器・石製品	石鏝	<2.2>	<0.6>	<2.5>	<2.5>	炭酸質安山岩	完全未測	Z	
90	石器・石製品	石鏝	<2.7>	<1.2>	<0.4>	<1.0>	安山岩	完全未測	D12a	
91	石器・石製品	打製石斧	<3.9>	<3.2>	<1.0>	<1.9>	—	完全未測	Z	
92	石器・石製品	打製石斧	<4.3>	3.8	1.5	<29.4>	—	完全未測	E10b・カケラン	
93	石器・石製品	打製石斧	<5.4>	3.7	1.45	<28.2>	—	完全未測	Z	
94	石器・石製品	打製石斧	<4.9>	4.7	9.5	<23.2>	—	完全未測	G5a・カケラン	
95	石器・石製品	打製石斧	<4.6>	4.85	1.9	<5.31>	—	完全未測	Z	
96	石器・石製品	打製石斧	<4.7>	5.3	2.0	<71.5>	—	完全未測	I9a	
97	石器・石製品	打製石斧	<4.7>	5.3	2.0	<71.5>	—	完全未測	E10c・カケラン	
98	石器・石製品	打製石斧	<6.5>	<3.7>	1.0	<25.4>	—	完全未測	H12c	
99	石器・石製品	打製石斧	<5.3>	<2.8>	0.8	<16.0>	—	完全未測	H12a	
100	石器・石製品	打製石斧	<5.2>	<5.2>	<1.8>	<61.7>	—	完全未測	F16b	
101	石器・石製品	打製石斧	<6.9>	<4.8>	<1.9>	<59.5>	—	完全未測	H10a	
102	石器・石製品	打製石斧	<6.2>	5.3	1.5	<61.5>	—	完全未測	Z	
103	石器・石製品	打製石斧	6.8	<6.9>	0.7	<35.2>	—	完全未測	H6a	
104	石器・石製品	打製石斧	<6.55>	5.5	1.1	<52.2>	—	完全未測	Z	
105	石器・石製品	打製石斧	7.9	4.9	1.2	47.8	—	完全未測	H11c	
106	石器・石製品	打製石斧	<6.3>	4.4	2.8	<80.0>	—	完全未測	Pl4	
107	石器・石製品	打製石斧	<6.2>	4.7	1.3	<67.3>	—	完全未測	B12c・カケラン	
108	石器・石製品	打製石斧	<6.1>	5.2	1.45	<49.5>	—	完全未測	J8c	
109	石器・石製品	打製石斧	<6.9>	4.7	1.8	<69.7>	—	完全未測	H10b	
110	石器・石製品	打製石斧	<7.3>	7.9	1.8	<118.2>	—	完全未測	D10a・カケラン	
111	石器・石製品	打製石斧	<8.6>	4.0	2.3	<88.2>	—	完全未測	L4c	
112	石器・石製品	打製石斧	<8.5>	4.2	2.5	<114.6>	—	完全未測	D9d	
113	石器・石製品	打製石斧	<8.3>	4.7	1.15	<99.0>	—	完全未測	D10a	
114	石器・石製品	打製石斧	<9.5>	4.7	1.3	<105.8>	—	完全未測	M2d	
115	石器・石製品	打製石斧	9.3	4.6	2.6	141.7	下部欠損	完全未測	C10c・カケラン	
116	石器・石製品	打製石斧	<10.1>	5.4	1.35	<101.7>	—	完全未測	I・K・H10a	
117	石器・石製品	打製石斧	<10.25>	6.55	1.2	<87.7>	—	完全未測	J9・172	
118	石器・石製品	磨・敲石	12.2	8.6	3.0	452.8	花崗岩	完全未測	Z	
119	石器・石製品	凹・磨・敲石	14.2	7.4	3.5	615.7	砥面2	完全未測	H12a	
120	石器・石製品	砥石 or 石皿	<15.7>	<23.3>	6.5	<2980.0>	砥面1、-、擦熱有、磨付層	完全未測	I7d	
121	石器・石製品	砥石	4.45	<3.4>	0.8	<18.0>	砥面1?	完全未測	D10a・カケラン	
122	石器・石製品	砥石	<4.0>	3.2	1.4	<29.3>	砥面2	完全未測	G5a・カケラン	
123	石器・石製品	砥石	4.0	<3.9>	1.4	<29.9>	砥面1	完全未測	H12b	
124	石器・石製品	砥石	4.9	3.9	<0.95>	<22.2>	砥面1	完全未測	J9・172	
125	石器・石製品	砥石	<5.3>	3.3	0.7	<19.0>	砥面2	完全未測	F11d	
126	石器・石製品	砥石	<4.9>	5.0	3.7	<170.5>	砥面2	完全未測	F5b	
127	石器・石製品	砥石	2.3	6.5	1.1	24.2	—	完全未測	H8d	
128	石器・石製品	砥石	<4.6>	2.0	<87.0>	砥面1	—	完全未測	G7a	
129	石器・石製品	砥石	11.3	10.0	2.7	<563.5>	砥面1	完全未測	D10a	

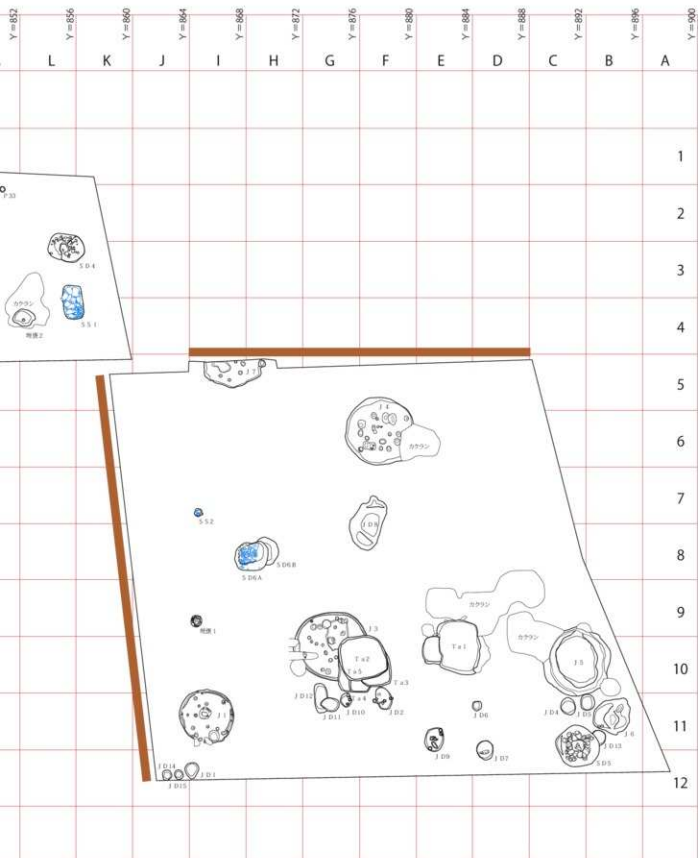
遺構外出土遺物調査表(4)

No	品類	形状	口径(長)	底径(短)	高さ(厚)	重量	成形・調整		備考	出土層位
							内面	外面		
130	石器・石製品	砥石	12.0	<9.9>	3.5	<762.6>	砥面 1		完全未測	19b
131	石器・石製品	砥石	<13.7>	<4.8>	<13.7>	<4.8>	砥面 1、敲打痕		完全未測	Z
132	石器・石製品	砥石	<17.0>	<7.5>	<2.0>	<308.0>	砥面 1		完全未測	I 区 J12a
133	石器・石製品	加工痕のある剥片	<2.9>	<2.9>	<1.4>	<9.6>	波瀾質安山岩		完全未測	Z
134	石器・石製品	加工痕のある剥片	<3.7>	<2.5>	<0.9>	<8.6>	頁岩		完全未測	H12a
135	石器・石製品	加工痕のある剥片	<3.5>	<2.4>	<1.6>	<13.7>	波瀾質安山岩		完全未測	Z
136	石器・石製品	加工痕のある剥片	<3.6>	<2.9>	<1.1>	<13.9>	波瀾質安山岩		完全未測	Z
137	石器・石製品	加工痕のある剥片	<3.1>	<3.5>	<0.9>	<10.6>	波瀾質安山岩		完全未測	F12a
138	石器・石製品	加工痕のある剥片	<3.5>	<3.4>	<1.25>	<14.7>	波瀾質安山岩		完全未測	H10c
139	石器・石製品	加工痕のある剥片	<3.6>	<3.8>	<2.4>	<27.8>	チャート		完全未測	F16b
140	石器・石製品	加工痕のある剥片	<4.0>	<5.3>	<0.9>	<16.5>	波瀾質安山岩		完全未測	D10a カケラン
141	石器・石製品	加工痕のある剥片	<4.0>	<50.3>	<0.9>	<19.0>			完全未測	D9b
142	石器・石製品	加工痕のある剥片	<4.5>	<4.8>	<1.1>	<31.4>	頁岩		完全未測	B12a カケラン
143	石器・石製品	加工痕のある剥片	<4.0>	<5.8>	<0.9>	<17.5>	黒色頁岩		完全未測	I5d
144	石器・石製品	加工痕のある剥片	<6.1>	<4.1>	<1.3>	<34.5>			完全未測	D11a
145	石器・石製品	加工痕のある剥片	<5.0>	<4.5>	<1.3>	<32.2>	波瀾質安山岩		完全未測	H12G7
146	石器・石製品	加工痕のある剥片	<5.3>	<4.3>	<1.7>	<35.0>	波瀾質安山岩		完全未測	F7c
147	石器・石製品	加工痕のある剥片	<7.3>	<4.1>	<0.9>	<31.7>			完全未測	I1c
148	石器・石製品	加工痕のある剥片	<7.3>	<5.8>	<1.4>	<61.4>	波瀾質安山岩		完全未測	I10G カケラン
149	石器・石製品	加工痕のある剥片	<5.9>	<3.9>	<1.1>	<26.3>	波瀾質安山岩		完全未測	I12b
150	石器・石製品	加工痕のある剥片	<6.2>	<3.3>	<0.8>	<18.4>	波瀾質安山岩		完全未測	H10a
151	石器・石製品	石鏃	<5.7>	<5.2>	<1.95>	<73.5>			完全未測	C12a
152	石器・石製品	加工痕のある剥片	<6.4>	5.7	1.3	<55.4>	煤片質		完全未測	Z
153	銅製品	土鏡	2.4	2.4	1.0	2.9	「藤永通源」		完全未測・拓本	P4d
154	銅製品	古銭	2.4	2.35	1.0	<3.2>	「昭貫元鏡」裏		完全未測・拓本	D9G

## 引用・参考文献

- |       |                 |             |
|-------|-----------------|-------------|
| 1978年 | 平根村誌            | 平根小学校       |
| 1995年 | 佐久市志歴史編（一）原始・古代 | 佐久市志刊行会     |
| 2005年 | 聖原遺跡 第5分冊       | 佐久市教育委員会    |
| 2006年 | 文化としての縄文土器      | 榎雄山閣        |
| 2008年 | 総覧 縄文土器         | 榎アム・プロモーション |
|       | 川崎保             |             |
|       | 小林達雄            |             |





木遺跡全体図









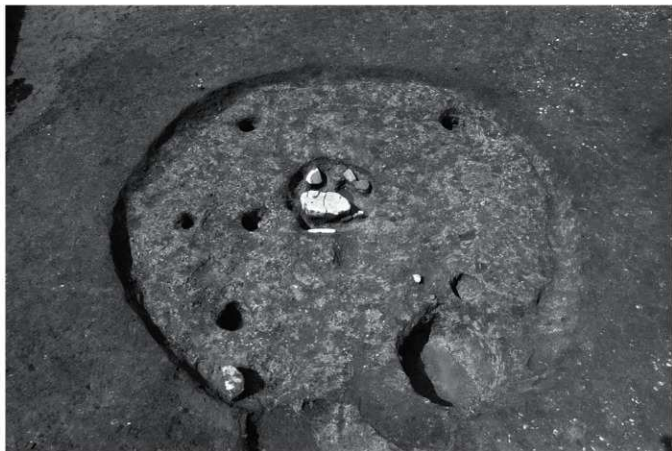
H 1号住居址



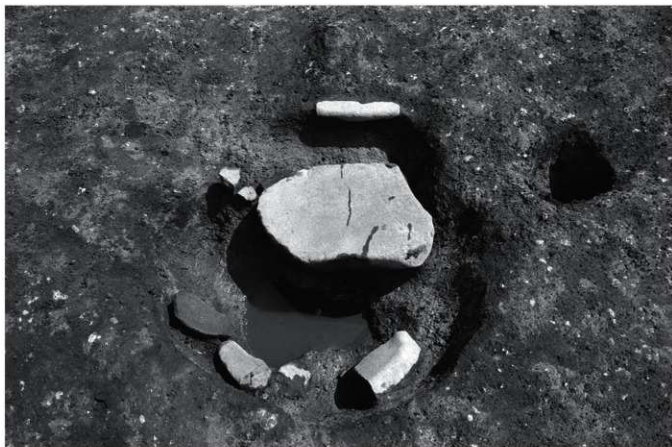
H 2号住居址



H 3号住居址



H 4号住居址



H 4 号住居址炉



H 5 号住居址



H 6号住居址



H 7号住居址



D 1号土坑、SD 3号集石土坑(石除去後)



D 2号土坑、SD 2号集石土坑



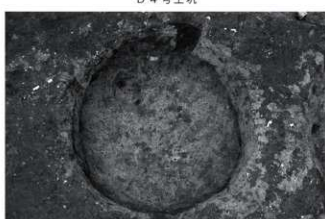
D 3号土坑



D 4号土坑



D 5号土坑



D 6号土坑



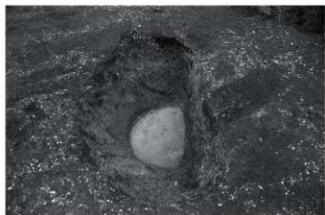
D 7号土坑



D 8号土坑



D 9号土坑



D 10号土坑



D 11号土坑



D 14号土坑



D 16号土坑



D 17号土坑



D 18号土坑



D 19号土坑





SD 1号集石土坑



SD 3号集石土坑



SD 4号集石土坑



SD 5号集石土坑 (井戸址)



SD 6号集石土坑、D 20号土坑



SD 8号集石土坑



SD 7号集石土坑



Ta 1号整穴建物址



Ta 2・3・4・5号整穴建物址



埋篋1(横出状況)



埋篋1(断面)



埋篋2(断面)



調査風景



調査風景



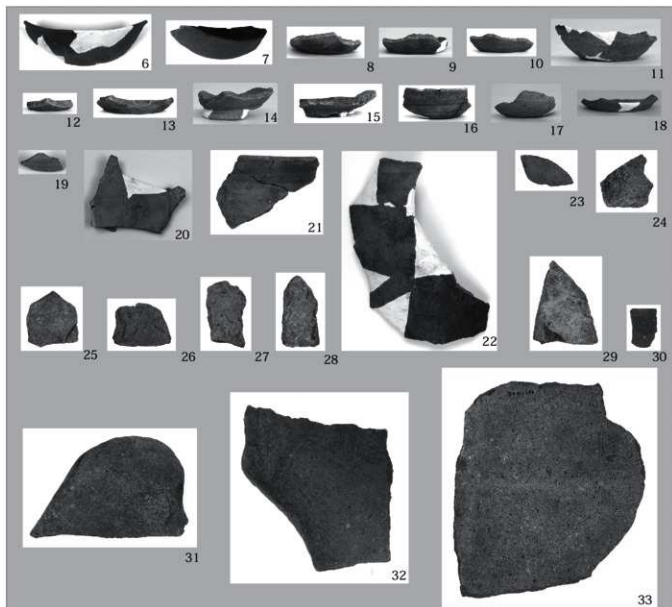
H 1号住居址出土遺物



H 2号住居址出土遺物



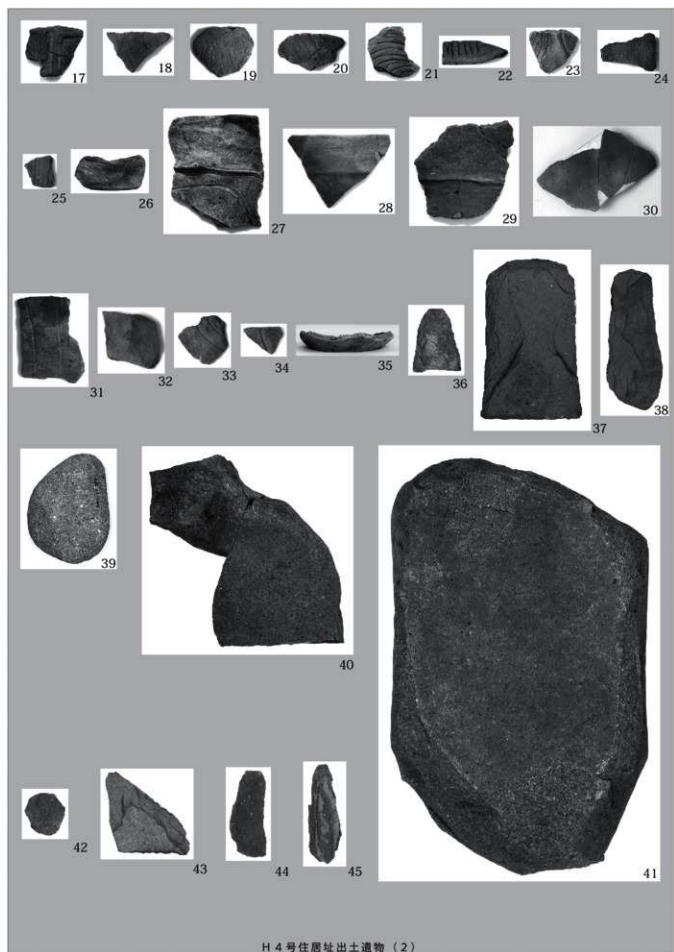
H 3号住居址出土遺物 (1)



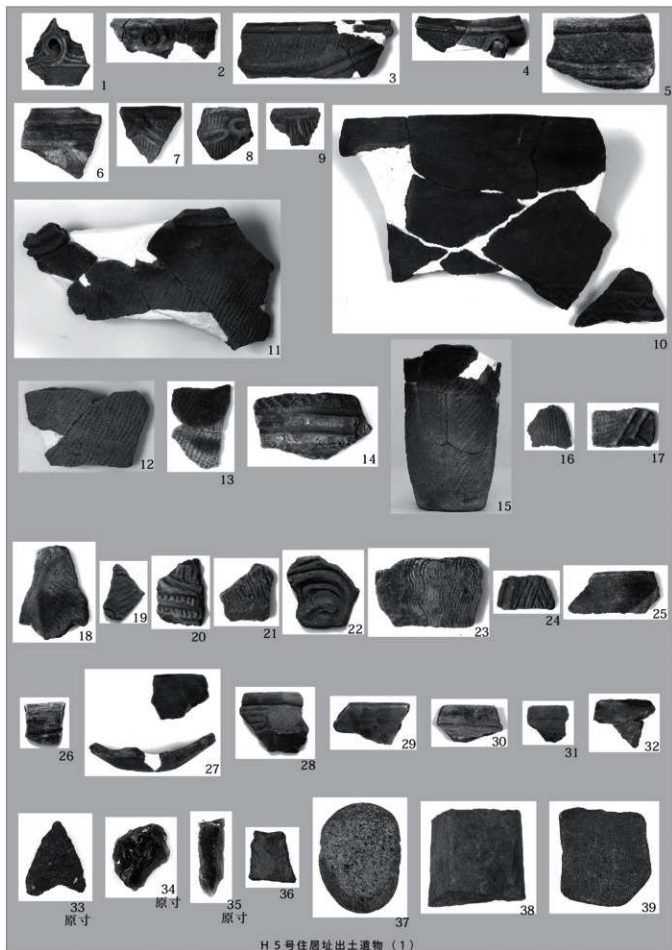
H 3号住居址出土遺物 (2)

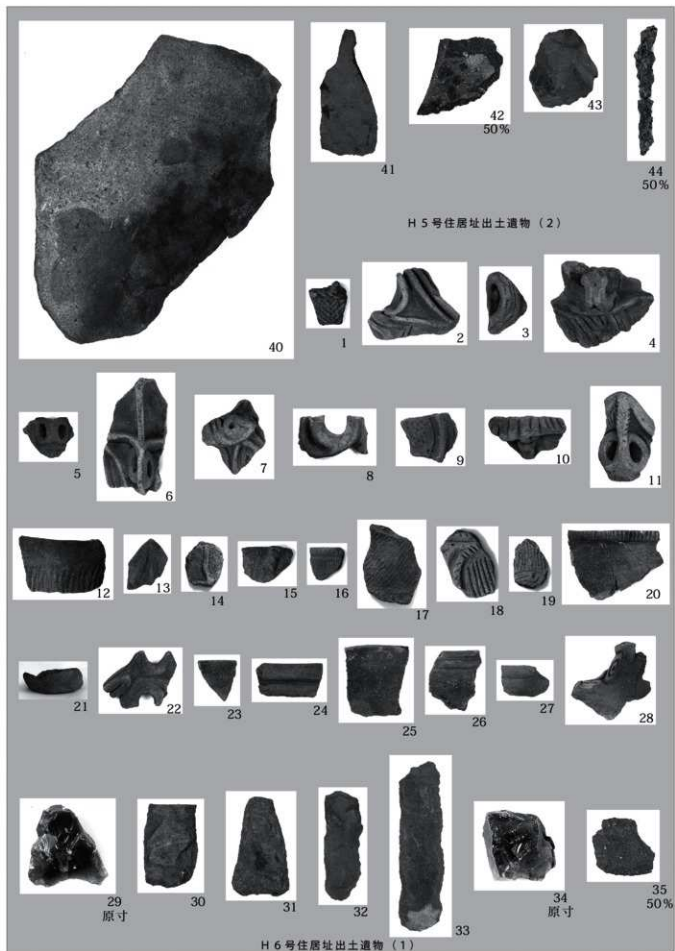


H 4号住居址出土遺物 (1)



H4号住居址出土遺物(2)









37



38



39



40



41



42



43

H 6号住居址出土遺物 (2)



1



2



3



4



5



6



7

H 7号住居址出土遺物



1



1



1



2



3



4

D 2号土坑出土遺物

SD 2号土坑出土遺物



5



6



7

D 3号土坑出土遺物



1



2



3



4



5



6



7



8



10



11



12



13

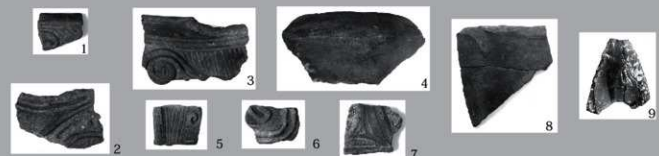


14

D 4号土坑出土遺物



D 5号土坑出土遺物



D 6号土坑出土遺物



D 7号土坑出土遺物



D 10号土坑出土遺物



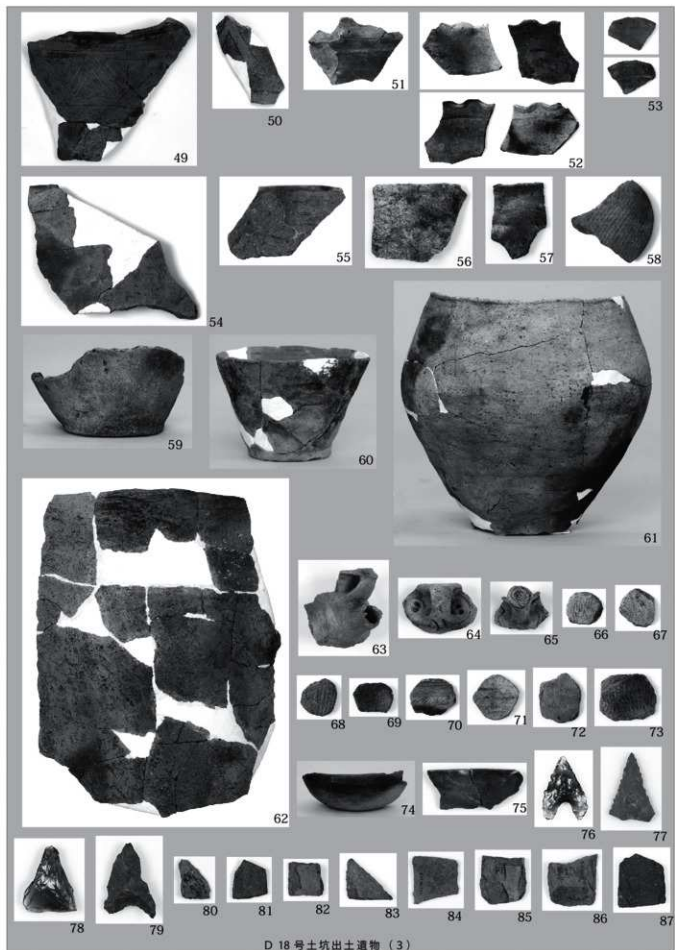
D 9号土坑出土遺物

D 15号土坑出土遺物

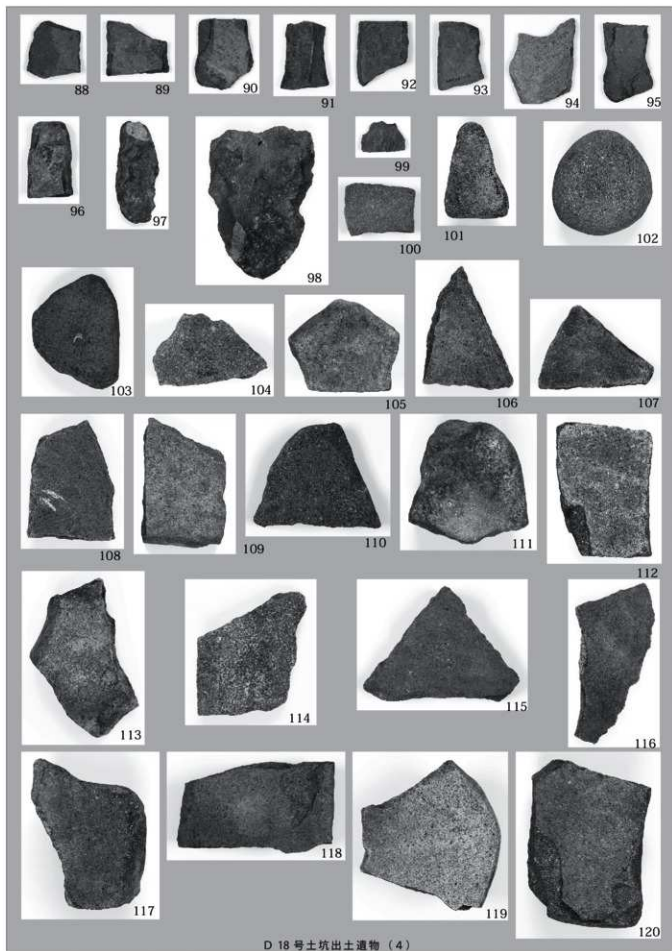
D 18号土坑出土遺物 (1)



D 18 号土坑出土遗物 (2)



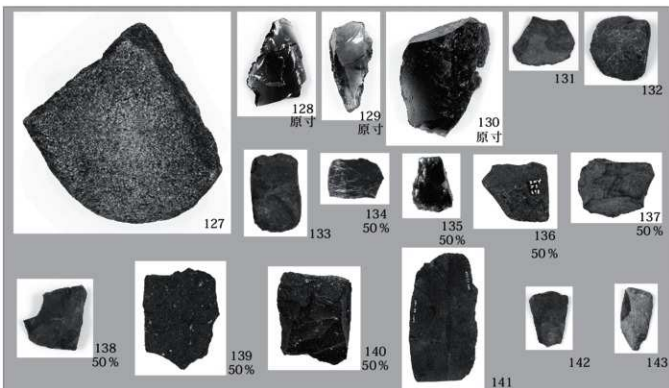
D 18 号土坑出土遺物 (3)



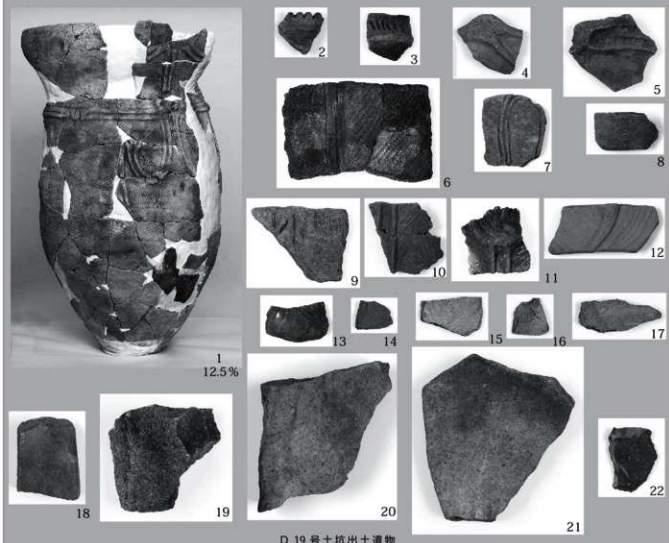
D 18 号土坑出土遗物 (4)



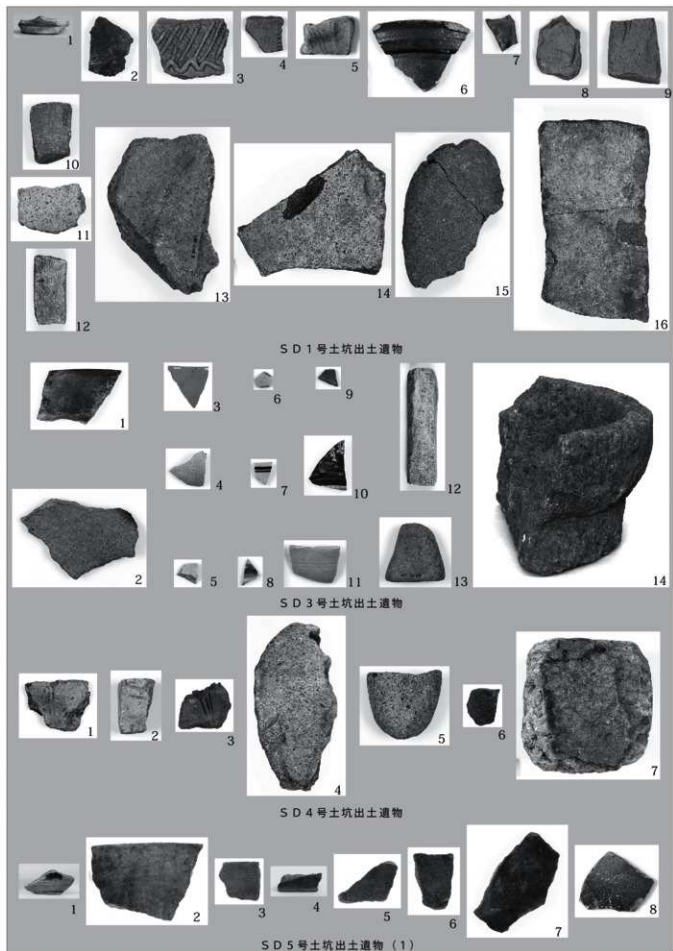
D 18号土坑出土遺物(5)



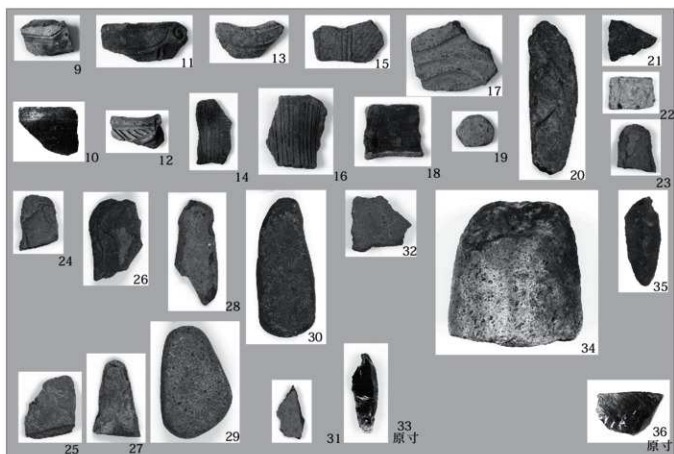
D 18 号土坑出土遺物 (6)



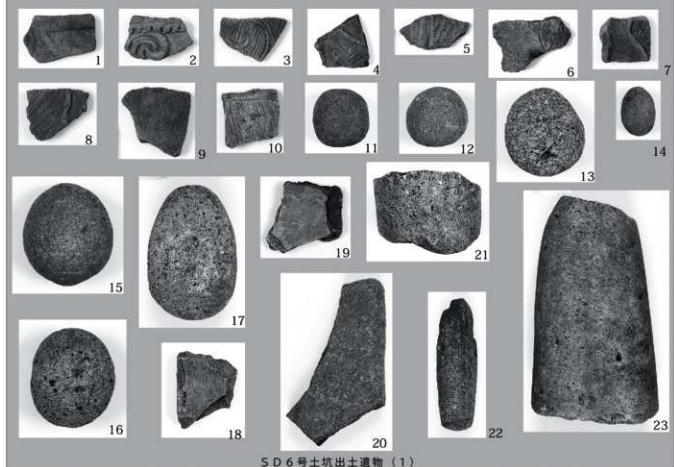
D 19 号土坑出土遺物







SD 5号土坑出土遺物 (2)



SD 6号土坑出土遺物 (1)



24

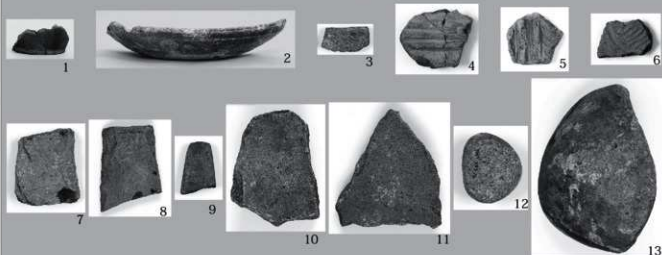


25



26

SD 6号土坑出土遺物 (2)

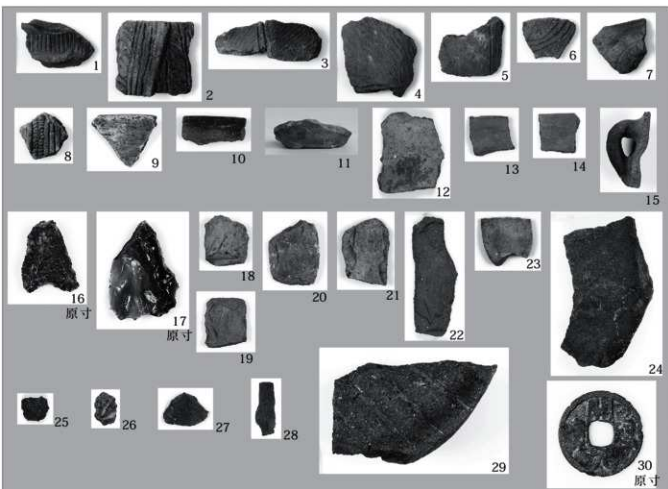


SD 7号土坑出土遺物



SD 8号土坑出土遺物

T a 1号竪穴建物址出土遺物



T a 2号竪穴建物址出土遺物



T a 3号竪穴建物址出土遺物



埋葬 2 出土遺物



埋葬 1 出土遺物



P 4



P 7 原寸



P 14 1



P 13



P 29

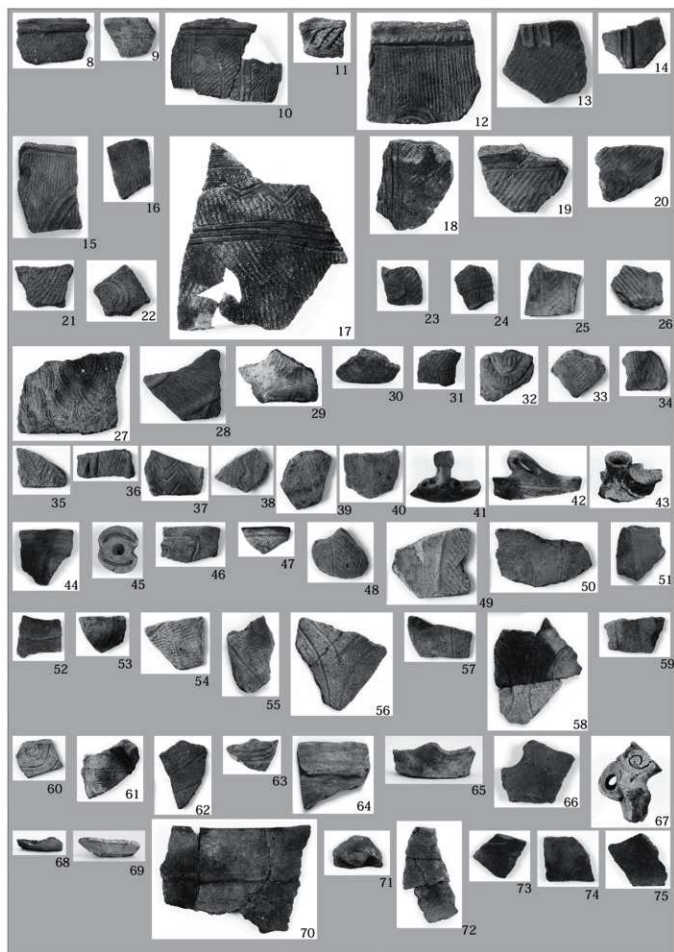


P 30

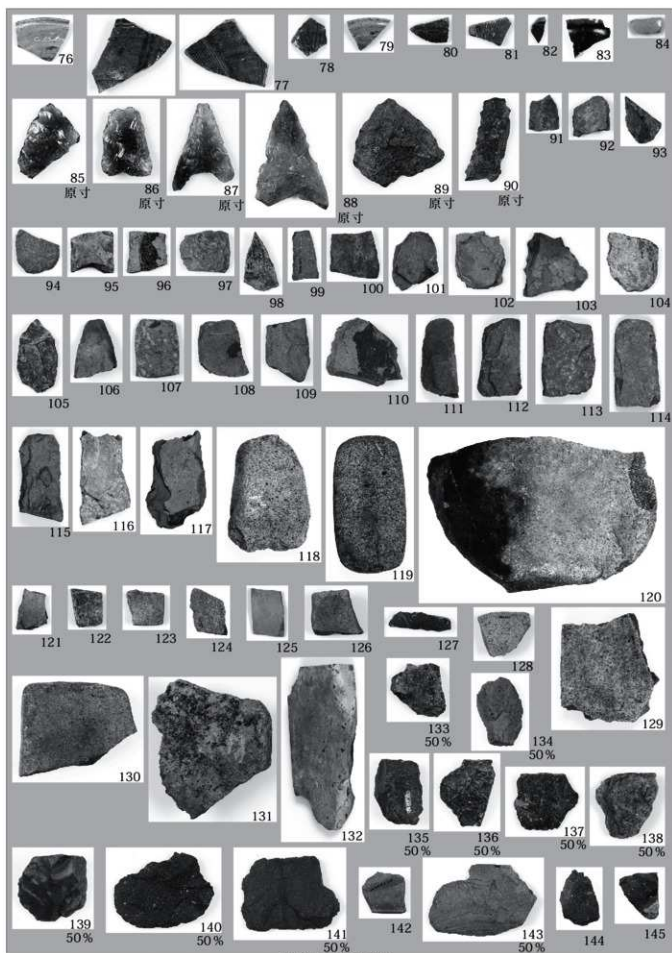


ビット出土遺物

遺構外出土遺物 (1)



遺構外出土遺物 (2)



遺構外出土遺物 (3)



遺構外出土遺物（4）

## 報告書抄録

上	り	が	名	ヒガシむらいせきぐん やまぶしざいせき																																													
書	名	東村遺跡群 山伏木遺跡																																															
副	書	名	—																																														
シ	リ	—	ズ	名	佐久市埋蔵文化財調査報告書																																												
巻	次	第 256 集																																															
編	集	者	名	小林眞寿																																													
編	集	機	関	佐久市教育委員会																																													
所	在	地	〒 385-0006 長野県佐久市中込 2913 ℡ 0267 - 63 - 5321																																														
発	行	年	月	日	2019年3月31日																																												
シ	リ	ガ	ナ	シ	リ	ガ	ナ	コ	—	ド	北	緯	東	経	調	査	期	間	調	査	面	積	調	査	原	因																							
所	収	遺	跡	名	所	在	地	市	町	村	遺	跡	番	号	36° 16' 24"	138° 30' 24"	989年6月28日	—	1,900㎡	宅	地	造	成																										
山	伏	木	遺	跡	長	野	県	佐	久	市	大	字	下	平	尾	山	伏	木	1274-6	他	20217	131-1	—	—	2019年3月31日	—																							
所	収	遺	跡	名	種	別	主	な	時	代	主	な	遺	構	主	な	遺	物	特	記	事	項																											
山	伏	木	遺	跡	集	落	縄	文	・	平	安	・	中	近	世	竪	穴	住	居	址	7	軒	・	土	坑	20	基	・	集	石	土	坑	8	基	縄	文	土	器	・	土	師	器	・	石	器	陶	磁	器	—
要	約	沖積地における縄文集落の調査。																																															

---

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第 256 集

東村遺跡群

山伏木遺跡

平成 31 年 (2019) 3 月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒 385-8501 長野県佐久市中込 3056

社会教育部 文化振興課文化財事務所

〒 385-0051 長野県佐久市中込 2913

☎ 0267-63-5321

印刷所

---











